

昭和十年度第一豫備金支出ノ件	
昭和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件	
昭和十年度特別會計豫備費支出ノ件	
昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件	
自昭和十一年一月至同 年三月 昭和十年度第二豫備金支出ノ件	
自昭和十一年一月至同 年三月 昭和十年度豫備金外ニ於テ豫算 超過及豫算外支出ノ件	
自昭和十一年一月至同 年三月 昭和十年度特別會計第二豫備金 支出ノ件	(承諾ヲ求ムル件)
自昭和十一年一月至同 年三月 昭和十年度特別會計豫備金外ニ 於テ豫算超過及豫算外支出ノ件	(内容浩瀚ナルニ依リ 掲載ハ之ヲ省略ス)
昭和十一年度第二豫備金支出ノ件	
昭和十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件	
昭和十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外 支出ノ件	

右ハ昭和十二年七月三十日本院ニ提出ス同月三十一日之ヲ會議ニ付シ中村大藏參與官ハ左ノ趣旨  
辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ昭和十年度第一豫備金支出外十件ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キ、  
其大體ノ説明ヲ致サウト存ジマス、昭和十年度第一豫備金ノ豫算額ハ六百万圓デアリマスガ、  
昭和十年勅令第二百六十八號ニ依リ、第一豫備金ヨリ補充致シマシタル主ナル事項ハ、檢丁及  
新兵旅費、軍事救護費、内國稅拂戻金、海軍主食品購買費、刑務所收容費等デアリマシテ、其  
總額ハ六百万圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第一豫備金又ハ豫備費ヨリ豫算超  
過ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、次ニ昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出ニ付申上ゲマス、  
昭和十年度滿洲事件第一豫備金ノ豫算額ハ五百万圓デアリマスガ、昭和十年勅令第二百六十八  
號ニ依リ、滿洲事件費ニ補充致シマシタル金額ハ五百万圓デアリマス、次ニ昭和十一年一月ヨ  
リ三月ニ至ル間ニ於ケル昭和十年度第二豫備金支出ニ付申上ゲマス、昭和十年度第二豫備金ノ  
豫算額及ビ其支出總額ハ二千三百萬圓デアリマシテ、内昭和十年十二月以前ノ支出ニ係ル千九  
百二万八千五百六十六圓ハ、既ニ第六十九回帝國議會ニ於テ御承諾ヲ得テ居リマスガ、其後昭和十  
一年一月及ビ同二月中ニ支出致シマシタル金額ハ三百九十七万九千四百四十四圓デアリマス、其内主  
ナル事項ヲ擧ゲマスレバ、衆議院議員總選舉諸費補足、衆議院議員總選舉檢察費補足、災害地  
方尋常小學校費臨時補助、東北地方其他各地冷害應急施設費等デアリマス、各特別會計ニ於キ  
マシテモ、其第二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲナシタルモノガアリマス、次ニ昭和十年度豫備  
金外支出ニ付申上ゲマス、昭和十一年一月衆議院解散ノ結果、緊急支出ヲ要スル費途ニ對シ、  
政府ハ已ムヲ得ズ昭和十一年二月一日ヨリ三月三十日ニ至ル間ニ於テ、國庫剩餘金及公債金ノ  
繰入ヲ以テ、豫算超過及豫算外ノ支出ヲナシタルモノガアリマス、其内主ナル事項ヲ擧ゲマス  
レバ、國庫剩餘金支出ニ依リマシタモノハ、内國稅拂戻金、恩給、臨時警備諸費等デアリマシ  
テ、公債金ノ繰入ニ依リマシタモノハ、北海道及青森外八縣應急土木事業助成費、關東及關西  
地方其他各地風水害復舊施設費、東北地方其他各地冷害應急施設費等デアリマシテ、其總額ハ  
千四十七万五千七百五圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其國庫剩餘金ヲ以テ豫算超  
過及豫算外ノ支出ヲナシタルモノガアリマス、次ニ昭和十一年度第二豫備金支出ニ付申上ゲマ



ス、昭和十一年度第二豫備金ノ豫算額ハ二千三百萬圓デアリマシテ、昭和十一年四月ヨリ同年十二月ニ至ル間ニ於ケル支出總額ハ九百三十九萬五千五百九十九圓デアリマス、其内主ナル事項ヲ舉ゲマスレバ、電信料補足、臨時警備諸費、水陸整備費補足、航空隊設備費補足、艦船其他損傷復舊費等デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲナシタルモノト、豫備金外ニ於テ其國庫剩餘金ヲ以テ、豫算外ノ支出ヲナシタルモノトガアリマス、何卒御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

次テ右十一件ハ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ委員會ハ審査ノ末孰レモ承諾ヲ與フヘキモノト決シ八月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ十一件ヲ一括シテ會議ニ付シ委員長坂東幸太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

簡單ニ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ三回開會致シマシタ、委員長ニハ不肖坂東當選致シマシタ、二三ノ人カラ質疑ガアリマシタガ、之ニ對シマシテ大藏政府委員ノ中村三之丞君竝ニ大藏政府委員ノ氏家武君カラ答辯ガゴザイマシタ、而シテ滿場ハ其答辯ヲ諒ト致シマシテ、質疑ハ終了シ、本日ノ午前中岡田春夫君カラ質疑終了ノ動議ガ出テ決定シ、採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ以上十一案ハ承認スルコトニ決定致シマシタ、以上簡單ニ御報告申上ゲマス

院議異議ナク孰レモ承諾ヲ與フルニ決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月七日孰レモ承諾ヲ與フルニ決シ其ノ旨奏上セリ

## 第四項 法律案

### 第一 政府提出法律案

#### 一 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案

##### 農村負債整理資金特別融通及損失補償法

第一條 市町村又ハ産業組合中央金庫ハ負債整理事業ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

産業組合中央金庫ノ爲ス前項ノ特別融通ハ所屬信用組合ガ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ場合又ハ所屬信用組合ガ其ノ組合員タル負債整理組合若ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ負債整理資金ヲ融通スル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ信用組合ニ對シ之ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行、農工銀行又ハ北海道拓殖銀行(以下融資銀行ト稱ス)ハ負債整理組合ノ組合員、農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ組織者又ハ命令ノ定



ムル所ニ依リ負債ノ整理ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得  
 第二條 市町村、産業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ前條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得  
 ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十五年ヲ超ユル  
 コトヲ得ズ

第三條 融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル貸付金額ハ日本勸業銀行  
 法第十八條又ハ農工銀行法第十條ノ規定ニ拘ラズ其ノ擔保タル不動産ニ付鑑定シタル價格以  
 内トス

第四條 産業組合中央金庫特別融通及損失補償法第三條及第四條ノ規定ハ産業組合中央金庫ガ  
 第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ、不動産融資及損失補償法第四條及第五條ノ規定  
 ハ融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五條 北海道府縣ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失ヲ受ケタルトキ  
 之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以内ノ金額(市町村ニ對スル損失補償金)ヲ補償スルノ  
 契約ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ市町  
 村ニ對スル損失補償金ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ  
 市町村ニ對スル損失補償金中其ノ六分ノ一ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テ負擔スベキ旨  
 ヲ定ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合  
 ニ付別段ノ定ヲ爲シ又ハ市町村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコトヲ得

第六條 政府ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ産業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ損  
 失ヲ受ケタルトキハ産業組合中央金庫ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以内、融資銀  
 行ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ二以内ノ金額ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第七條 第五條第一項及前條ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條 第五條第二項及第六條ノ規定ニ依ル政府ノ補給金及補償金ノ總額ハ一億二千萬圓ヲ超  
 ヲコトヲ得ズ

第九條 第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村、産業組合中央金庫又ハ融資銀  
 行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ負債整理資金特別融通損失審査會之ヲ決定ス  
 負債整理資金特別融通損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第五條第二項及第六條ノ契約ニ基キ政府ガ北海道府縣、産業組合中央金庫及融資銀行  
 ニ對シ支拂フベキ補給金又ハ補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得



第十一條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得  
第十二條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム  
第十三條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

附則

第十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 農村負債整理組合法第三章ヲ削ル

從前ノ農村負債整理組合法第二十六條ノ規定ニ依ル特別融通ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但  
シ同法第三十一條第一項ノ規定ニ依ル決定ハ本法第九條ノ負債整理資金特別融通損失審査會  
之ヲ行フ

第十六條 農村負債整理組合法第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

負債整理組合ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業遂行ノ爲必要ナル土地ヲ取得スル場合亦前  
項ニ同ジ

同法第八條第二項及同法第十六條中「六年間」ヲ「十三年間」ニ改ム

第十七條 登録稅法第十九條但書中「第十四號乃至第十六號」ヲ「第十四號乃至第十七號」ニ改メ  
同條第十五號及第十六號ヲ左ノ如ク改ム

十五 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、  
負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ負  
債整理ノ爲ノ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

十六 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八  
條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタル者ガ  
其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、産業組合中央金庫、信用  
組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法  
人ノ所有權ノ取得ノ登記

十七 負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人  
ノ同法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記

右ハ昭和十二年七月二十五日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ有馬農林大臣ハ左  
ノ趣旨辯明ヲ爲ス

農村負債整理事業ハ昭和八年八月實施以來既ニ四年ヲ經過致シマシテ、相當ノ實績ヲ擧ゲツ、  
アルノデアリマスガ、之ヲ全國的ニ見マスト未ダ十分ナリト言フヲ得ナイノデアリマシテ、更  
ニ本事業ヲ擴大強化スルノ必要ガ認メラレルノデアリマス、農山漁村ニ於ケル中小産者ノ負債  
ハ尙ホ四十一億ノ巨額ニ達シマシテ、此負債ニ因ル重壓ヲ除クノデナケレバ、農山漁村民ノ更



生ハ到底望マレナイノデアリマシテ、此際負債整理制度ヲ更ニ擴大致シマシテ、今後一層其普及促進ヲ圖リマスコトハ洵ニ急務トスル所デゴザイマス、仍テ政府ハ茲ニ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、本案ノ要旨ト致シマスル所ハ、政府ノ損失補償ニ依リマシテ負債整理資金ヲ融通スル機關トシテ、市町村ノ外、産業組合中央金庫、日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ヲ認メマシテ、是ト同時ニ市町村ヲ經由シテ負債整理資金ヲ融通スル場合ノ政府ノ損失補償ノ割合ヲ増加シ、是等ニ對スル政府ノ損失補償金ノ總額ヲ一億二千萬圓ト致シマシテ、相當多額ノ資金ヲ融通致シマシテ、以テ負債整理事業促進ノ徹底ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決(附帶決議)スヘキモノト決シ八月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書附帶決議

政府ハ本法實施ニ當リテハ農村負債整理事業ノ徹底促進ヲ圖ルガ爲左ノ事項ヲ實行スベシ

- 一 本法ノ運用ニ當リテハ負債整理事業ノ本質ニ鑑ミ政府ハ債務者ノ負擔ニ歸スベキ利子ニ付極力其ノ低減ニ努ムベシ
- 二 市町村ヲ經由スル負債整理資金ノ原資ノ金利ハ他ノ機關經由ノモノト同率程度ニ引下グベシ

三 負債整理ノ爲ニスル負債ノ條件緩和ノ徹底ヲ圖リ特ニ融資銀行ヲシテ其ノ交渉ニ應ゼシメ苟モ本法制定ノ趣旨ニ反スルガ如キ結果ニ陥ルコトナキヤウ嚴ニ督勵スベシ

四 政府ハ本法及農村負債整理組合法ノ運用ニ關スル命令等ヲ制定又ハ改正スルニ當リテハ極力其ノ簡易化ニ努メ且其ノ手續及運行ノ敏速ヲ期スベシ

五 負債整理組合ノ組織ニ關シテハ組合員ノ資格員數等ニ關スル從來ノ形式的劃一的制限ヲ改廢シテ組合ノ設立ヲ容易ナラシメ負債整理普及促進ノ目的ヲ達スルニ遺憾ナカラシムベシ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長寺田市正君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

私ハ只今上程サレマシタ農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル三十日委員長、理事ノ選舉ヲ致シマシテ、委員長ニハ不肖私ガ、理事ニハ松田正一君、岡田喜久治君、吉植庄亮君、西川貞一君、此四君ガ當選サレマシタ、直チニ引續キ議案ノ審査ニ入りマシテ、先ヅ有馬農林大臣カラ提案ノ御説明ガゴザイマシテ質疑ニ入ッタ譯デアリマス、本案ハ御承知ノ通り前議會、第七十議會ニ提案サレマシタ政府ノ原案ト全ク同一ノ原案デゴザイマシテ、既ニ其際質疑討論等モ十分盡サレタノデゴザイマシタガ、併シ當局者ガ迭テ居リマシタガ故ニ、十分ノ質疑ヲ盡シタイト云フコトデアリマシテ、先ヅ質疑ヲ爲サイマシタ方ガ松田正一君、三善信房君、西川貞一君、山川賴三郎君、北勝太郎君、須永好君、小山亮君、木村武雄君、西方利馬君、田中邦治君、平野力三君カラ、三日間ニ互リマシテ熱心ナル御質問デゴザイマシタ、之ニ對シマシテ農林大臣初メ政府委員ノ方々カ



ラ懇切ナル御答辯ガゴザイマシタ、其中二三ノ主ナル點ダケヲ一寸御紹介申上ゲテ置キタイノデアリマス、先ツ第一ニ金融機關ヨリノ負債ガ整理ノ對象トナリマシタ場合、特ニ融資銀行ヨリノ負債ガ整理ノ對象トナリマシタ場合ニ、是等ノ金融機關ヲシテ十分條件緩和ヲ爲サシメナケレバ、却テ金融機關救済ノ爲ニ本制度ガ利用サレルト云フ結果トナルノデハナイカ、サウ云フコトニナリマス、本制度制定ノ趣旨ニ反スルコトトナル虞ガアルガ、政府ニ於テ此對策ガアルカト云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ヨリモ、此質問ノ趣旨ニハ全ク同感デアルカラ、金融機關ノ協力ニ依ッテ、負債整理ノ趣旨ヲ達成シ得ルヤウ、十分監督指導ニ努メル考デアルト云フ御答辯デゴザイマシタ、其次ニハ負債整理組合ノ設立等ニ關スル手續ガ甚ダ煩雜デアルガ、之ヲモット簡易ニシテ、其普及ヲ圖ル必要ガアルト思フガ、政府ハ之ニ對シテドシナ考ヲ持ッテ居ルカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シマシテ政府ヨリハ、本案ノ實施ト共ニ、從來負債整理事業ノ進捗ノ障礙トナッテ居ッタ諸點ヲ出來ルダケ排除シテ、關係官廳ニ於テモ十分連絡協調シテ、組合普及ニ努メル考デアルト云フ御答辯デアリマシタ、其次ニハ負債整理ノ進捗ノ爲ニハ、債權者、債務者ノ間ニ立チテ負債整理ノ調停ヲ爲ス特別ノ官吏ヲ、各府縣ニ設置スル必要ガアルト思フガ、政府ハ如何ナル所見ヲ持ッテ居ルカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シマシテモ、政府ハ全ク同感デアルカラ、何トカ然ルベク考慮スルト云フ御答辯ガアッタノデアリマス、最後ニ今一ツ申上ゲテ置キマスガ、負債整理事業ハ信用組合ヲシテ之ニ積極的ノ關與ヲ持タシメナケレバ、其普及モ困難デアリ、且ツ整理ノ效果モ擧ゲラレナイノデアルガ、從來ハ兎角信用組合ノ負債整理事業ニ對スル關與ガ不十分デアッタ、將來ハ是非此信用組合ヲシテ積極的ニ關與セシムルヤウニ指導督勵ヲ加ヘル考ガアルカドウカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ヨリハ本制度實施ノ上ハ、廣ク信用組合ノ負債整理事業ノ代行ヲ認メル考デアリ、十分信用組合ヲシテ負債整理ニ協力セシムル考デアルト云フ御答辯デアリマシタ、其他尙ホ詳細ノ點ハ速記録デ御承知ヲ御願申上ゲテ置キマス、是等ノ質疑ガ終局致シマシテ討論ニ入ッタノデアリマス、討論ニ入りマシテ、先ツ第一民政黨ノ岡田嘉久治君ガ、原案賛成ノ趣

旨ヲ詳細ニ御述ニナリ、併シ此原案ダケハ不十分デアルカラ、左記五項ノ附帶決議ヲ附シタイト云フ御希望デアッタノデアリマス、其附帶決議ヲ茲ニ讀上ゲマス

- 一 政府ハ本法實施ニ當リテハ農村負債整理事業ノ徹底促進ヲ圖ルガ爲左ノ事業ヲ實行スベシ
    - 一 本法ノ運用ニ當リテハ負債整理事業ノ本質ニ鑑ミ政府ハ債務者ノ負擔ニ歸スベキ利子ニ付極力其ノ低減ニ努ムベシ
    - 二 市町村ヲ經由スル負債整理資金ノ原資ノ金利ハ他ノ機關經由ノモノト同率程度ニ引下グベシ
    - 三 負債整理ノ爲ニスル負債ノ條件緩和ノ徹底ヲ圖リ特ニ融資銀行ヲシテ其ノ交渉ニ應ゼシメ荷モ本法制定ノ趣旨ニ反スルガ如キ結果ニ陥ルコトナキヤウ嚴ニ督勵スベシ
    - 四 政府ハ本法及農村負債整理組合法ノ運用ニ關スル命令等ヲ制定又ハ改正スルニ當リテハ極力其ノ簡易化ニ努メ且其ノ手續及運行ノ敏捷ヲ期スベシ
    - 五 負債整理組合ノ組織ニ關シテハ組合員ノ資格、員數等ニ關スル從來ノ形式的劃一的制限ヲ改廢シテ組合ノ設立ヲ容易ナラシメ負債整理普及促進ノ目的ヲ達スルニ遺憾ナカラシムベシ
- 此附帶決議ヲ附シテ原案ヲ賛成サレタノデアリマス、之ニ對シマシテ政友會ノ吉植庄亮君、第一議員俱樂部ノ平野力三君、社會大眾黨ノ須永好君、東方會ノ木村武雄君、第二控室ノ小山亮君、何レモ皆此原案ニ賛成シ、且ツ此附帶決議ニ賛成ト云フ希望ヲ述ベラレタノデアリマスガ、唯其中ニ社會大眾黨ノ須永君カラハ、斯ウ云フ希望ヲ述ベラレタノデアリマス、希望條項トシマシテ
- 一 政府ハ負債整理組合法金錢債務臨時調停法等ノ運用ニ改善ヲ加ヘ以テ債務ノ條件緩和ヲ圖リ不合理ナル高利債ニ苦シム貧農ノ負債整理ノ促進ヲ圖ルベシ
  - 二 政府ハ農村ニ於ケル不合理ナル高利債ノ今後ノ増加ヲ抑止シ且惡竦ナル債權取立ヲ防止スル爲ニ惡金融業者竝ニ惡「ブローカー」ノ取締ヲ嚴重ニスベシ



三 政府ハ速ニ低利ナル農業中期並ニ短期信用ヲ與フ爲メ適當ナル方策ヲ樹立スベシ  
四 政府ハ信用組合並ニ負債整理組合ガ小作農民ニ資金貸付ニ際シ甘土代及作株等ヲ信用對

象トスルヤウ取計フベシ

斯ウ云フ希望條項ヲ附ケラレタノデアリマス、ソコデ討論ガ終局致シマシタカラ、採決ニ入りマシテ全員一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、續イテ附帶決議ノ採決ヲ致シマシタガ、岡田君提出ノ附帶決議ニ又全員一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、須永君ノハ希望トシテ述ベラレタノデアリマスガ、動議トシテハ成立致シマセヌデシタカラ、採決ニハ及ンデ居リマセヌ、以上ノヤウナ次第以テ原案ヲ可決シ、且ツ附帶決議ヲ一致デ以テ可決致シマシタガ、此附帶決議ニ對スル政府、特ニ現在ノ農林當局ノ所信ヲ伺ヒタイト云フ西方委員カラノ申出ガアリマシタガ、ソレハ何レ本會議デ農林大臣カラノ御言明ガアルコトダラウト云フノデアリマシタ、此段御報告ヲ申上ゲテ置キマス

有馬農林大臣ハ發言ヲ求メ政府ノ所見ヲ述フ

只今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ附帶決議ノ事項ハ、何レモ重要ナ點ト考ヘマスノデ、本法ノ施行ニ當リマシテハ十分其點ニ注意ヲ致シマシテ、御希望ノ點ガ實現致シマスルヤウニ努力ヲ致ス積リデゴザイマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月六日可決奏上シ同月十四日法律第七十七號ヲ以テ公布セラル

## 二 人造石油製造事業法案

### 人造石油製造事業法

第一條 本法ハ液體燃料ノ供給ヲ確保スル爲人造石油製造事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 人造石油製造事業ヲ營メントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ人造石油製造事業ノ範圍及許可ニ關シ必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(人造石油製造會社)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業



ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

人造石油製造會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 人造石油製造會社ノ營ム人造石油製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第六條 人造石油製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間人造石油製造會社ニハ其ノ事業ニ對シ又ハ其ノ事業ニ屬スル資本金額、從業者、製造若ハ加工ノ用ニ供スル器具機械類、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ

第八條 人造石油製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ七年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第九條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル人造石油ニ付獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十一條 人造石油製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 人造石油製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 人造石油製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ



之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 人造石油製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

人造石油製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ人造石油製造會社ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十六條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ販賣價格ノ變更其ノ他販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ改善ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ製造ニ關スル特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 人造石油製造會社ハ其ノ所有スル人造石油ヲ政府ガ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ標準トシテ購入セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十九條 政府第二條ノ處分又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ液體燃料委員會ノ議ヲ經ベシ

液體燃料委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 人造石油製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ人造石油製造事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 人造石油製造會社第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ其



ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 人造石油製造會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタルトキ

二 第十三條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

四 第十五條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十五條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ之ヲ竊用シタルトキハ一年以下ノ徵役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 人造石油製造會社ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限り命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第十五條第一項第三項、第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

石油業法第八條第一項中「石油業委員會」ヲ「液體燃料委員會」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

三 帝國燃料興業株式會社法案

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

一八七



帝國燃料興業株式會社法

第一章 總則

第一條 帝國燃料興業株式會社ハ人造石油製造事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條 帝國燃料興業株式會社ノ資本ハ一億圓トシ内五千萬圓ハ政府ノ出資トス

帝國燃料興業株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第三條 帝國燃料興業株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第四條 帝國燃料興業株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第五條 帝國燃料興業株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ

シテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數

ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 帝國燃料興業株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ受

ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 帝國燃料興業株式會社ニ非ザルモノハ帝國燃料興業株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以

テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第八條 帝國燃料興業株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上又監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ帝國燃料興業株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ業務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ハ

四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受

ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營業

第十二條 帝國燃料興業株式會社ハ人造石油製造事業ニ對スル投資ヲ爲スモノトス

帝國燃料興業株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外人造石油ノ製造又ハ販賣其ノ他本

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案



會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

#### 第四章 燃料興業債券

第十三條 帝國燃料興業株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ燃料興業債券ヲ發行スルコトヲ得

燃料興業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十四條 燃料興業債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ燃料興業債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 燃料興業債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十七條 燃料興業債券ノ所有者ハ帝國燃料興業株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十八條 帝國燃料興業株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ燃料興業債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊燃料興業債券ヲ償還スベシ

#### 第五章 準備金

第十九條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

#### 第六章 監督及助成

第二十條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 帝國燃料興業株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十三條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十四條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ人造石油製造事業ノ振興上其ノ他公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ニ關シ軍事上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ帝國燃料興業株式會社監理官ヲ置キ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社ノ金庫、帳簿及



諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

帝國燃料興業株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
第二十八條 政府帝國燃料興業株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第三十條 帝國燃料興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ第三營業年度迄ニ在リテハ年百分ノ四、第四營業年度以降ニ在リテハ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ第十營業年度迄之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ第四營業年度以降每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ

支拂ヒタル燃料興業債券ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第十營業年度迄每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條 帝國燃料興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府



以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條 帝國燃料興業株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間帝國燃料興業株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

#### 第七章 罰則

第三十四條 帝國燃料興業株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

- 一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
- 二 第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ
- 三 第十三條ノ規定ニ違反シ燃料興業債券ヲ發行シタルトキ
- 四 第十八條ノ規定ニ違反シ燃料興業債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第三十五條 帝國燃料興業株式會社ノ總裁、副總裁及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

#### 附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 政府ハ設立委員ヲ命ジ帝國燃料興業株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十三條 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受ク



ベシ

第四十四條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

シ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十五條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ帝國燃料興業株式會社總裁ニ引渡スベシ

渡スベシ

第四十七條 登録税法第六條第一項第十一號中「又ハ東北興業債券」ヲ「東北興業債券又ハ燃料興業債券」ニ改ム

興業債券」ニ改ム

右二及三ノ兩案ハ昭和十二年七月二十五日孰レモ本院ニ提出ス同月二十九日二、三及四ノ三案ヲ

一括シテ第一讀會ヲ開キ吉野商工大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ法案ニ付キマシテ、先ヅ人造石油製造事業法案及ビ帝國燃料興業株式會社法案カラ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、液體燃料ハ産業上及ビ國防上必要缺クベカラザル基礎的資源デアリマスガ、我國ハ遺憾ナガラ石油資源ニ乏シイノデアリマシテ、大部分ハ外國カラ原料又ハ製品トシテ輸入スルコトヲ餘儀ナクセラレマシテ、此爲ニ毎年巨額ノ海外支拂ヲ致シテ居ル有様デアリマス、而モ逐年著シイ需要増加ノ趨勢ニアリマスノデ、此外國依存ノ我が

石油事業ヲ打開シ、液體燃料ノ自給ヲ促進致シマシテ、産業ノ發展ト國防ノ安固ヲ期スルト共ニ、國際貸借ノ改善ヲ圖リマスコトハ、現下内外ノ情勢ニ鑑ミマシテ最モ急務デアルト信ズルノデアリマス、固ヨリ液體燃料ノ自給促進ヲ圖ル爲ニハ、色々ノ施設ヲ爲スコトガ必要デアリマシテ、特ニ天然石油以外ノ原料カラ人工的ニ液體燃料ヲ製造スル所ノ人造石油製造事業ノ、本格的確立ヲ圖リマスコトモ甚ダ緊要デアリマシテ、且ツ有效適切ナル方策デアルト考ヘルノデアリマス、幸ニ人造石油ノ原料タル石炭ハ、我國ニ於キマシテ相當豐富デアリマスルシ、且ツ滿洲國ニ於キマシテモ石炭資源ニ恵マレテ居ルノデアリマスカラ、兩國ヲ通ジマシテ綜合的ニ本事業ノ確立ヲ圖ル方針デアリマス、而シテ本事業振興計畫ノ目標ト致シマシテハ、液體燃料ノ中特ニ主要ナル揮發油及ビ重油ノ生産ニ重點ヲ置キマシテ、日滿兩國ヲ通ジマシテ差當リ七箇年計畫ヲ以テ各、年産百万軒ヲ生産セシメントスルノデアリマス、而シテ本事業ハ全ク新規ノ事業デアリマシテ、是ガ爲ニハ多大ノ努力ヲ要スルノデアリマスカラ、本事業ヲ政府ノ許可事業ト致シマシテ、其統制アル發達ヲ圖ルコトト致シ、又獎勵金ノ交付、租税ノ免除ナドノ保護助成ヲ爲スト共ニ、政府ノ指導監督ヲ加ヘマシテ事業ノ合理的經營ヲ促進シ、斯業ノ確立ヲ期スル爲メ、人造石油製造事業法ヲ制定スルコトト致シマシタ次第デアリマス、更ニ此事業ヲ遂行致シマスル爲ニハ巨額ノ資金ヲ必要トシ、其圓滑ナル調達ニ對シマシテモ適當ナル援助ヲ與ヘナケレバ、到底所期ノ目的ヲ達成スルコトハ困難ト考ヘルノデアリマス、仍テ政府ニ於キマシテハ其資金ノ圓滑ナル調達ニ援助ヲ與フルト共ニ、所期ノ計畫實現ヲ促進致シマスルガ爲ニ、茲ニ半官半民ノ資本組織ニ依ル資本金一億圓ノ特殊會社ヲ設立致サセマシテ、政府ハ之ニ對シテ五千万圓ヲ出資スルト共ニ、配當補給、社債ノ元利支拂ノ保證、租税ノ免除等特別ノ保護助成ヲ與ヘントスルノデアリマス、是ガ爲メ帝國燃料興業株式會社法ヲ制定スルコトト致シマシタ次第デアリマス、此兩法案ハ御承知ノ通り前議會ニモ提出致シマシタノデアリマスルガ、人造石油製造事業法ニ付キマシテハ、前議會ニ提案致シマシタモノニ極ク少シノ修正ヲ加ヘマシタノミデアリマシテ、帝國燃料興業株式會社法案ハ前議會ニ提出シタモノ其儘ヲ、再ビ提出致シマ



シタ次第デアリマス、次ニ製鐵事業法案ノ提案ノ理由ヲ御説明致シマス、本邦ノ製鐵事業ハ最近長足ノ進歩發達ヲ遂ゲタノデアリマスルガ、斯業ノ内容ヲ見マスルニ、銑鐵、屑鐵、鐵鑛石ナドノ製鐵原料ハ、年々大量ノ輸入ヲ必要ト致シテ居リマスルノデ、未ダ以テ外國依存ノ状態ヲ脱スルコトガ出來ナイノデアリマス、隨ヒマシテ製鐵國策ノ根本ト致シマシテハ、速ニ鐵鋼ノ自給ヲ圖リ、各種産業ノ發展ニ寄與スルノ外、外國依存ノ現狀ヲ是正致シマシテ、尙ホ進ンデハ鐵鋼製品ノ海外輸出ノ進展ニ努メマスルト共ニ、併セテ原料資源確保ノ方策ヲ樹立致シマシテ、産業上竝ニ國防上遺憾ナキヲ期スルニアルト考ヘルノデアリマス、政府ニ於キマシテモ從前ヨリ各種ノ施設ヲ行ッテ參ッタノデアリマスルガ、我國ノ製鐵事業ノ現狀ヨリ致シマスルニ、此際進ンデ銑鋼一貫作業ヲ徹底シ、其他合理的設備ノ擴張ニ便宜ナラシメ、又砂鐵、貧鑛等ノ使用獎勵ヲ爲スト共ニ、他面外國屑鐵ニ依存スルガ如キ設備ノ濫設ヲ防止シ、其他斯業ニ對シテ適當ナル監督ヲ加ヘ、鐵鋼事業ノ調節ヲ圖リ、以テ斯業ノ健全ナル發達ヲ期スルコトガ肝要デアルト考ヘルノデアリマス、仍テ茲ニ製鐵業獎勵法ニ代ヘマシテ新ニ製鐵事業法ヲ制定致シマシテ、斯業ニ對スル適切ナル保護助長ノ施設ヲ講ズルト共ニ、斯業ニ許可制度ヲ施行致シマシテ、之ニ適當ナル監督ヲ加ヘントスル次第デアリマス、此法案モ前ノ議會ニ提案シタノデアリマスルガ、之ニ今回ハ二三ノ修正ヲ施シマシテ、再ビ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アラント御願致シマス

次テ二及三ノ兩案ハ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決(孰レモ附帶決議及希望條項ヲ附ス)スヘキモノト決シ八月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二ニ對スル委員會報告書附帶決議及希望條項

附帶決議

- 一 本事業ノ成否ハ國防、産業竝國民生活ニ重大關係ヲ有スルノミナラス財政上尠カラサル負擔ヲ増加スヘキヲ以テ政府ハ事業ノ運営ニ付監督上萬遺憾ナキヲ期スヘシ
- 一 政府ハ銳意内外燃料資源ノ開發ニ努メ特ニ國內油田ニ付テ其ノ調査竝試掘ニ關シ積極的方針ヲ確立スヘシ

希望條項

- 一 本事業ノ遂行ニ當リ必然的ニ招來スル市價ノ昂騰ハ之ヲ悉ク消費者ニ負擔セシメサルヤウ政府ハ特別ノ考慮ヲ拂フヘシ
- 一 政府ハ必要ト認メタル時ニハ帝國燃料株式會社ニ命シ同會社ヲシテ人造石油製造又ハ販賣其ノ他之カ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營マシムヘシ
- 三ニ對スル委員會報告書附帶決議及希望條項

附帶決議

- 一 本事業ノ成否ハ國防、産業竝國民生活ニ重大關係ヲ有スルノミナラス財政上尠カラサル負擔ヲ増加スヘキヲ以テ政府ハ事業ノ運営ニ付監督上萬遺憾ナキヲ期スヘシ
- 一 政府ハ銳意内外燃料資源ノ開發ニ努メ特ニ國內油田ニ付テ其ノ調査竝試掘ニ關シ積極的方針ヲ確立スヘシ

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案



針ヲ確立スヘシ

一 本事業ノ遂行ニ當リ必然的ニ招來スル市價ノ昂騰ハ之ヲ悉ク消費者ニ負擔セシメサルヤウ  
政府ハ特別ノ考慮ヲ拂フヘシ

希望條項

一 政府ハ必要ト認メタル時ニハ帝國燃料株式會社ニ命シ同會社ヲシテ人造石油製造又ハ販賣  
其ノ他之カ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營マシムヘシ

同日議事日程ヲ變更シ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長古屋慶隆君ハ委員會ノ經過及  
結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

人造石油製造事業法案竝ニ帝國燃料興業株式會社法案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ簡單ニ  
御報告ヲ致シマス、本案ハ産業上、國防上洵ニ重大ナル法案デアリマシテ、此前ノ議會ニ於キ  
マシテモ十分ニ有ユル方面カラ審議ヲセラレタノデアリマス、今回モ各委員諸君ガ有ユル方面  
カラ御熱心ニ御質疑ガアリマシテ、政府モ所信ヲ十分ニ披瀝致サレタノデアリマス、先ヅ政府  
ノ披瀝致サレタ要旨ノ梗概ヲ極ク簡單ニ報告致シマス、政府ハ我國ニ於ケル液體燃料需給ノ趨  
勢ニ鑑ミマシテ、人造石油事業ノ確立ヲ圖リ、以テ液體燃料ノ供給ヲ確保スルハ、産業上及ビ  
國防上喫緊ノ要務ナルヲ以テ、本事業ノ急速且ツ統制アル振興ヲ圖ル爲メ、差當リ七箇年計畫  
ヲ以テ日滿兩國ヲ通ジ揮發油及ビ重油各、年産額百萬疋ヲ目標トスル振興計畫ノ實現ヲ期スル  
コトトナツタノデアアルガ、是ガ爲ニハ巨額ノ資金ヲ必要トスルヲ以テ、是ガ圓滑ナル調査ニ對  
シ適當ナル援助ヲ與フルニアラザレバ、所期ノ目的ヲ達スルコト困難ナリト信ジテ居ルノデア  
ル、仍テ茲ニ帝國燃料興業株式會社法案竝ニ人造石油製造事業法案ヲ制定致シマシテ、半官半

民ノ資本組織ニ依ル帝燃會社ヲ設立セシメ、政府ノ特別ナル保護助成及ビ指導監督ノ下ニ、民  
間企業ニ對スル投資其他ノ事業ヲ經營セシメ、人造石油事業法ノ運用ト相俟ツテ事業ノ徹底ヲ  
期シタイト、斯ウ云フ趣旨デアアルノデアリマス、洵ニ御尤ナル趣旨デアッテ、此點ニ付テハ委  
員會ニ於テハ一人ノ反對者モナイノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ詳細ニ論議ハ盡サレ  
マシタガ、逐一其論議ヲ御紹介スルト云フコトハ此際避ケマシテ、詳細ハ速記録ニ就テ御一  
覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、其質問ダケ簡單ニ一ツ申上ゲマス、第一ニ生産費ノ見透シニ付テハ  
政府ハドウ云フ意見ヲ持ッテ居ルカ、第二ニ原料石炭ノ供給ニ付テハ差支ナイカドウカ、第三  
ニ人造石油製造ノ爲ニハ樺太ノ封鎖炭田ヲ開發スルヲ以テ最モ有效適切ト信ズルガ政府ノ所見  
如何、第四ニ帝國燃料株式會社ノ事業ノ範圍ニ付キ政府ハドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカ、是等ガ  
質問中ノ最モ主ナル點デアッタト私ハ思フノデアリマス、種々質問應答ヲ致シマシタガ、委員  
會ハ全會一致ヲ以チマシテ本案ヲ速ニ可決スベキモノナリトシテ、政府ノ原案通り可決致シマ  
シタ、ソレト同時ニ之ニ付テ附帶決議ノ申出ガアリマシテ、此附帶決議ニ付テ採決ヲ致シマシ  
タ、先ヅ初ニ社會大衆黨ノ松永君カラ斯ウ云フ附帶決議ガ出タノデアリマス  
一 政府ハ本法ノ運用ニ際シ資本家本位ニ墮シテ消費者大衆ヲ壓迫セザルヤウ善處スベシ、  
其爲ニ

- (イ) 液體燃料委員會ニ消費者代表タル委員ヲ相當數參加セシムルコト
  - (ロ) 「ガソリン」市價ヲ不當ニ昂騰セシメザルコト
  - (ハ) 自動車稅ヲ漸次廢減スルコトニ政府ハ努力スベシ
  - (ニ) 政府ハ本法ノ運用ニ際シ液體燃料工業ノ發展ヲ圖ル爲メ特許及ビ技術上ノ祕密ヲ自由ニ  
事業者間ニ於テ交換利用セシムルヤウ善處スベシ
- ト斯ウ云フ附帶決議ガ出タノデアリマス、然ルニ不幸ニシテ此附帶決議ハ少數ニ依ッテ消滅致



シマシタ、モウ一ツ民政黨ノ栗山君カラ附帶決議ガ出マシタ

#### 附帶決議

- 一 本事業ノ成否ハ國防、産業並國民生活ニ重大關係ヲ有スルノミナラズ財政上尠カラザル負擔ヲ増加スベキヲ以テ政府ハ事業ノ運営ニ付監督上萬遺憾ナキヲ期スベシ
- 一 政府ハ銳意内外燃料資源ノ開發ニ努メ特ニ國內油田ニ付テ其ノ調査並ニ試掘ニ關シ積極的方針ヲ確立スベシ
- 一 本事業ノ遂行ニ當リ必然的ニ招來スル市價ノ昂騰ハ之ヲ悉ク消費者ニ負擔セシメザルヤウ政府ハ特別ノ考慮ヲ拂フベシ
- 斯ウ云フ附帶決議ガ提出サレマシタ、此附帶決議ハ多數ヲ以テ委員會ヲ通過致シマシタ、更ニ第一俱樂部ノ窪井君カラ希望條項ガ提出サレマシタ、茲ニ朗讀致シマス
- 政府ハ必要ト認メタル時ニハ帝國燃料株式會社ニ命ジ同會社ヲシテ人造石油製造又ハ販賣其ノ他之ガ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營マシムベシ
- 此希望條項モ多數ニ依ッテ委員會ヲ通過致シマシタ、即チ委員會ハ右二ツノ方案ヲ多數ヲ以テ通過セシムルト同時ニ、此希望決議ナリ希望條項ヲモ多數ヲ以テ通過致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通過可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月五日可決奏上シ同月十日ニハ法律第五十二號、三ハ法律第五十三號ヲ以テ公布セラル

#### 四 製鐵事業法案

##### 製鐵事業法

第一條 本法ハ産業ノ發展及國防ノ整備ヲ期スル爲本邦ニ於ケル製鐵事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ製鐵事業ト稱スルハ銑鐵、鋼鐵、鋼材(鍛鋼品及鑄鋼品ヲ含ム)其ノ他ノ鐵鋼ノ製造及之ニ附隨スル副生物ノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

前項ノ副生物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 製鐵事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定ムル製鐵事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ノ許可ヲ受ケタル者(製鐵事業者)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

製鐵事業者前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ前條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 製鐵事業者其ノ設備ヲ増設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

#### 第二章 議事

##### 第三節 議案

##### 第二款 議案ノ討議及表決

##### 第四項 法律案



第六條 一ノ場所ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ一年十萬噸以上ノ製鉄能力及一年十萬噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第七條 第三條ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 第六條ノ規定ニ該當セザル設備ヲ有スル製鐵事業者其ノ設備ニ付第五條ノ増設ノ許可

ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ第六條ノ規定ニ該當スルニ至ルベキ設備ヲ増設シタルトキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第六條ニ規定スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業者第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ場所ニ於テ製鉄又ハ製鋼ノ設備ヲ増設シタルトキ亦前項ニ同ジ

第九條 第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シ又ハ増設シタル鍛鋼品又ハ鑄鋼品ノ製造事業者ニハ第七條ノ規定ヲ準用ス

第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸以上ノ製鉄能力及ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シ又ハ増設シタル低燐鉄製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項ニ同ジ

第十條 第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ砂鐵又ハ命令ヲ以テ定ムル鐵鑛ノ製鍊ヲ目的トスル特殊ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタル製鐵事業者ニハ其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付第七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 砂鐵又ハ前條ノ鐵鑛ヲ配合シテ製鉄ヲ爲ス製鐵事業者ニハ配合ノ割合ニ應ジ其ノ製



鐵事業ニ付本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ所得税及營業收益稅ヲ免除ス

第十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ(第七條第三項但書ノ場合ヲ含ム)所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第七條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ但シ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル事業ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ事業ガ第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 製鐵事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前製鐵事業者ガ本法ニ依ル所得稅及營業收益稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十四條 帝國內ニ於テ製造シタル鋼材ガ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシ

ム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十六條 第六條又ハ第十條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十七條 製鐵事業者其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

製鐵事業者タル法人ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 製鐵事業者鐵鋼ノ生産、販賣、輸出、輸入、移出若ハ移入又ハ命令ヲ以テ定ムル製鐵原料ノ購入ニ關シ統制協定ヲ爲シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ政府ニ届出ヅベシ之ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

第十九條 前條ノ統制協定ヲ爲シタル者ノ爲其ノ統制協定ニ基キ共同販賣其ノ他共同ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル事項ヲ政府ニ届出ヅベシ

第二十條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ製鐵事業者ニ對シ鐵鋼ノ供給數量、販賣價格又



ハ販賣條件ノ變更其ノ他鐵鋼ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ製鐵事業者ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ作業方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ製鐵事業者ニ對シ製鐵ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設、命令ヲ以テ定ムル製鐵原料ノ保持其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 政府ハ製鐵事業者ニ對シ其ノ業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製鐵事業者ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第二十三條 政府ハ第三條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ要セザル製鐵事業ヲ營ム者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ設備ノ能力其ノ他必要ナル事項ヲ届出デシムルコトヲ得

第二十四條 政府第三條ノ規定ニ依ル處分又ハ第二十條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ製鐵事業委員會ノ議ヲ經ベシ

製鐵事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 製鐵事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 第十九條ノ規定ニ該當スル者ハ第十八條、第二十條第一項、第二十二條又ハ前條ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ製鐵事業者ト看做ス

第二十七條 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ製鐵事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第五條又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス



一 第二十二條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ監督上必要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二 第二十二條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第三十一條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ五

百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 製鐵業獎勵法ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ製鐵事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十八條 前條ノ製鐵事業者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ増設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十九條 第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ製鐵事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ製鐵設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十條 第三十七條ノ製鐵事業者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止セラルモノハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ第十七條第一項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依



リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第四十一條 本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法ニ依リ所得税、營業收益稅及地方稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ所得税、營業收益稅及地方稅ヲ免除ス

本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル認可ヲ申請中ノ者ニ對スル所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

前二項ノ規定ノ適用ヲ受クル者第十一條ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テハ第十二條ノ規定ニ拘ラズ前二項ノ規定ニ依リ地方稅ノ免除ヲ受ク

第四十二條 本法施行ノ際現ニ第十條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者及同條ニ規定スル設備ノ新設又ハ増設ノ工事中ニ在ル者ニハ本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第四十三條 製鐵業獎勵法ニ依リテ爲シタル認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十四條 大正九年法律第十二號第七條ノ二中「製鐵業獎勵法ニ定ムル能力」ヲ「製鐵事業法ニ定ムル能力」ニ改メ「看做シ」ノ下ニ「製鐵事業法第七條第三項ノ金額又ハ製鐵事業法第四十一條ノ規定ニ依リ適用セララルル」ヲ加フ

右ハ昭和十二年七月二十五日本院ニ提出ス同月二十九日本案及二、三ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ(本項第二參看)次テ本案ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ修正(附帶決議ヲ附ス)スヘキモノト決シ八月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

### 委員會報告書

製鐵事業法案中左ノ通修正ス

第二十二條ヲ第二十三條トシ以下順次繰下グ

第二十二條 政府ハ第二十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ補償ヲ爲スコトヲ得

第二十六條中「第二十二條」ヲ「第二十三條」ニ、第三十條中「第二十二條」ヲ「第二十三條」ニ、第三十四條第二項中「第二十三條」ヲ「第二十四條」ニ、第四十條中「第三十七條」ヲ「第三十八條」ニ、第四十四條中「第四十一條」ヲ「第四十二條」ニ改ム

### 委員會報告書附帶決議

- 一 政府ハ速ニ時局ニ對應スベキ積極的増産計畫ヲ樹テ鐵鋼國策ノ根本確立ニ努ムベシ
- 一 政府ハ砂鐵及貧鐵ノ使用ニ就キ速ニ適切ナル助成計畫ヲ樹テ之ガ原料價値ヲ確實ニシ其ノ使用ヲ増大セシムルヤウ最善ノ方法ヲ講ズベシ



- 一 政府ハ鐵鋼界ノ現状ニ鑑ミ販賣機構ノ改正ヲ斷行シ需給ノ圓滑ヲ圖リ且不當ナル中間利益ノ獲得ヲ阻止スルヤウ努力スベシ
- 一 政府ガ本法ニ依リテ監督權ヲ行使スルニ當リテハ當業者ノ企業心ヲ萎靡セシムルコトナキヤウ萬全ノ注意ヲ拂フベシ

同月三日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長清瀬規矩雄君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程ニナリマシタ製鐵事業法案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ御承知ノ通りニ前議會ニ提出セラレテ幾多ノ論議ノアツタ案デアリマス、政府ハ本院ノ意ノアル所ヲ參酌致シマシタカ、若干ノ修正ヲ加ヘテ提出致サレタノデアリマス、其主ナル點ヲ申上ゲマスルト、第二十四條ニ於テ製鐵事業委員會ニ付議スベキ範圍ヲ擴張致シテ居リマス、又第二十五條ニ於テ政府ガ製鐵事業ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ、又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲ス範圍ヲ縮小致シテ居リマス、更ニ第三十一條ヲ新規ニ追加致シマシテ「當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」ト云フ規定ヲ設ケタ如キハ、其主ナルモノデアリマス、併シナガラ本案ニ付キマシテハ尙ホ若干ノ不安ヲ感ジ、且ツ疑惑ヲ挿ム點少シト致サナカッタノデアリマス、其一ニ申シマスルナラバ、此法案ニ依リテ果シテ我國ノ製鐵事業ガ發展シ得ベキヤ否ヤ、茲ニ原料トシテノ鐵礦石ノ供給果シテ豫期ノ如クナルベキヤ否ヤ、其他ノ點ニ付キマシテ委員諸君ト當局者トノ間ニ幾多ノ質問應答ヲ重ネタノデアリマスガ、當局者ノ答辯ハ委員諸君ヲ満足セシメタトハ申兼ネルノデアリマス、結局認識又ハ見解ノ相違ト云フコトニ歸著致シタヤウデアリマス、斯クテ質問

ヲ終了致シ、討論ニ入りマシテ、各派ノ賛成演說ガアリマシタガ、岡崎久次郎君ヨリ政民兩黨ノ共同提案トシテ、左ノ修正案ガ提出致サレタノデアリマス

- 製鐵事業法案中左ノ通修正ス
- 第二十二條ヲ第二十三條トシ以下順次繰下ゲ
- 第二十二條 政府ハ第二十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ補償ヲ爲スコトヲ得
- 第二十六條中「第二十二條」ヲ「第二十三條」ニ、第三十條中「第二十二條」ヲ「第二十三條」ニ、第三十四條第二項中「第二十三條」ヲ「第二十四條」ニ、第四十條中「第三十七條」ヲ「第三十八條」ニ、第四十四條中「第四十一條」ヲ「第四十二條」ニ改ム
- 次ニ政友會ノ南條徳男君ヨリ政民兩黨ノ提案ト致シマシテ、左ノ如キ附帶決議ガ提出サレタノデアリマス

附帶決議

- 一 政府ハ速ニ時局ニ對應スベキ積極的増産計畫ヲ樹テ鐵鋼國策ノ根本確立ニ努ムベシ
- 一 政府ハ砂鐵及貧鐵ノ使用ニ就キ速ニ適切ナル助成計畫ヲ樹テ之ガ原料價値ヲ確實ニシ其ノ使用ヲ増大セシムルヤウ最善ノ方法ヲ講ズベシ
- 一 政府ハ鐵鋼界ノ現状ニ鑑ミ販賣機構ノ改正ヲ斷行シ需給ノ圓滑ヲ圖リ且不當ナル中間利益ノ獲得ヲ阻止スルヤウ努力スベシ
- 一 政府ガ本法ニ依リテ監督權ヲ行使スルニ當リテハ當業者ノ企業心ヲ萎靡セシムルコトナキヤウ萬全ノ注意ヲ拂フベシ
- 以上デアリマス、更ニ社大黨ノ塚本重藏君ヨリ次ノ如キ希望條項ガ提出サレタノデアリマス

希望條項

- 一 第七十議會ニ提出セラレタル本法原案ガ事業者側ノ反對運動ニ依ッテ相當程度修正(改惡)セラレタル事實ニ鑑ミ政府ハ本法ノ運用ニ際シ特ニ第二十條ノ公益規定及第二十五條



ノ處罰規定ヲ空文化セザルヤウ善處スベシ

二 政府ハ製鐵事業委員會ニ直接消費者タル中小鐵工業者間接消費者タル國民ノ生活部面ヲ代表スル者及製鐵ノ技術及勞働部面ヲ代表スル者ヲ參加セシムルヤウ善處スベシ

三 政府ハ將來鐵鋼ノ一元的計畫性ヲ確立シ立地性ヲ擴大シ營利ヲ目的トセザル資金ヲ動員シ國營「トラスト」ノ下ニ運用スルヤウ努力スベシ

四 政府ハ製鐵事業ノ國策的重要性ニ鑑ミ勞働者ノ技術ノ向上待遇ノ改善及其人格的要求ヲ尊重シ以テ産業協力ノ實ヲ擧ゲシムルヤウ善處スベシ

引續キ採決ニ移リマシテ、岡崎久次郎君提出ノ修正案ハ多數ヲ以テ可決セラレ、之ニ對シマシテ吉野商工大臣ハ政府ヲ代表サレマシテ、政府ハ同意デアルト云フコトヲ言明サレタノデアリマス、次ニ修正案ヲ除ク原案全部ニ付キ採決ニ付シマシタル所、滿場一致賛成可決ニ決シマシタ、次ニ社大黨ノ塚本君提出ノ希望條件ヲ起立ニ諮ヒマシタル所、少數ヲ以テ否決トナリマシタノデアリマス、最後ニ南條德男君提出ノ附帶決議ヲ採決シタル所、大多數ヲ以テ可決致シマシタ、詳細ハ速記録ニ依ッテ御覽ヲ願ヒマシテ、極メテ簡單デアリマスルガ、大體ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月六日可決奏上シ同月十三日法律第六十八號ヲ以テ公布セラル

## 五 船員法改正法律案

### 船員法

#### 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ船員トハ日本船舶ニシテ左ニ掲グル船舶以外ノモノニ乗組ム船長及海員ヲ謂フ

- 一 船舶法第二十條ニ規定スル船舶
- 二 平水區域ヲ航行スル船舶
- 三 總噸數三十噸未滿ノ漁船

前項ノ海員トハ左ニ掲グル者以外ノ乗組員ヲ謂フ

- 一 船舶所有者以外ノ者ニ雇傭セラルル者
- 二 何人ニモ雇傭セラレズシテ業務ヲ營ム者
- 三 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者

第二條 船員、船員タラントスル者、船舶所有者又ハ船長ハ船員又ハ船員タラントスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌ズル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 未成年者ガ船員ト爲ルニハ其ノ法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ許可ヲ得タル者ハ雇入契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

#### 第二章 議事

##### 第三節 議案

##### 第二款 議案ノ討議及表決

##### 第四項 法律案



第四條 十五歳未満ノ者ハ船員トシテ、十八歳未満ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 十八歳未満ノ者ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外船内勞働ニ適スルコトヲ證明シ且署名シタル醫師ノ健康證明書ヲ有スル場合ニ非ザレバ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第六條 船員ハ船員手帳ヲ受有スルコトヲ要ス

船員手帳ノ交付、訂正、書換、保管及返還ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

## 第二章 船長

第七條 船長ハ海員ヲ指揮監督シ且船内ニ在ル者ニ對シ其ノ職務ヲ行フニ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

第八條 船長ハ船舶ガ港ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其ノ他船舶ニ危險ノ虞アルトキハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及積荷ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其ノ他船内ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非ザレバ船舶ヲ去ルコトヲ得ズ

第十條 船舶ガ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及船舶ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、所有者、船籍港、發航港及到達港ヲ告グルコトヲ要ス但シ自己ノ指揮スル船舶ニ急迫

ノ危險アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 船長ハ他ノ船舶ノ遭難ヲ知リタルトキハ人命ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡スコトヲ要ス但シ自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アル場合及勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 船舶航行中船内ニ在ル者死亡シタルトキハ船長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ水葬ニ付スルコトヲ得

第十三條 船内ニ在ル者死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外船長ハ船内ニ在ル遺留品ヲ保管スルコトヲ要ス

第十四條 外國ニ駐在スル帝國ノ外交官、領事官又ハ貿易事務官ガ法令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ノ送還ヲ命ジタルトキハ船長ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

送還費用ノ償還ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ管海官應ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

一 衝突、乗揚、滅失、沈没、火災、機關ノ損傷其ノ他ノ海難發生シタルトキ

二 人命若ハ船舶ノ救助ニ從事シ又ハ航行中他ノ船舶ノ遭難ヲ知リタルトキ

三 船内ニ在ル者死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキ



- 四 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
- 五 船舶ガ抑留又ハ捕獲セラレタルトキ其ノ他船舶ニ關シ著シキ事故アリタルトキ
- 第十六條 船長ガ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハザル場合ニ於テ他人ヲ選任セザルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其ノ職掌ノ順位ニ從ヒ船長ノ職務ヲ行フ
- 第十七條 第二十一條、第二十三條、第二十九條、第三十條及第三十二條ノ規定ハ船長ニ之ヲ準用ス

### 第三章 海員

- 第十八條 海員ノ雇入契約ノ成立、終了、更新又ハ變更アリタルトキハ船長及海員ハ遲滞ナク管海官廳ニ出頭シテ其ノ公認ヲ受クルコトヲ要ス
- 前項ノ場合ニ於テ船長ガ公認ヲ受クルコト能ハザルトキハ船舶所有者之ヲ受クルコトヲ得
- 前二項ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第十九條 海員ハ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル爲職務ニ從事セザル期間ニ付テモ給料ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ疾病又ハ傷痍ニ付海員ニ過失アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 海員ハ其ノ職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ疾病又ハ傷痍ニ付海員ニ故意又ハ重大ナル過失ナキ限り同項ニ規定スル給料ノ請求

ヲ爲スコトヲ得

- 第二十條 海員ノ給料及手當ノ支拂方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十一條 船舶所有者ハ海員ノ乗船中勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ食料ヲ支給スルコトヲ要ス
- 第二十二條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ船舶ニ醫師ヲ乗組マシメ又ハ醫療設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ海員ノ雇入契約ハ終了ス

- 一 滅失又ハ沈没シタルトキ
  - 二 全ク運航ニ堪ヘザルニ至リタルトキ
- 船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ニ依リ雇入契約終了シタル場合ト雖モ海員ハ人命、船舶又ハ積荷ノ應急救助ノ爲必要ナル勞務ニ服スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ雇入契約ハ仍存續スルモノト看做ス

- 第二十四條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得
- 一 著シク職務ニ不適任ナルトキ
  - 二 著シク職務ヲ怠リ又ハ職務ニ關シ重大ナル過失アリタルトキ



三 疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ職務ニ堪ヘザルトキ  
 四 船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込マザルトキ

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ海員ハ雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶ガ國籍ヲ喪失シタルトキ

二 海員ガ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ職務ニ堪ヘザルトキ

三 海員ガ船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ニ掲グル場合ノ外海員ハ船長ノ適當ト認ムル後任者ヲ提供シテ雇止ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 期間ノ定ナキ海員ノ雇入契約ハ船長又ハ海員ヨリ書面ヲ以テ二十四時間ヲ下ラザル期間ヲ定メ豫告ヲ爲ストキハ該期間ガ滿了シタル時ニ於テ終了ス

前項ノ期間ガ滿了シタル時ニ於テ船舶ガ積荷ノ陸揚ヲ爲シ又ハ旅客ガ上陸スベキ港ニ淀泊中ニシテ其ノ港ニ於ケル積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ガ終ラザルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ終リタル時ニ於テ雇入契約ハ終了ス

第一項ノ期間ガ滿了シタル時ニ於テ船舶ガ航行中ナルトキ又ハ前項ノ港以外ノ港ニ淀泊中ナルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラズ船舶ガ積荷ノ陸揚ヲ爲シ又ハ旅客ガ上陸スベキ次ノ港ニ到着シテ其ノ港ニ於ケル積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ガ終リタル時ニ於テ雇入契約ハ終了ス

前二項ノ規定ハ期間ノ定アル海員ノ雇入契約ガ期間ノ滿了ニ因リ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第三項ノ規定ハ第二十四條及前條第一項ノ規定ニ依リ海員ノ雇入契約ガ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 前條第一項乃至第四項ノ規定ニ依リ海員ノ雇入契約ガ適當ナル海員ヲ補充シ得ル港以外ノ港ニ於テ終了スルトキハ船長ハ船舶ガ適當ナル海員ヲ補充シ得ル港ニ到着シ積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ガ終ル時迄雇入契約ヲ存續セシムルコトヲ得

第二十八條 相續其ノ他ノ包括承繼ノ場合ヲ除クノ外船舶所有者ノ變更アリタルトキハ海員ノ雇入契約ハ終了ス

前項ノ場合ニ於テハ雇入契約終了ノ時ヨリ海員ト新所有者トノ間ニ從前ノ雇入契約ト同一條件ノ雇入契約存スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ海員ハ第二十六條第一項乃至第三項ノ規定ニ從ヒ雇入契約ヲ終了セシムルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル雇入契約終了ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 船舶所有者ハ海員ガ疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタルトキ、雇入契約終了シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ扶助シ、之ニ手當ヲ支給シ又ハ之ガ葬祭ノ費用ヲ負擔スルコトヲ要ス



第三十條 船舶所有者ハ雇入契約終了シタル海員ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ雇入港又ハ其ノ希望スル地迄送還スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ送還ニ代ヘテ其ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 海員ハ船長ニ對シ其ノ勤務ノ成績ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條 海員ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス船舶所有者ニ對スル葬祭ニ關スル債權亦同ジ

第三十三條 第二十九條ノ規定ニ依リ海員ガ扶助又ハ手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ葬祭ノ費用ヲ受ルクノ權利亦同ジ

#### 第四章 紀律

第三十四條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ之ヲ懲戒スルコトヲ得

- 一 上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
- 二 職務ヲ怠リ又ハ他ノ乗組員ノ職務ヲ妨ゲタルトキ
- 三 船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込マズ又ハ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキ
- 四 船長ノ許可ヲ得ズシテ點火若ハ焚火シ又ハ端艇其ノ他ノ重要ナル屬具ヲ使用シタルトキ
- 五 食料又ハ淡水ヲ濫費シタルトキ

六 喧争シタルトキ、酩酊シテ事理ヲ辨ゼザルトキ又ハ禁止セラレタル場所ニ於テ喫煙シタルトキ

七 其ノ他船内ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十五條 懲戒ハ左ノ四種トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ船長之ヲ行フ

- 一 監禁 三日以下トシ船内ノ一室ニ拘置ス
- 二 上陸禁止 七日以下トシ此ノ期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス
- 三 減給 給料月額十分ノ一以下ヲ減ズ但シ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 四 譴責

前項第一號及第二號ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第三十六條 海員ガ兇器、爆發若ハ發火シ易キ物、劇藥其ノ他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ハ其ノ物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第三十七條 海員ガ船内ニ在ル者ノ生命若ハ身體又ハ船舶ニ危害ヲ及ボスベキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間其ノ者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第三十八條 船長ハ必要アルトキハ旅客其ノ他船内ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得



第三十九條 海員ガ雇入契約成立ノ公認アリタル後船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込マズ又ハ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ之ヲ強制シテ船舶ニ乗込マシムルコトヲ得  
海員ガ雇入契約終了ノ公認アリタル後遲滞ナク船舶ヲ去ラザルトキハ船長ハ之ヲ強制シテ船舶ヲ去ラシムルコトヲ得

第四十條 船長ハ其ノ命令ニ服從セザル者アル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ管海官廳、地方官廳又ハ海軍艦船ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

### 第五章 雜則

第四十一條 管海官廳ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ依リ第三章ニ規定スル事項ニ關シ船舶所有者、船長及海員ノ間ニ生ジタル事件ノ解決ニ付斡旋ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ乗組員ヲシテ書類帳簿ヲ提出セシメ若ハ報告ヲ爲サシメ、之ヲ呼出シテ質問ヲ爲シ又ハ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帶スベシ

管海官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル事實アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ船長ニ對シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ旅客其ノ他船内ニ在ル者ニ就キ質問ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 本法及本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第四十四條 本法ニ依リ管海官廳ノ行フベキ事務ハ外國ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國ノ領事官又ハ貿易事務官之ヲ行フ

第四十五條 本法ニ依リ管海官廳ノ行フベキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズル者ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 左ニ掲グル船舶ノ乗組員ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

- 一 國又ハ北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ所有ニ屬スル船舶
- 二 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶

第四十七條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第一條第二項各號ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス

第四十八條 地方長官ハ第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ乗組員ノ監督ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

### 第六章 罰則

第四十九條 船舶所有者又ハ船長ガ第四條ノ規定ニ違反シ十五歳未滿ノ者ヲ船員トシテ、十八歳未滿ノ者ヲ石炭夫若ハ火夫トシテ使用シタルトキ又ハ第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ



有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐僞其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ船員手帳ノ交付、訂正又ハ書換ヲ受ケタル者

二 詐僞其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ海員ノ雇入契約ニ關スル公認ヲ受ケタル者

三 他人ノ船員手帳ヲ行使シタル者

第五十一條 船長ガ船内ニ在ル者ニ對シ其ノ職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長ガ第九條ノ規定ニ違反シ船舶ヲ去リタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十三條 船長ガ第十條ノ規定ニ違反シ人命及船舶ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ違反シ人命ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡サザルトキ

二 正當ノ事由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキ

三 正當ノ事由ナクシテ外國ニ於テ海員ヲ遺棄シタルトキ

第五十五條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ違反シ自ラ船舶ヲ指揮セザルトキ

二 第十條ノ規定ニ違反シ告知ヲ爲サザルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ送還命令ヲ拒ミタルトキ

四 第十五條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

五 第十八條ノ規定ニ違反シ公認ヲ受ケザルトキ

六 商法第五百六十一條ノ規定ニ違反シ検査ヲ爲サザルトキ

七 商法第五百六十二條第一項ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カズ又ハ同條同項第二號乃至第五號ニ掲グル書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

八 商法第五百六十三條ノ規定ニ違反シ船舶ヲ去リタルトキ

九 商法第五百六十四條ノ規定ニ違反シ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十六條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ水葬ニ付シタルトキ

二 第十三條ノ規定ニ違反シ遺留品ノ保管ヲ爲サザルトキ

第五十七條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二年以下ノ懲役ニ處ス



- 一 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキ
  - 二 第九條乃至第十一條ニ規定スル場合ニ於テ船長ガ人命、船舶又ハ積荷ノ救助ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當リ上長ノ命令ニ服從セザルトキ
  - 三 第二十三條第三項ニ規定スル場合ニ於テ人命、船舶又ハ積荷ノ應急救助ノ爲必要ナル勞務ニ服セザルトキ
- 第五十八條 海員ガ上長ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十九條 海員ガ脱船シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス
- 第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ船員ガ勞働爭議ニ關シ團結シテ勞務ヲ中止シ又ハ作業ノ進行ヲ阻害シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 船舶ガ外國ノ港ニ在ルトキ
  - 二 人命又ハ船舶ニ直接ノ危険ヲ及ボス虞アルトキ
  - 三 船員又ハ其ノ代表者ガ相手方ニ對シ爭議事項ニ關シ交渉ヲ開始シタル後一週間ヲ經過シ且二十四時間前ニ豫告ヲ爲シタルニ非ザルトキ
- 第六十一條 船舶所有者ガ第二十條乃至第二十二條、第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ

發スル勅令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船舶所有者又ハ乗組員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 管海官廳ノ命令ニ違反シ書類帳簿ノ提出ヲ爲サズ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ
  - 二 管海官廳ノ呼出ニ應ゼズ又ハ管海官廳若ハ當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ
  - 三 當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ
  - 四 第四十二條第二項ニ規定スル管海官廳ノ處分ニ違反シタルトキ
- 第六十三條 本章中船長ニ適用スベキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶所有者ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ニ第二十條乃至第二十二條、第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反スル所爲アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第六十五條 船舶所有者ガ未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ在リテハ本法又



ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第六十六條 本法及本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ國又ハ北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニハ之ヲ適用セズ

附則

第六十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 船員最低年齢法ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第二十八條中「遭難者救助」ヲ削ル

商法第五百七十五條及第五編第二章第二節ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十九條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ刑法第六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第七十條 本法施行ノ際現ニ船員トシテ使用セラルル十四歳以上十五歳未滿ノ者ヲ本法施行後引續キ使用スル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セズ

第七十一條 第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ乗組員ノ監督ニ關シ地方長官ノ設ケタル規則ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

右ハ昭和十二年七月二十五日本院ニ提出ス同月二十九日日本案ノ第一讀會ヲ開キ田島遞信政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程サレマシタ船員法改正法律案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、近時我國海運ハ長足ノ進步發展ヲ遂ゲマシテ、社會情勢モ亦著シイ變遷推移ヲ見ツ、アルニモ拘ハリマセズ、現在船員ノ保護監督ヲ規律致シマスル船員法及ビ海商法ハ、何レモ制定以來三十有餘年ノ歲月ヲ經過致シマシテ、現下ノ實情ニ副ハザル點ガ少クナイノデアリマス、隨ヒマシテ船員法改正ノ要望ハ漸ク熾烈トナツテ參々タノデアリマス、斯ル情勢ニ鑑ミマシテ、遞信省ニ於キマシテハ先年臨時海事法令調査會ヲ設ケマシテ、船主及ビ船員ノ團體ノ代表者ヲ初メトシ、關係各方面ノ官民相會シマシテ法律改正ノ審議ヲ行ヒ、其結果改正要項ニ關スル決議ヲ得マシタノデ、今回此決議ヲ骨子ト致シマシテ、現行船員法及ビ商法中海員ニ關スル規定、竝ニ船員最低年齢法ヲ整理統一致シマシテ、之ニ適當ナル改正ヲ加ヘ、他面海運ノ國際性ヲ考慮致シマシテ、曩ニ國際勞働總會ニ於テ採擇セラレマシタ四箇ノ條約案、即チ船舶ノ滅失又ハ沈没ノ場合ニ於ケル失業ノ補償ニ關スル條約案、海員ノ雇入契約ニ關スル條約案、海員ノ送還ニ關スル條約案及ビ船員ノ最低年齢ニ關スル條約案ノ趣旨ヲ採入レマシテ、之ヲ綜合致シマシタル單一船員法ヲ制定致シ、時代ノ要求ニ應ジテ海上勞働問題ヲ調整シマスルト同時ニ、船員ノ生活ノ安定ヲ圖リ、以テ海運界ノ平和ト其健全ナル發達トヲ圖リタイト存ジマス、是レ本案ヲ提出致シマシタ理由デアリマス、尚ホ本法律案ハ御承知ノ通り前議會ニ提出セラレマシテ、衆議院ヲ通過シ、貴族院ニ同付ノ後、議會解散ノ爲ニ審議未了トナリマシタモノト全ク同一ノモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ御願致シマス



次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決(附帶決議ヲ附ス)スヘキモノト決シ八月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書附帶決議

- 一 政府ハ海運ノ重要性ト船員ノ特殊性トニ鑑ミ刑法ヲ改正シ船員ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルコトニ因リテ生ジタル過失ニ非ザレバ罰セザルヤウ之ヲ法文化スベシ
- 二 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザル方針ヲ採ルベシ

三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ處斷セザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

四 政府ハ海難ニ際シ船員ノ喚問取調ヲ爲スニ當リテハ其ノ業務ニ支障ヲ來サザルヤウ十分ニ理解アル態度ヲ以テ臨ムベク檢察官ニ訓令ヲ發スベシ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ

委員長漢那憲和君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

私ハ只今議題ト相成リマシタ船員法改正法律案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シタイト存ジマス、委員ハ七月三十日參集致シマシテ、先ツ委員長及ビ理事ノ選舉ヲ行ヒ、委員長ニハ不肖私、理事ニハ岡野龍一君、長井源君、高橋泰雄君及ビ田代正治君ノ四君ガ當選セラレマシタ、引續キ會議ヲ開キマシテ、政府當局ノ說明ヲ聽キ、後質疑ニ入ッタノデアリマス、抑、本法案ハ前議會ニ於キマシテ、滿場一致附帶決議ヲ以テ衆議院ヲ通過致シタノデアリマス、其當時委員會ニ於テ專ラ論議ノ焦點トナリマシタノハ、船員ノ過失ニ基ク刑罰ニ關スルモノデアリマシタ、即チ現行法ニ於キマシテハ、船員ハ重大ナル過失ニ基ク海難ニ對シテハ、船員法第七十三條ヲ適用セラレ、通常ノ過失ニ基ク海難ニ對シテハ、刑法第二百二十九條ヲ適用セラレ、コトト相成ッテ居リマス、然ル所海難ハ船員ノ技術ノ巧拙、判斷ノ適否及ビ注意ノ疎密等、人的要素ノ外ニ、天候、地勢、潮流竝ニ船舶ノ構造及ビ運動力等、物的要素ニ因ルモノガ甚ダ多イノデアリマシテ、從來ノ事實ニ徴シマスルニ、海難ノ多クハ不可抗力ニ因ルモノデアリマス、而シテ海上ノ事ハ、證據ノ求メ難キ關係上、此不可抗力ニ因ルモノ、又ハ他船船員ノ行爲ニ因ル場合デモ、尙且ツ自己ノ過失ナリト誤認セラレ易クアリマシテ、是ガ爲ニ無辜ノ者ガ罰セラル、危險ガ甚ダ多イノデアリマス、且又船員ニ對スル裁判所ノ判決ハ、往々ニシテ海員審判所ノ採決ト相反スルノミナラズ、其適正ヲ疑ハシムルモノガゴザイマス、是ハ畢竟海事ニ明カナラザル檢察官及ビ司法官ガ其審理ニ當ル爲ニ、實情ニ即セザル結果ニ陥ルカラデアリマス、更ニ其上ニ船員ニ在ッテハ、取調ノ爲ニ官廳ニ召喚セラレコトハ、延イテ船舶ノ行動ヲ阻碍スルコトニ相成リマシテ、遂ニハ失業ノ機會ヲ投ゲ與ヘルコトニ相成ルノデアリマス、以上ノ立場ニ於テ船員ハ到底安心シテ其業務ニ精勵スルコトハ出來マセヌカラ、船員ノ特殊性ヲ認メテ海事常識ニ於テ過失ナリト認メラル、種類ノモノニ對シテノミ、刑罰ヲ加ヘルヤウニシテ貫ヒタイ、畢竟船員ニ對シテハ、重大ナル過失ニ對シテノミ刑罰ヲ以テ臨ムヤウニシテ貫ヒタイ云フノガ、當時ノ委員會ニ於ケル空氣デアリマシタ、主トシテ此趣意ニ依ッテ質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、船員ノ特殊性ハ之ヲ認メルガ、今直チニ法案ヲ修正シテ、法文ニ明



記スルコトハ、他トノ鈞合ガアルカラ同意スルコトハ出来ナイ、是ハ刑法改正ノ際ニ特ト考慮スルコトニ致シタイト云フノデアリマシタ、ソコデ當時ノ委員會ニ於キマシテハ、諸般ノ情勢カラ判断致シマシテ、四箇條ノ附帶決議ヲ以テ本法案ヲ可決スベキモノトシテ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、政府モ此附帶決議ヲ尊重スル旨ノ言明ヲ致シマシテ、本會議ニ於テモ亦滿場一致可決セラレタ次第デアリマス、以上ハ本法案ニ關スル前議會ノ審議ノ大要デアリマスガ、本委員會ニ於キマシテハ、委員長井源君カラ、政府ハ本法案ニ關スル前議會ニ於ケル陳述ヲ今日其儘承認スルノカ、將又之ヲ加除訂正スル意思ガアルカ、又附帶決議ハ今日モ尚ホ之ヲ尊重スルヤヲ質シマシテ、之ニ對シテ政府ハ前議會ノ陳述ヲ其儘承認シ、附帶決議ハ之ヲ尊重スル旨ノ明確ナル答辯ガアッタノデアリマス、其外船員ノ思想問題、海上勞働問題、船籍ト船員ノ國籍ニ關スル問題、米國移民法ガ我が船員ニ適用セラレ、場合ニ關スル問題、船員保險法ノ問題等ニ關シマシテ、委員ト政府トノ間ニ熱心ナル質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、尚ホ委員小山亮君カラ、船員ノ所謂二重處罰ヲ矯正スル一方法トシテ、船員ニ對シテモ海軍ノ査問委員會ニ類スル制度ヲ設クル意思ナキヤトノ質問ガアリマシタ、政府ハ之ニ對シテ現行海員懲戒法ハ處罰主義ニ偏スル嫌ヒガアルカラ、之ヲ事實審査主義ニ改正シタキ意向ヲ有スルコトヲ言明セラレマシタ、又水先案内人ノ取扱ニ付テハ、船員ニ準ズベキモノト思フガドウカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ之ヲ肯定セラレタノデアリマス、斯様ニシテ本日質問ヲ終了シ、直チニ討論ニ入りマシテ、民政黨ノ長井源君カラ黨ヲ代表シテ各派共同提案ニ係ル四箇條ノ附帶決議、即チソレハ前議會同様ノモノデアリマスガ、只今朗讀致シマス

- 一 政府ハ海運ノ重要性ト船員ノ特殊性トニ鑑ミ刑法ヲ改正シ船員ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルコトニ因リテ生ジタル過失ニ非ザレバ罰セザルヤウ之ヲ法文化スベシ
- 二 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザル方針ヲ採ルベシ
- 三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ處斷セザルヤ

ウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

四 政府ハ海難ニ際シ船員ノ喚問取調ヲ爲スニ當リテハ其ノ業務ニ支障ヲ來サザルヤウ十分

ニ理解アル態度ヲ以テ臨ムベク檢察官ニ訓令ヲ發スベシ

ト云フ四箇條ノ附帶決議ヲ附シテ可決スベシトノ陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、第一議員俱樂部ノ山崎常吉君、社會大衆黨ノ米窪清亮君及ビ第二控室ノ小山亮君カラ、ソレレク賛成意見ヲ述ベラレマシテ、斯クテ滿場一致本案ハ可決セラレタノデアリマス、以上御報告申上ゲマス、尚ホ此場合政府ハ附帶決議ヲ尊重スル旨、本議場ニ於テ言明セラレンコトヲ希望致シマス

永井遞信大臣ハ發言ヲ求メ政府ノ意見ヲ述フ

遞信省ト致シマシテハ船舶ノ操縦ガ極メテ困難ナル事情、及ビ海難原因ノ複雑ナル事情等ニ付キマシテ、能ク諒承致シテ居リマスカラ、司法當局トモ篤ト協議ノ上、御希望ノアル所ヲ十分尊重致シマシテ、出來ルダケノ努力ヲ致シタイト存ジマス

久山司法政務次官ハ發言ヲ求メ政府ノ意見ヲ述フ

附帶決議ノ御趣旨ニ對シマシテハ、篤ト諒承致シテ居リマス、就キマシテハ事情ノ許シマス限り院議ヲ尊重致シタイト存ジマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月七日可決奏上シ同月十四日法律第七十九號ヲ以テ公布セラレ

### 六 陪審法中改正法律案

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案



陪審法中左ノ通改正ス

二三八

第七條ノ二 共同被告人多數ニシテ被告事件複雑ナル場合ニ於テ公判ノ審理ニ長期間ヲ要シ且陪審員ノ滞留ノ場所及陪審員ト他人トノ交通ヲ著シク制限スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ事件ヲ陪審ノ評議ニ付セサルコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ事件公判ニ繫屬シタル後第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ

第一項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條第一項中「前條第一項」ノ上ニ「第七條ノ二第一項又ハ」ヲ、同條第三項中「公判ニ繫屬スル事件」ノ上ニ「第七條ノ二第一項ノ請求ヲ爲シ又ハ」ヲ加フ  
同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第七條ノ二第一項ノ請求ニ付爲シタル前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十條第二項中「檢事」ノ下ニ「第七條ノ二第一項ノ請求又ハ」ヲ、同條第三項中「其ノ被告人ニ關スル」ノ下ニ「第七條ノ二第一項ノ請求又ハ」ヲ加フ

### 附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

右ハ昭和十二年七月二十五日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ鹽野司法大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題ニ上リマシタ陪審法中改正法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、共同被告人ガ多數デアリマシテ、被告事件ガ煩雜ナル場合ニ於キマシテハ、公判ノ審理ニ長期間ヲ要シマスル爲メ、事件ヲ陪審ノ評議ニ付シマスル時ハ、長時間ニ互リ陪審員ノ滞留ノ場所及ビ陪審員ト他人トノ交通ヲ制限致シマスルコトハ、陪審ノ公正ヲ期シマスル上ニ於テ陪審法上已ムヲ得ザル所デアリマスガ、其結果陪審員ニ對シ業務ノ拋棄等、過大ノ負擔ヲ課スルノ餘儀ナキニ至リマスルノミナラズ、陪審員ハ記録ヲ閱覽スルコトヲ許サレマセヌノデ、専ラ公判ニ於ケル被告人、證人ノ供述ヲ聽取スルコト等ニ依リマシテ、事案ヲ判斷シナケレバナラナイ關係カラ、複雑ニシテ審理長期ニ互ル事件ニ付キマシテハ、記憶ノ忘失其他ノ事由ニ依リマシテ適正ナル判斷ヲ期シ難キ虞ガアルノデアリマス、加之審理長期間ニ互リマスル關係カラ陪審員中ニハ、健康若クハ家庭ノ事情等ニ依リマシテ、色々ノ事故ヲ生ズル關係カラ、陪審員ノ補充ノ困難ナル事態ヲ發生スル虞モナイトハ言ヘナイノデアリマス、斯様ナ事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付セザルコトニ改メル爲メ、本法ニ改正ヲ加ヘントスルノデアリマス、即チ「共同被告人多數ニシテ被告事件複雑ナル場合ニ於テ公判ノ審理ニ長期間ヲ要シ且陪審員ノ滞留ノ場所及陪審員ト他人トノ交通ヲ著シク制限スルノ虞アルトキ」斯様ナ條件ガ完備シテ居リマスル場合ニ限リマシテ、事件ヲ陪審員ノ評議ニ付セザルコトニ爲シ得ル途ヲ開カントスルガ爲ニ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛下サランコトヲ切望スル次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行フ委員會ニ於テハ審査終了ニ至ラサリキ



七 北支事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律案

北支事件ニ關スル經費支辨ノ爲政府ハ九千六百萬圓ヲ限り公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十二年八月二十七日本院ニ提出ス同月二十八日本案ノ第一讀會ヲ開キ賀屋大藏大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ北支事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ說明致シマス、今回ノ北支事件ニ關シマスル經費ハ、一般會計所屬ノ分九千六百八十万餘圓、又朝鮮總督府特別會計所屬ノ分二十一萬餘圓デアリマシテ、内朝鮮總督府特別會計所屬ノ分ノ全部及ビ一般會計所屬ノ分中ノ國債費ニ相當スル八十五萬餘圓ハ、之ヲ國庫剩餘金ヲ以テ支辨スルコトトシ、殘餘ノ九千五百九十五萬餘圓ハ、今日ノ財政狀況竝ニ本經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ヲ公債財源ニ依ルコトニ致シマシタノデ、右ニ必要ナル起債ノ權能ヲ得ル爲メ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス

議長ハ本案ニ對シテハ政府ヨリ議院法第二十七條但書竝第二十八條但書ニ依ル要求アリタル旨ヲ告ケ依テ本案ハ委員ニ付託セス且讀會ノ順序ヲ省略スル旨ヲ宣告ス  
起立採決ノ結果全會一致之ヲ可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ニ於テハ翌二十九日可決奏上シ即日法律第四十九號ヲ以テ公布セラル

八 紀元二千六百年記念日本萬國博覽會抽籤券附回数入場券發行ニ關スル法律案

第一條 紀元二千六百年記念日本萬國博覽會ヲ開設スル公益法人ハ抽籤券附回数入場券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 抽籤券附回数入場券ノ發行價格ハ編綴シタル入場券ノ種類及枚數ニ應ジ十圓ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ定ムベシ

第三條 當籤一箇ノ金額ノ最高額ハ抽籤券附回数入場券ノ發行價格ノ二百倍トス

第四條 抽籤券附回数入場券ノ發行總額ハ三千六百五十萬圓ヲ以テ限トス

第五條 第一條ノ公益法人抽籤券附回数入場券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ發行ノ方法及條件其ノ他必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ



第六條 抽籤券附回数入場券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年七月二十七日日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ吉野商工大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

紀元二千六百年記念日本萬國博覽會抽籤券附回数入場券發行ニ關スル法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、來ル昭和十五年ニ開催セラルベキ日本萬國博覽會ハ、光輝アル紀元二千六百年ヲ奉祝記念致シマスル本邦最初ノ萬國博覽會デアリマシテ、廣ク海外諸邦ノ參同ヲ招請致シマシテ、我が國體ノ尊嚴及ビ本邦産業文化ノ真髓ヲ中外ニ顯示セントスル國家的ノ大事業デアリマス、政府ニ於キマシテモ本博覽會ノ重要性ニ鑑ミマシテ、本博覽會計畫ヲ紀元二千六百年ノ奉祝記念事業ノ一ツトシテ認メマスルト共ニ、商工省內ニ特別ノ一課及ビ委員會ヲ設ケマシテ、是ガ指導監督、援助ニ努メ來ツタノデアリス、而シテ博覽會ノ開設ニ要シマスル經費ハ、主催者側ノ計畫ニ依リマスルト、二千四百五十萬圓ト相成ツテ居ルノデアリマスルガ、現時相當規模ノ萬國博覽會ヲ開設致シマスルニハ、少クトモ右程度ノ經費ヲ要スルノデアリマスカラ、政府ニ於キマシテモ曩ニ昭和十二年度豫算ヲ以テ五十萬圓ノ國庫補助金ヲ交付スルコトト致シタノデアリマス、更ニ本事業ニ對シマシテ廣ク國民ノ欣然タル支持ト協力トヲ求メマスルガ爲ニ、本博覽會ノ開設者ヲシテ抽籤券附回数入場券ヲ發行セシムルヲ適當ト存ジマシテ、此際特ニ本法ヲ制定セントスルニ至ツタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラシテ御願致シマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ八月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長田中万逸君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレマシタ紀元二千六百年記念日本萬國博覽會抽籤券附回数入場券發行ニ關スル法律案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、本案ハ光輝アル紀元二千六百年ヲ奉祝スベキ記念事業ノ一ツトシテ認メラレテ居リマス、日本萬國博覽會ノ開催ニ當リマシテ、廣ク全國民ノ欣快ナル支持ト協力ヲ求メンガ爲ニ、三千六百五十萬圓ノ抽籤券附回数入場券ヲ發行致シ、以テ萬國博覽會ノ運営ヲ全カラシメ、國光發揚ノ一助タラシメントスル法律案デアリマス、御承知ノ如ク日本萬國博覽會ハ本邦ニ於ケル最初ノ企デアリマシテ、此機會ヲ以テ廣ク海外各國ノ贊同ヲ求メ、世界ニ冠絶セル我が國體ノ尊嚴ト、我國産業及ビ文化ノ真髓ヲ中外ニ昂揚顯示セントスル、眞ニ國家的ノ大事業デアリマス、カルガ故ニ委員會ニ於キマシテモ、各委員諸君頗ル熱心ニ慎重審議ヲ重ネラレ、有益且ツ適切ナル質問應答ヲ交換セラレタノデアリマス、詳細ハ速記録ニ讓リマシテ、茲ニハ其質問ノ二三重要ト存ジマスル内容ノ概略ノミヲ御紹介スルニ止メテ置キタイト思ヒマス、其第一ハ不可抗力ニ因ル開催不能ノ場合ニ於ケル賠償ノ方策如何、更ニ萬一ノ損失ニ關スル補償方法ハ如何、第二ハ富籤類似ノ行爲デハナイカ、又射侍的行爲ニ墮スル憂ハナイカ、第三ハ國庫補助金ノ増額ヲ爲スベキ意思ハナイカ、竝ニ此博覽會ヲ期シテ永久的ノ建築ヲ造營スル計畫ハナイカ、第四ニハ世界各國ニ於ケル博覽會ノ費用ニ比較シテ、今回ノ此經費ヲ遜色ハナイカ、又物價騰貴ノ影響ニ對スル對策ハド



ウデアアルカ、是等ガ其要點デアリマス、質問ガ終結致シマシテ、討論ニ入り、民政黨ヨリハ高橋義次君、政友會ヲ代表シテ深澤豊太郎君、社大黨ヲ代表シテ淺沼稻次郎君ノ贊成演説ガアリマシタ、斯クシテ採決ニ入り、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月六日可決奏上シ同月十四日法律第七十八號ヲ以テ公布セラル

九 關稅定率法中改正法律案

關稅定率法中左ノ通改正ス

第七條第四號ノ二ヲ削リ同條第十二號ヲ左ノ如ク改ム

十二 政府ノ專賣品又ハ酒精ノ製造ニ供スル原料品ニシテ政府ノ輸入ニ係ルモノ

第七條ニ左ノ一號ヲ加フ

二十四 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認許ヲ受ケ輸入スル航空機又ハ航空機用ノ發動機若ハプロペラ

第九條第二項中「輸入原料品ニシテ」ノ下ニ「纖維素バルブ、」ヲ加フ

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム  
第百十二號ヲ左ノ如ク改ム

一一二 礦油

一 石炭又ハ油母頁岩ヨリ製造シタルモノ

二 其ノ他

甲 原油及重油

攝氏十五度ニ於ケル比重

イ 〇・九三四ヲ超エタルモノ

ロ 〇・九〇四ヲ超エタルモノ

ハ 〇・八六〇ヲ超エタルモノ

ニ 其ノ他

但シ蒸餾法ニ依リ攝氏二百

十五度迄ニ餾出スル油液ノ

原液ノ容量ニ對スル百分率

無 稅

六・七五

一〇・三〇

一八・〇〇

二三・四〇



四十ヲ超エタルモノハ四十以上一ヲ増ス毎ニ一キロリットルニ付三十錢ヲ加フ		
乙 其ノ他(動植物性ノ油及脂、石鹼、酒精等ヲ含有スルモノヲ含ム)		
攝氏十五度ニ於ケル比重		
乙ノ一 〇・八〇一七ヲ超エサルモノ	每キロリットル	四六・二〇
乙ノ二 〇・八四九八ヲ超エサルモノ	每キロリットル	四一・〇〇
乙ノ三 其ノ他		
イ 融解點攝氏十五度ヲ超エサルモノ	每キロリットル	七一・二〇
ロ 其ノ他	每百キログラム	八三・〇

第二百七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二〇七ノ二 石炭ガス

無 税

第十一類中「製紙用バルブ」ヲ「纖維素バルブ」ニ改ム

第三百六十二號第二項乙イ中「毎百斤」ヲ削リ「一・〇〇」ヲ「無 税」ニ改ム

第四百七十七號ノ二ヲ削ル

第五百六十三號中「五 割」ヲ「七 割」ニ改ム

第五百六十四號ヲ左ノ如ク改ム

五六四 自動車部分品(原動力機ヲ除ク)

一 シヤシ

甲 輪距二百五十センチメートルヲ超エサルモノ

乙 其ノ他

二 車枠、車輪、前部撥條及後部撥條

三 機關覆、燃料槽、昇降段(エプロン付ノモノヲ含ム)及緩衝器

每百斤	一五四・一五
每百斤	四四・四二
每百斤	一四・一七
每百斤	二四・六一



四	前車軸(ハブ付ノモノヲ含ム)、 消音器及タイヤリム	每百斤	三〇・二六
五	後車軸(ハブ付ノモノヲ含ム)、 車體用型付鐵板、前扉及後扉	每百斤	四一・三〇
六	變速裝置、換向輪、換向齒車及 計器盤(計器ヲ附シタルモノヲ 除ク)	每百斤	六三・九九
七	自在接手及振動減器	每百斤	八六・〇八
八	差動齒車	每百斤	九二・九二
九	變速齒車	每百斤	一三八・三〇
十	其ノ他	從價	六割
第五百七十七號第二項ヲ第三項トシ第一項ヲ左ノ如ク改ム			
一	自動車用ノモノ	每百斤	四八・〇〇
二	自轉車用ノモノ	從價	三割五分
第六百五號第八項ヲ左ノ如ク改ム			

八	針布	每百斤	一一〇・〇〇
甲	皮革ヲ用キタルモノ	每百斤	六〇・六〇
乙	其ノ他	從價	六割
同號第十四項ヲ左ノ如ク改ム			
十四	軸受及同部分品	從價	三割
甲	軸受	從價	三割
乙	ベアリングボール	每百斤	三七・〇〇
丙	其ノ他	從價	三割
十五	其ノ他	從價	二割
第六百七號ノ二中「〇・六〇」ヲ「一・六五」ニ改ム			
第六百四十六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ			
六四六ノ二	變性糖蜜	從價	五分

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 二四九



依ル

二五〇

一〇 昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入税ノ從量税率ニ關スル件)

昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス

別表輸入税表番號第二十二號ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

四〇 砂糖

二 和蘭標本色相第二十二號未滿ノモノ

三 其ノ他

四一 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

同第一百十二號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

一一二 礦油

二 其ノ他

同第一百五十八號ノ二ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一六四 苛性曹達及苛性加里

二 其ノ他ノ内苛性曹達

同第二百五十九號ノ二ノ項ノ次ニ左ノ五項ヲ加フ

二七二 綿織絲(別號ニ掲ケタル特殊綿織絲ヲ除ク)

二八三 毛織絲

二八四 毛綿織絲

二九〇 人造絹(アセチルセルロース製ノモノヲ除ク)

三六一 纖維素バルブ

同第三百六十二號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

三六二 印刷料紙

二 其ノ他

乙 其ノ他

ロ 其ノ他

三六七 包装用紙及燐寸用紙(チッシューペーパーヲ除ク)

同第四百六十三號ノ二ノ項ノ次ニ左ノ五項ヲ加フ

四六四 銅

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案

二五一



一 塊及錠

二 條及竿

三板

四 線

六 筒及管

甲 金屬ヲ鍍セサルモノ

七 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)

四六五 鉛

一 塊及錠

五 管

四六六 錫

一 塊及錠

三 箔

四六七 亞鉛

一 塊、錠及粒

二 板

乙 其ノ他

ロ 其ノ他

四 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)

四七一 眞鍮及青銅

同第五百四十九號ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

五六四 自動車部分品(原動力機ヲ除ク)

一 シヤシ

二 車枠、車輪、前部撥條及後部撥條

三 機關覆、燃料槽、昇降段(エプロン付ノモノヲ含ム)及緩衝器

四 前車軸(ハブ付ノモノヲ含ム)、消音器及タイヤリム

五 後車軸(ハブ付ノモノヲ含ム)、車體用型付鐵板、前扉及後扉

六 變速裝置、換向輪、換向齒車及計器盤(計器ヲ附シタルモノヲ除ク)

七 自在接手及振動減器

八 差動齒車



九 變速齒車

五七七 內燃機關

- 一 自動車用ノモノ

同第六百五號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

六〇五 機械部分品(別號ニ掲ケサルモノ)

- 二 ロール及ローラー

甲 鐵製ノモノ

甲ノ二 其ノ他

ホ 其ノ他

八 針布

十 箆(金屬製ノモノ)

十四 軸受及同部分品

乙 ベアリングボール

六〇七ノ二 カッサヴァールト

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ別表輸入税表番號第四十號、同第四十一號、同第四百六十四號、同第二百七十二號、同第二百八十三號、同第二百八十四號、同第二百九十號、同第三百六十一號、同第三百六十二號、同第三百六十七號、同第四百六十四號乃至同第四百六十七號及同第四百七十一號ノ項ノ改正規定ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一一 大正十四年法律第五十一號中改正法律案(關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税免除等ニ關スル件)

大正十四年法律第五十一號中左ノ通改正ス

別表甲號輸入税表番號第七十二號ノ内ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一一〇ノ内大豆硬化油(關東州ノ生産ニ係ル大豆油ヲ原料トシタルモノ)

同第二百二十九號ノ内ノ項ヲ左ノ如ク改ム

二二九ノ内硫酸マグネシア及硝酸アンモン

別表乙號輸入税表番號第二百二十號ノ内ノ項ヲ削ル

附則



本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一一 鐵ノ輸入税免除ニ關スル法律案

關稅定率法別表輸入稅表第四百六十二號ニ掲グル鐵(別號ニ掲ゲタル特殊鋼ヲ除ク)ノ輸入稅ハ  
本法施行ノ日ヨリ昭和十四年六月三十日迄之ヲ免除ス

前項ノ期間ハ政府特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ニ依リ物品ヲ指定シ之ヲ短縮スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年勅令第三百三十號ハ之ヲ廢止ス

右九、一〇、一一及一二ノ四案ハ昭和十二年七月二十八日執レモ本院ニ提出ス同月二十九日四案  
ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ太田大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ關稅定率法中改正法律案外三件ニ付キ一括シテ御說明ヲ致シマス、先ヅ  
關稅定率法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、今回提出致シマシタ改正案ハ、稅率ノ改正ト致シ  
マシテハ、礦油外九品目ニ關スルモノデアリマスガ、其内主要ナルモノハ、礦油ト自動車及ビ同關  
係品デアリマス、礦油ニ付キマシテハ人造石油ノ項ヲ設ケマシテ之ヲ無稅ト爲シ、其ノ他ノモ

ノハ其關稅率ヲ引上ゲマシテ、液體燃料ノ自給促進ヲ圖ラウト存ズルノデアリマス、又自動車  
及ビ其關係品ニ付キマシテハ、稅率ノ引上ニ依リマシテ、國內ニ於ケル自動車製造事業ノ確立  
ヲ助長スル等、是等產業國策ノ遂行ニ資セントスルモノデアリマス、右ノ稅率改正ノ外燃料用  
礦油ノ關稅ヲ免除スル規定ノ廢止、「バルブ」ノ製造ニ供スル木材ノ關稅ヲ免除スル規定ノ新設  
等、二三ノ改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、次ニ昭和七年法律第四號、即チ輸入稅ノ從量稅  
率ニ關スル件ノ改正法律案ニ付テ申上ゲマス、現在本法ニ依リ關稅定率法ニ依ル稅率ノ三割五  
分ヲ增課セラレテ居ル物品ノ中デ、國民生活又ハ國內產業等ニ重要ナル關係ヲ有スルモノト認  
メラレル砂糖外十四品目ニ付キマシテハ、物價調整ニ資スル等ノ爲メ之ヲ本法ノ別表ニ追加シ、  
以テ三割五分增課ノ範圍カラ除外スルノヲ適當ト認メタノデアリマス、尙ホ今回ノ關稅定率法  
中改正法律ニ依リマシテ其稅率ヲ改正セラルベキ物品ノ中、新ニ從量稅率ヲ定メマシタモノハ、  
各般ノ事情ヲ勘案シマシテ、適當ト認メタ率ヲ配シタノデアリマス、次ハ大正十四年法律第五十一  
ノ別表ニ追加シ、整理的ノ改正ヲ爲サントスルモノデアリマス、次ハ大正十四年法律第五十一  
號中改正法律案デアリマス、今日關東州ノ生産ニ係ル大豆油ヲ原料トシテ關東州ニ於テ製造致  
シマシタ大豆硬化油ハ、本法ニ依ッテ一般稅率ヨリモ低減シタ稅率ニナッテ居ルノデアリマス  
ガ、之ヲ全額免除スルコトトシタイノデアリマス、又最近關東州ニ於テ生産ヲ見ルニ至リマシ  
タ硝酸「アンモン」ニ付キマシテモ、是ガ輸入ニ便スル爲メ其輸入稅ヲ免除スルノヲ適當ト認  
メマシテ、本改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、最後ニ鐵ノ輸入稅免除ニ關スル法律案ニ付テ御  
說明申上ゲマス、鐵ノ輸入稅免除ニ關スル法律案ハ前議會ニ提出セラレ、審議未了トナリ、去  
ル四月十五日勅令第三百三十號ヲ以テ鐵ノ輸入稅免除ニ關スル緊急勅令ガ公布サレタノデアリマ  
ス、然ルニ右緊急勅令ニ依ル輸入稅ノ免除期間ハ明年三月三十一日迄デアリマスガ、鐵ノ生  
産、輸入、需給等ノ狀況ニ顧ミマストキハ、昭和十四年六月迄之ヲ免除スルコトト爲ス等ノ必  
要ガアリマスノデ、今回別ニ之ニ關スル法律ヲ制定スルト同時ニ、右緊急勅令ハ之ヲ廢止スル  
コトト致ス次第デアリマス、尙ホ詳細ノコトニ付キマシテハ適當ノ機會ニ於テ御說明ヲ申上ゲ



タイト存ジマス、何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス  
 次テ四案ハ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十  
 日委員會ヲ開キ委員長及理事互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決(九ニハ附帶決議及希望條項ヲ一〇ニハ希望條項ヲ附ス)スヘキモ  
 ノト決シ八月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

### 九ニ對スル委員會報告書附帶決議及希望條項

#### 附帶決議

- 一 政府ハ漁業經費低減施設費ヲ昭和十三年度以降年額三百萬圓ニ増額シテ施設ヲ擴充シ其ノ  
 中百萬圓ヲ下ラサル金額ハ從來ノ關稅免除ニ依ル受益者中現行豫算ノ機械改造補助ヲ受ケサ  
 ル中小漁業者ニ補助金トシテ交付スヘシ

#### 希望條項

- 一 政府ハ燃料國策ノ遂行ニ當リ自動車營業者ノ受ク可キ負擔ヲ輕減セシムル爲自動車稅ノ減  
 免道路ノ改良其ノ他斯業ノ改善ニ必要ナル諸般ノ政策ヲ急速ニ實施スヘシ
- 二 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ人造揮發油ノ相當多量カ商品トシテ市場ニ出荷セラルル迄  
 關稅引上ニ依ル値上許可ニ付テハ深甚ノ考慮ヲ拂フヘシ
- 三 政府ハ砂糖關稅引下ニ依リ沖繩縣糖業ノ蒙ル打撃ヲ緩和スル爲適切ナル施設方法ヲ講スヘ  
 シ

四 纖維バルブ及其ノ資材關稅免除ニ當リ國內森林資源ノ再檢討ヲ爲シ纖維工業並各種木材工  
 業ノ資源ノ自給策ヲ講シ速ニ其ノ實現ヲ期スヘシ

五 新聞紙輸入關稅免除ニ鑑ミ印刷其ノ他用紙ノ免稅ニ付考慮スヘシ

六 滿洲ベニ松輸入關稅ハ昭和十三年度ヨリ是カ全免ヲ實施スヘシ

### 一〇ニ對スル委員會報告希望條項

一 政府ハ燃料國策ノ遂行ニ當リ自動車營業者ノ受ク可キ負擔ヲ輕減セシムル爲自動車稅ノ減  
 免道路ノ改良其ノ他斯業ノ改善ニ必要ナル諸般ノ政策ヲ急速ニ實施スヘシ

二 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ人造揮發油ノ相當多量カ商品トシテ市場ニ出荷セラルル迄  
 關稅引上ニ依ル値上許可ニ付テハ深甚ノ考慮ヲ拂フヘシ

三 政府ハ砂糖關稅引下ニ依リ沖繩縣糖業ノ蒙ル打撃ヲ緩和スル爲適切ナル施設方法ヲ講スヘ  
 シ

四 纖維バルブ及其ノ資材關稅免除ニ當リ國內森林資源ノ再檢討ヲ爲シ纖維工業並各種木材工  
 業ノ資源ノ自給策ヲ講シ速ニ其ノ實現ヲ期スヘシ

五 新聞紙輸入關稅免除ニ鑑ミ印刷其ノ他用紙ノ免稅ニ付考慮スヘシ



六 滿洲ベニ松輸入關稅ハ昭和十三年度ヨリ是カ全免ヲ實施スヘシ

同日議事日程ヲ變更シテ九、一〇、一一、一二及一三ノ五案ヲ一括シテ委員長山道襄一君ハ委員  
會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

關稅定率法中改正法律案外四件ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、此委員會  
ハ二十九日ニ開會ヲ致シマシテ、委員長及理事ノ互選ヲ致シマシテ、引續イテ提案ノ理由ニ付  
キマシテ政府ノ説明ヲ聽キマシテ、翌三十日ト本月一日トノ兩日ニ互リマシテ、午前、午後、  
委員諸君ト政府委員諸君トノ間ニ質疑應答ガ重ネラレマシタ、大體此案ハ前議會ニ於キマシ  
テ、委員會ダケハ終了致シマシテ、審議ヲシ盡サレタモノガ大部分デアリマス、餘程質疑應  
答ハ滑カニ進行致シマシタ、唯一ツ此中デ重要ニ取扱ハレテ應答ノ重ネラレマシタノハ、漁業  
ニ用ヒマスル礦油ノ關稅ノ件ニ付キマシテ、主トシテ質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、サ  
ウ致シマシテ、本日午後二時ヨリ討論ニ入りマシテ、先ヅ西村金三郎君カラ附帶決議竝ニ希望  
條項ニ付テノ御説明ガアリマシタ、岩瀬君竝ニ笠井君ヨリモ同様ナル御提言ガアリマシテ、更  
ニ社會大衆黨ノ田原君ヨリ修正ノ動議ガ提出セラレマシタ、討論ガ終局ヲ致シマシテ採決ニ入  
リマシタガ、此採決ニ付キマシテ御報告ヲ致シマス前ニ、一應附帶決議ニ付テ茲ニ其全文ヲ御  
報告ヲ申上ゲマス、附帶決議ハ

政府ハ漁業經營費低減施設費ヲ昭和十三年度以降年額三百萬圓ニ増額シテ施設ヲ擴充シ其ノ  
中百萬圓ヲ下ラサル金額ハ從來ノ關稅免除ニ依ル受益者中現行豫算ノ機械改造補助ヲ受ケサ  
ル中小漁業者ニ補助金トシテ交付スヘシ  
斯ウ云フ附帶決議デアリマス、希望條項ハ

一 政府ハ燃料國策ノ遂行ニ當リ自動車營業者ノ受クヘキ負擔ヲ輕減セシムル爲自動車稅ノ  
減免道路ノ改良其ノ他斯業ノ改善ニ必要ナル諸般ノ政策ヲ急速ニ實施スヘシ

二 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ人造揮發油ノ相當多量カ商品トシテ市場ニ出荷セラルル  
迄關稅引上ニ依ル値上許可ニ付テハ深甚ノ考慮ヲ拂フヘシ

三 政府ハ砂糖關稅引下ニ依リ沖繩縣糖業ノ蒙ル打撃ヲ緩和スル爲適切ナル施設方法ヲ講ス  
ヘシ

四 纖維バルブ及其ノ資材關稅免除ニ當リ國內森林資源ノ再檢討ヲ爲シ纖維工業竝各種木材  
工業ノ資源ノ自給策ヲ講シ速ニ其ノ實現ヲ期スヘシ

五 新聞紙輸入關稅免除ニ鑑ミ印刷其ノ他用紙ノ免稅ニ付考慮スヘシ

六 滿洲ベニ松輸入關稅ハ昭和十三年度ヨリ是カ全免ヲ實施スヘシ

是ダケノ希望條項デアリマス、之ニ付キマシテ採決ヲ致シマシタ、關稅定率法中改正法律案ニ  
付キマシテハ、多數ヲ以テ原案ガ成立致シマシタノデアリマス——順序ヲ間違ヘマシタガ、先ヅ  
田原君ノ御提出ニナリマシタ修正案ニ付テノ採決ヲ致シマシタ所、修正案ハ少數ニ依ッテ否決  
セラレマシタ、更ニ昭和七年法律第四號中改正法律案ニ付キマシテハ大多數ヲ以テ可決致シマ  
シタ、此二ツノ案ニ對シマスル先ニ讀上ゲマシタル希望條項ニ付テ採決致シマシテ、是亦大多  
數ヲ以テ可決致シマシタ、更ニ大正十四年法律第五十一號中改正法律案、鐵ノ輸入稅免除ニ關  
スル法律案、大正九年法律第五十三號中改正法律案、此三案ヲ一括シテ採決ヲ致シマシタガ、  
是亦多數ヲ以テ可決致シマシタ、左様ニ致シマシテ、採決ノ終了致シマシタ後デ西村君竝ニ岩  
瀬君ヨリノ御要求ニ依リマシテ政府ノ此附帶決議ニ對スル意思ヲ宣明セラレンコトヲ求メマシ  
タ、之ニ對シマシテ大藏當局ヨリハ只今附帶決議ト相成ッテ居ル條項ニ付キマシテハ、篤ト諒承  
ヲ致シマシタ、政府ニ於キマシテモ御趣旨ニ副フヤウニ努力スル考デアリマス云フ答デアリ  
マシタ、農林當局ニ於キマシテモ、明年度ヨリ漁業經營費低減、施設費豫算增加方ニ付テノ御意  
見ニ付キマシテハ、只今大藏當局ノ言明ノアリマシタ通りデアリマス、農林省ト致シマシテ  
ハ、其中特ニ中小漁業從業者ニ對スル特別ノ新施設ヲ行フ趣旨ノ點ニ付キ篤ト考慮致シマシ  
テ、適切ナル方途ヲ講ジタイト存ジテ居リマス云フ言明デアリマシタ、之ニ對シマシテ更ニ中



井君、岩瀬君ヨリ簡單ニ御質問ガアリマシテ、必ズ政府ハ此決議ノ趣旨ヲ實行ヲシテ貫ヒタイ、從來動モスレバ議院ノ決議ヲ政府ハ實行セザルコトガ非常ニ多イノデアアル、今回ハ兩當局ノ誠意アル回答ニ依ッテ諒承スルケレドモ、特ニ其實行ヲ要望スルコトヲ強ク出張ヲセラレマシタ、更ニ之ニ付キマシテ上田君ヨリ、大藏、農林兩當局ハ本會議ノ席上ニ於テモ、此政府ノ趣旨ヲ明白ニ宣明ヲシテ貫ヒタイトノ要求ガアリマシテ、此事ヲ委員長ヨリ傳ヘヨトノコトデアリマシタカラ傳達ヲ致シテ置キマス、更ニ社會大衆黨ヨリ希望條項ノ提出ガ了リマシタガ、既ニ採決ノ後デアリマシタノデ、委員長ノ裁量ニ於キマシテ、其提案ニ付テノ御朗讀ヲ許スコトニ致シマシテ、此希望條項ヲ提出セラレマシタ、是モ折角ノ大衆黨ノ意向デアリマスカラ、此際時間ヲ頂戴シテ其内容ノ御報告ヲサシテ戴キタイト思ヒマス

希望條項

- 一 政府ハ砂糖關稅引下ニ伴フ砂糖市價ノ低落ニ依ル損失ガ甘蔗栽培者ニ轉嫁サル、コトナキヤウ嚴重ニ監督スベシ
  - 二 政府ハ今後液體燃料自給策ノ遂行ニ當リ石炭及其他ノ基礎産業ヲ一丸トスル國策ヲ確立スルト共ニ人造石油製造事業ノ採算ヲ「ガソリン」關稅ノ引上ニ依ッテ維持スルガ如キ方策ヲ避クルコトニ努力スベシ
  - 三 政府ハ物價騰貴ニ惱ミツ、アル國民生活ノ實情ニ鑑ミ今後トモ出來得ル限り生活必需品ノ輸入關稅ヲ廢減スルト共ニ製紙製糖ノ如キ高率ノ利潤アル事業ニ對シテハ最早關稅保護ノ必要ナキヲ以テ「バルブ」及砂糖ノ輸入關稅ノ如キハ之ヲ全廢スルヤウ善處スベシ
- 斯ウ云フノデアリマス、以上ヲ以テ委員會ノ御報告ト致シマス

賀屋大藏大臣ハ發言ヲ求メ政府ノ意見ヲ述フ  
只今委員長ヨリ御報告ノ附帶決議ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテ御趣旨ニ副フヤウ努力スル考デゴザイマス

有馬農林大臣ハ發言ヲ求メ政府ノ意見ヲ述フ  
明年度ヨリノ漁業經營費低減、施設費ノ豫算増額方ニ付テノ御意見ニ付キマシテハ、只今大藏大臣ノ言明ノアリマシタ通りデアリマス、農林省ト致シマシテハ、其中特ニ中小漁業従業者ニ對スル特別ノ新規施設ヲ行フ趣意ノ點ニ付キマシテハ、篤ト考慮致シマシテ適切ナル方途ヲ講ジタイト存ジマス

院議異議ナク五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通過可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月六日可決奏上シ(二三參看)同月十一日九ハ法律第五十五號、一〇ハ法律第五十六號、一一ハ法律第五十八號、一二ハ法律第五十七號ヲ以テ公布セラル

一三 大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法及關稅定率法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)

- 大正九年法律第五十三號中左ノ通改正ス
- 第二條第一號中「面」ヲ「邑面」ニ改メ同條第六號ヲ第九號トシ同條第五號ノ次ニ左ノ三號ヲ加フ
- 六 第四號ノ車輛ニシテ破損シタルモノ竝ニ其ノ解體材及備品、附屬品
- 七 朝鮮總督ノ定ムル陸接國境隣接地域内ノ住民カ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ加工又ハ修繕



ノ爲輸出シタル物品ニシテ輸出ノ日ヨリ六月内ニ再輸入スルモノ  
八 朝鮮ニ於テ揮發油ニ混入スヘキアルコールノ製造ニ供スル原料品但シ朝鮮總督ノ定ムル  
所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

第二條ノ二 陸接國境ヲ經テ朝鮮ニ輸入シタル左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年内ニ再輸出ス  
ルモノニハ輸入税ヲ免除ス但シ輸入ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一 鐵道車輛及其ノ備品、附屬品但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

二 朝鮮總督ノ定ムル陸接國境隣接地域内ニ於テ使用スル物品但シ朝鮮總督ノ指定シタルモ  
ノニ限ル

第三條第一項中「三萬五千噸」ヲ「十萬噸」ニ改メ「製鐵事業」ノ下ニ「又ハ砂鐵若ハ朝鮮總督ノ定  
ムル鐵鑛ノ製鍊ヲ目的トスル特殊ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業」ヲ加フ

第七條ノ二 雄基港、羅津港及清津港ニ於テ稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定  
シタル場所ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ稅關長ノ許可ヲ得テ貨物ノ改装、仕分及混合  
ヲ爲スコトヲ得

第八條中「面事務所」ヲ「邑面事務所」ニ、「面」ヲ「邑面」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十二年七月二十八日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ大谷拓務大臣ハ左  
ノ趣旨辯明ヲ爲ス

大正九年法律第五十三號、關稅法關稅定率法保稅倉庫法及假置場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關  
スル法律中改正法律案ニ付テ御說明申上ゲマス、本法律案ハ前議會ニ之ヲ提出致シマシタ所、解  
散ニ依ッテ審議未了トナリマシタノデ、内容ヲ若干追加致シマシテ、茲ニ再ビ提出致シマシタ  
次第デアリマス、朝鮮ニ於テモ燃料國策ニ順應シ、大體内地ト同様ニ揮發油及ビ「アルコール」混  
用制度ヲ實施スル計畫デアリマシテ、混用「アルコール」ノ製造ハ差當リ政府ノ免許ヲ受ケタル  
民間ノ事業者ヲシテ之ニ當ラシムル方針デアリマスノデ、低廉豐富ナル供給ヲ圖リマスル爲  
メ、混用「アルコール」ノ原料ノ輸入税ヲ免除セントスルノデアリマス、次ニ日滿陸接國境ヲ經  
由スル交通貿易ノ進展ヲ圖リ、陸接國境隣接地域住民ノ便利ニ資スル爲メ若干ノ免稅規定ヲ  
設ケマスルト共ニ、雄基、羅津及ビ清津ノ三港ノ保稅區域内ニ於ケル大豆、其他ノ滿洲特產品  
ノ取扱上必要ナル特例ヲ認メントスルモノデアリマス、最後ニ製鐵事業法ノ制定ニ伴ヒ輸入税  
免除ノ特典ヲ與フル製鐵事業者ノ資格ヲ改正スルト共ニ、曩ニ行ハレマシタ朝鮮ニ於ケル地方  
制度ノ改正ニ伴フ字句ノ修正ヲ爲サントスル次第デアリマス、何卒宜シク御審議ノ上速ニ御協  
賛アラントコトヲ希ヒマス

次テ本案ハ政府提出關稅定率法中改正法律案外三件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末  
原案ヲ可決スヘキモノト決シ八月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案及九、一〇、一一、一二ノ五案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ



(委員長報告ハ)院議異議ナク五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シ  
(本項第九參看)テ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月六日本案ヲ可決奏上シ同月十三日法律第六十七號ヲ以テ公布セララル

一四 産金法案

産金法

第一條 含金礦物、砂金又ハ製鍊ノ過程ニ在ル含金物(以下含金礦產物ト總稱ス)ヲ取得シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金地金ニ製鍊シテ政府ニ賣却シ又ハ之ヲ金製鍊業者若ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金礦產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ賣却スベシ  
前項ノ含金礦產物ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ含金礦產物ヲ取得シタル者ニ對シ之ヲ金製鍊業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金礦產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ政府ノ指定スルモノニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ金製鍊業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金礦產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ政府ノ指定スル者ヨリ含金礦產物ヲ買入ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條 金製鍊業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ免許ヲ受クベシ業トシテ含金礦產物ノ買入ヲ爲サントスル者亦同ジ

前項ノ免許ヲ受ケ金製鍊業ヲ營ム者ハ之ヲ金製鍊業者ト稱ス  
金製鍊業者又ハ第一項ノ規定ニ依リ含金礦產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ非ザレバ含金礦產物ヲ讓受クルコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 金製鍊業者其ノ事業ヲ廢止シ又ハ休止セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ  
金製鍊業ノ讓渡又ハ金製鍊業ヲ營ム會社ノ合併若ハ解散ノ決議若ハ總社員ノ同意ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

相續人が被相續人ノ金製鍊業ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ金製鍊業ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ相續人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ届出ヅベシ  
第五條 金製鍊業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得



第六條 政府ハ産金ノ増加ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ金製鍊業者ニ對シ製鍊設備ノ擴張、改良其ノ他製鍊設備ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第七條 金鑛ヲ目的トスル鑛業權者及砂金ヲ目的トスル砂鑛權者(以下金鑛業者ト總稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第八條 政府ハ産金ノ増加ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ金鑛業者ニ對シ探鑛、掘探、採取若ハ選鑛ニ付設備ノ新設、擴張、改良其ノ他必要ナル事項ヲ命ジ又ハ製鍊設備ノ新設ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ製鍊設備ノ新設ヲ爲シタル者ハ金製鍊業者ト看做ス

第九條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ金鑛業者、金製鍊業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ含金鑛產物ノ取引ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十條 政府ハ金鑛業者、金製鍊業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ金鑛業者、金製鍊業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケ

タル者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ金ノ價格又ハ金ノ使用ノ制限其ノ他金ノ使用ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ取得、處分又ハ保有ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第十三條 鑛業法第五十條乃至第七十條、第九十二條、第九十三條、第九十九條第一項、第三百三條及第四百四條ノ規定ハ金鑛業者ニ非ザル金製鍊業者ニ關シ之ヲ準用ス

第十四條 政府第二條、第六條、第八條第一項、第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ金委員會ノ議ヲ經ベシ

金委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 金鑛業者又ハ金製鍊業者其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第十六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ金鑛業者及金製鍊業者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ノ返還ヲ命



ズ  
前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十八條 金製鍊業者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ政府ノ命ジタル事項ヲ執行セザルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該金地金又ハ含金鑛產物ノ價額ノ三倍ガ五千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ其ノ價額ノ三倍以下トス

- 一 第一條第一項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ金地金ヲ政府ニ賣却セザル者
- 二 第一條第一項ノ規定ニ違反シテ金地金ヲ政府以外ノ者ニ讓渡シタル者
- 三 第一條第一項ノ規定ニ違反シテ金製鍊業者及第三條第一項ノ規定ニ依リ含金鑛產物ノ買入ノ免許ヲ受ケタル者以外ノ者ニ含金鑛產物ヲ讓渡シタル者
- 四 第三條第一項ノ規定ニ違反シテ含金鑛產物ヲ買入レ又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シテ之ヲ讓受ケタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ含金鑛產物ヲ政府ノ指定シタル者以外ノ者ニ讓渡シタル者
  - 二 第三條第一項ノ規定ニ違反シテ金ノ製鍊ヲ爲シタル者
  - 三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
  - 四 第十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第四條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ廢止シ又ハ休止シタル者
  - 二 第五條第一項又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者
  - 三 第五條第二項又ハ第七條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者
  - 四 第六條又ハ第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第四條第三項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サザル者



三 第十條第一項又ハ第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

・三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第二十三條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第十九條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第十九條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

二 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ含金鑛產物ヲ所有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ニ之ヲ取得シタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ金製鍊業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ二月ヲ限り第三條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ金製鍊業ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許否ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

一五 金準備評價法案

金準備評價法

第一條 日本銀行ハ兌換銀行券ノ引換準備ニ充ツル金貨及金地金ヲ當分ノ内貨幣法第二條ノ規定ニ拘ラズ純金ノ量目二百九十ミリグラムニ付一圓ノ割合ヲ以テ評價スベシ朝鮮銀行又ハ臺灣銀行ガ朝鮮銀行券又ハ臺灣銀行券ノ仕拂準備ニ充ツル金貨及金地金ニ付亦同ジ

前項ノ評價ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條 日本銀行、朝鮮銀行及臺灣銀行ハ前條ノ規定ニ依ル評價換ニ因リテ生ジタル利益額ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ政府ニ納付スベシ但シ日本銀行ガ日本銀行金買入法ニ依リ買入レ保有スル金地金ニ付テハ同法第六條ノ規定ニ依ル

第三條 政府ハ日本銀行ニ對シ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ保有スル金地金ノ一部ヲ第一條ノ規定ニ依リ評價シタル價格ヲ以テ同行ニ於ケル國庫金ノ勘定ニ移スベキコトヲ命ズルコトヲ得

政府ハ朝鮮銀行及臺灣銀行ニ對シ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ際其ノ保有スル金貨及金地金ノ全部又ハ一部ヲ第一條ノ規定ニ依リ評價シタル價格ヲ以テ日本銀行ニ引渡スベキ



コトヲ命ズルコトヲ得

第四條 兌換銀行券條例第六條及貨幣法第十四條ノ規定ハ當分ノ内之ヲ適用セズ  
朝鮮銀行及臺灣銀行ハ朝鮮銀行法第二十一條第二項又ハ臺灣銀行法第八條第二項ノ規定ニ拘  
ラズ當分ノ内朝鮮銀行券又ハ臺灣銀行券ノ金貨引換ヲ爲スコトヲ得ズ

#### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和七年勅令第四號ハ之ヲ廢止ス

第一條ニ規定スル評價ノ割合ヲ後日變更スルコトアル場合ニ於テハ日本銀行ハ其ノ變更ニ因リ  
兌換銀行券ノ引換準備ニ充ツル金貨及金地金ニ付生ズル利益又ハ損失ニ付大藏大臣ノ定ムル所  
ニ依リ其ノ利益額ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付シ又ハ政府ヨリ其ノ損失額ニ相當スル金額ノ補  
填ヲ受クルモノトス朝鮮銀行又ハ臺灣銀行ガ朝鮮銀行券又ハ臺灣銀行券ノ仕拂準備ニ充ツル金  
貨及金地金ニ付亦同ジ

#### 一六 金資金特別會計法案

##### 金資金特別會計法

第一條 金資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 金準備評價法第二條ノ規定ニ依リ日本銀行、朝鮮銀行及臺灣銀行ガ政府ニ納付スベキ  
金額竝ニ日本銀行金買入法第五條第二項及第六條ノ規定ニ依リ日本銀行ガ政府ニ納付スベキ  
金額ハ之ヲ本資金ニ受入ルベシ

第三條 本資金ハ總額五千萬圓ヲ限リ豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ産金ノ増加ヲ圖ル爲必要ナル  
費途ニ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ繰入レ一般ノ歳出  
トシテ拂出スベシ

第四條 本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナル金額ヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル  
所ニ依リ之ヲ金又ハ國債ニ運用スルコトヲ得

本資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム  
第五條 本會計ニ於テハ資金運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ第三條ノ規定ニ依リ  
一般會計ヘノ繰入金、事務取扱費、資金運用手數料、附屬諸費及資金運用損失金ヲ以テ其ノ  
歳出トス



第六條 本資金ニ屬スル資産ニシテ價格ノ減損ヲ生ジタルモノアルトキハ本會計ノ決算上生ジタル剩餘又ハ資金ヨリ之ヲ償却スベシ

第七條 本會計ノ決算上剩餘ヲ生ジタルトキハ前條ノ償却ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ資金ニ繰入ルベシ

本會計ノ決算上不足ヲ生ジタルトキハ之ヲ資金ヨリ補足スベシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

兌換銀行券條例第二條第五項ノ借入金及日本銀行金買入法第四條ノ債務ハ本會計ノ負擔トス

一七 日本銀行金買入法廢止ニ關スル法律案

日本銀行金買入法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一八 朝鮮銀行法中改正法律案

朝鮮銀行法中左ノ通改正ス

第二十二條第二項中「五千萬圓」ヲ「一億圓」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一九 臺灣銀行法中改正法律案

臺灣銀行法中左ノ通改正ス

第八條第二項中「金貨」ノ下ニ「又ハ兌換銀行券」ヲ加フ

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案



第九條第一項中「金銀貨及地金銀」ヲ「金貨、地金銀及兌換銀行券」ニ、第二項中「二千萬圓」ヲ「五千萬圓」ニ改メ同項及第三項中「紙幣、」及「兌換銀行券」ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二〇 外國爲替管理法中改正法律案

外國爲替管理法中左ノ通改正ス

第一條第十號中「輸出」ノ下ニ「又ハ輸入」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右一四、一五、一六、一七、一八、一九及二〇ハ昭和十二年七月二十九日執レモ本院ニ提出ス同月三十日七案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ賀屋大藏大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題ト相成リマシタ産金法案外六件ニ付キ提案ノ理由ヲ説明致シマス、先ヅ産金法案ニ付キマシテハ現下内外ノ情勢ニ顧ミ、國際收支ヲ改善シ、之ヲ適合セシムルコトハ喫緊ノ要務デア

ルノデアリマスルガ、是ガ爲ニハ我國産金ノ増加ヲ圖リ、之ヲ政府ニ集中シ、以テ對外決濟力ヲ豐富ナラシムルト共ニ、正貨準備ヲ鞏固ナラシムルコトガ、極メテ必要ナコトト考ヘルノデアリマス、現在ニ於テモ政府ハ累次ノ日本銀行金買入價格ノ引上ニ依リ、國內産金ノ増加竝ニ産金ノ集約ニ努メテ參ツタノデアリマスルガ、此際更ニ進ンデ新産金ハ其製成ニ至ル過程ヨリ政府ノ監督下ニ置キ、一層是ガ集約ノ實ヲ舉グルコトヲ必要ト認メルノデアリマス、又國內金ノ需要ニ關シテハ、正當且ツ妥當ナル目的ニ充テラル、モノハ、適當ナル方法ニ依リ之ヲ需要者ニ頒ツ方針デアリマスルガ、市中ノ所謂鑄潰金等ニ付キマシテハ、之ヲ現在通リト致シテ置ク方針デアリマス、唯必要ニ應ジ、金ノ使用ニ關シテハ或ル程度ノ制限ヲ加ヘ得ルコトトスルノガ適當デアルト認メルノデアリマス、次ニ政府ハ産金ニ關スル事業ニ對シ、必要ナル監督ヲ爲スト共ニ、探鑛ノ獎勵、選鑛場竝ニ製鍊場ノ設置助成、其他ニ付キ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付シ、又必要ナル器具機械等ノ輸入税ヲ免除スル等、適當ナル保護助成ノ方法ヲ講ジ、以テ産金額ノ増加ニ資スルコトガ肝要デアルト認メルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リ茲ニ本法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ金準備評價法案提案ノ理由ヲ説明致シマス、現在兌換銀行券、朝鮮銀行券及ビ臺灣銀行券ノ金準備ニ充當セラル、金ハ、時價ノ著シキ昂騰ニモ拘ラズ、依然貨幣法第二條ノ定ムル所ニ依リ、純金ノ量目七百五十庭ニ付キ一圓ノ割合ヲ以テ評價セラレテ居ルノデアリマスルガ、此際是等ノ準備ニ充當セラル、金ヲ國際の時價ニ近い程度ニ評價換シ、金準備ノ實勢ヲ其儘表示致シマスルコトハ、洵ニ適切ナル措置デアルト考ヘルノデアリマス、唯貨幣法ヲ改正シ、所謂平價ノ切下ヲ爲シテ我國通貨ノ價值ヲ確定致シマスコトハ、尙ホ未ダ其時期デナイト考ヘラレマスルノデ、此際ハ金ヲ發券ノ準備ニ充當スル場合ノ充當價格ニ付テノミ一應ノ改定ヲ加フルヲ適當ト認メ、現在ノ金ノ時價ニ約一割ノ餘裕ヲ置イテ、純金ノ量目二百九十庭ニ付キ一圓ト云フ割合ヲ以テ評價換行フコトト致シタイト思ヒマス、此評價換ノ結果生ズル日本銀行、朝鮮銀行及ビ臺灣銀行ノ評價益ハ政府ニ納付セシムルコトトシ、之ヲ以テ特別ノ資金ヲ設ケ、後ニ申上ゲマスルヤウニ特別會計ト致シマシテ、日本銀行所有ノ金



地金ノ一部ヲ本會計ニ移シ、又今後ノ新産金ハ此會計ニテ買上ゲ、外國爲替資金ヲ調整スル爲メ必要ニ應ジ金ヲ現送スル考デアリマス、又朝鮮銀行及ビ臺灣銀行ニ付テハ、強ヒテ金ヲ準備ニ充當スルノ必要モアリマセヌノデ、此際兩行ノ保有スル金ヲ日本銀行ニ集中スル途ヲ開キ置クコトヲ適當ト認メマス、以上ノ趣旨ニ依リ茲ニ本法草案ヲ提出シタ次第デアリマス、次ニ金資金特別會計法案提出ノ理由ヲ説明致シマス、金準備評價法ニ依リマシテ日本銀行、朝鮮銀行及ビ臺灣銀行ガ政府ニ納付致シマスル金額、竝ニ日本銀行金買上法ニ依リマシテ日本銀行ガ政府ニ納付致シマスル金額ハ、之ヲ以テ特別ノ資金ヲ設置シ、主トシテ爲替資金ノ調整ノ爲メ之ヲ金ニ運用シ、若シ餘裕アル時ハ國債ニモ運用スルコトヲ致シ、又豫算ノ定ムル所ニ依リマシテ産金ノ増加ヲ圖ル爲ニモ使用シ得ルコトヲ計畫デアリマス、而シテ其歳入歳出ハ之ヲ一般ノ會計ト區分經理スル爲メ、特別ノ會計ヲ樹ツルノ必要ガアリマスルノデ、本法草案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ日本銀行金買上法廢止ニ關スル法案ノ提案理由ヲ説明致シマス、政府ハ從來日本銀行ヲシテ金ノ買上ヲ行ハシメテ參リマシタガ、前ニ申上ゲマシタ産金法ノ制定ニ伴ヒ、今後ハ金資金特別會計ノ資金ノ運用トシテ、政府ガ金買上ヲ行フコトナリマシタル爲メ、日本銀行金買上法ヲ存置スル必要ガアリマセヌノデ、之ヲ廢止スルコトトシ、茲ニ本法草案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ朝鮮銀行法中改正法案ニ付テ申上ゲマス、朝鮮銀行券ノ保證發行限度ハ現在五千萬圓デアリマスルガ、此限度ハ大正七年ニ定メラレタモノデアリマシテ、朝鮮ノ經濟及ビ同銀行券發行ノ現況等ニ照シマシテ、少額ニ過ギルト思ハレマスルノデ、此際之ヲ一億圓ニ擴張スルヲ適當ト認メマシテ、本改正法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣銀行法中改正法案ニ付キ申上ゲマス、現在同銀行券ノ支拂準備ハ、金銀貨及ビ地金銀トナツテ居ルノデアリマスルガ、今日ニ於テハ支拂準備ヲ是等ノモノニ限ル必要ハナイト認メラレルノデアリマシテ、此際朝鮮銀行券ノ例ニ倣ヒマシテ、兌換銀行券ヲ支拂準備中ニ加ヘマスルト共ニ、之ニ伴フテ兌換銀行券ヲ臺灣銀行券ノ引換物件中ニ加フルノヲ適當ト考ヘマス、尙ホ現在臺灣銀行券ノ支拂準備及ビ保證準備ノ中ニハ、銀貨或ハ政府發行ノ紙幣

ガ入ツテ居ルノデアリマスルガ、是等ノモノハ今日其必要ガアリマセヌノデ、之ヲ除クノヲ適當ト認メマス、次ニ同銀行券ノ保證發行限度ハ、現在二千萬圓デアリマスルガ、此限度モヤハリ大正七年ニ定メラレタモノデアリマシテ、臺灣ノ經濟及ビ同銀行券發行ノ現況等ニ照シマシテ少額ニ過ギルト思ハレマスルノデ、此際之ヲ五千萬圓ニ擴張致シタイト考ヘマス、斯様ナ次第デアリマスルノデ、本改正法案ヲ提案致シタ次第デアリマス、最後ニ外國爲替管理法中改正法案ニ付キ、提案ノ理由ヲ説明致シマス、貨物ノ無爲替輸入ノ中、代金決済ニ付キ外國送金關係ヲ伴ハザルモノニ付キマシテハ、現在外國爲替管理法ニ依リ取締リ得ナイコトニナツテ居リマスルガ、最近爲替管理ノ強化ニ伴ヒ、右ノ缺陷ヲ利用シテ、輸入ヲ企テル者ガ漸次増加スル虞ガアリマシテ、斯クテハ輸入爲替管理ノ完全ナル遂行ニ支障ヲ生ゼシムルト共ニ、本邦國際收支ニ於ケル受取勘定ヲ減少セシムルコトナリマスルノデ、同法ニ改正ヲ加ヘ是ガ取締ラ爲シ、以テ爲替管理ノ完璧ヲ期シタイト思フノデアリマス、以上七件ニ關シ、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

宮澤胤勇君、武田德三郎君及佐竹晴記君質疑ヲ爲シ太田大藏政務次官及木暮商工政務次官應答ス

宮澤胤勇君ノ質疑

只今議題トナリマシタ金ノ諸問題ニ付キマシテ、二三御伺ヲ致シタイト思フノデアリマス、産金ノ獎勵ハ今日ノ我が内外ノ經濟事情ヨリ致シマシテ、適當ノコトデアルト思フノデアリマスルガ、併シ此法文ヲ見マスルト、獎勵ノ趣旨ハ結構デアリマスルケレドモ、其手續ガ非常ニ面倒デアリマシテ、監督ノ方法ガ複雑デアリマシテ、或ハ産金ノ獎勵ヨリモ、逆ニ制限ノ法律ニナルノデハナイカト云フ心配ヲ私共致スノデアリマス、此點ハ一ツ此法ノ運用ノ上ニ於キマシテ、政府ニ於テ十分ニ御考ヲ願ハナケレバナラヌノデハナイカト思フノデアリマス、就キマシテハ私ハ此度ノ金評價換並ニソレヨリ生ズル特別資金設定等ニ付キマシテ、一二御尋ヲ致シタイノ



デアリマス、金評價換ニ付テハ貨幣法第二條ヲ變更シナイデ、特別ニ評價法ト云フモノヲ新シク制定スル、是ハ何ノ必要ガアツテ斯様ニ致スノデアリマス、七百五十「ミリ」ノモノヲ二百九十「ミリ」ニ變ヘルト云フコトヲ、貨幣法第二條ノ變更ニ止メテ宜シイヤウニ考ヘルノデアリマスガ、特ニ斯ウ云フ特別法ヲ制定セラレタノハ、何ノ理由デアリマス、先ヅ第一ニソレヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ第二ニハ、此七百五十「ミリ」カラ二百九十「ミリ」ニ換算ヲ致シマシタ其理論上、竝ニ實際上ノ根據ヲ、モウ少シ詳シク御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、次ニ此評價換ヲ致シマシタ結果、日本銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行ニ現在持ッテ居リマスル正貨カラシテ、何程ノ評價益ガ出ルノデアリマス、ソレヲ御示ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、此度ノ評價換ト云フコトハ、全ク形式上ノ問題デアリマシテ、特ニ斯ウ云フ手續ヲ執ラレルコトハ、其評價益金ト云フモノヲ政府ガ欲シイト云フコトカラ、斯ウ云フ手續ヲ執ラレルコト思フノデアリマス、併ナガラ是ハ金ノ輸出禁止ヲシテ居リマスル日本ト致シマシテハ、全ク内部的ノ形式上ノコトニ止マルノデアリマス、併シ之ヲ世界各國ガ行ヒマシタ所ノ、例ノ所謂平貨切下ト云ヒマス、*「デバリニエーション」*ト、今度政府デ行ヒマスルコトトハ、其形式竝ニ實質ニ於テ、ドノヤウナ違ヒガアルノデアリマス、是モ併セテ伺ヒタイト思フノデアリマス、尙ホ此評價益金ヲ政府ニ納付セシメマシテ、サウシテ之ヲ特別資金トシテ金ノ買入、若クハ國債ノ所有ニ此資金ヲ使フト云フコトデアリマス、之ヲ今同ノ特別議會ニ特ニ提出シテ、サウシテ急遽此ヤウナコトヲ爲サレル必要ニ迫ラレテ居ル所ノ理由ニ付テモ伺ヒタイト思フノデアリマス、更ニ私ハ是等ノ問題ヲ中心ト致シマシテ、我國ノ金政策ト云フモノヲ如何ナル方針ノ下ニ、如何様ニ政府ハ今後行ッテ行カレルノデアルカ、此根本ノ點ニ付キマシテ尙ホ一言伺ッテ見タイノデアリマス、御承知ノ如ク世界ノ現在ノ金ハ殆ド米國、英國、佛蘭西ニ偏在致シマシテ、世界ニ二百億弗ノ金ガアルト言ハレル中ノ、殆ド九割ハ、此三國ニ現ニ偏在ヲ致シテ居ルノデアリマス、而モ此金ニ付キマシテハ、從來ノ金ニ對スル經濟上ノ觀念ガ變タト言フノデアリマセヌケレドモ、今年四月露西亞ガ英吉利ニ於キマシテ僅ニ四千万磅ノ金ヲ賣出シタガ

爲ニ、英吉利ニ於テハ一時買入ヲ躊躇スルト云フヤウナコトカラシテ、世界ハ金問題ニ關シテ新シイ考ヘ方ヲシナケレバナラナイト云フコトニ迫ラレテ來テ居ルヤウデアリマス、而モ今日世界ノ金相場ガ何ニ依ッテ維持セラレテ居ルカ、他ノ物價ニ較ベマシテハ殆ド三倍ニ等シイ暴騰ヲ來シタ金ノ價格ガ、何ニ依ッテ維持セラレテ居ルカト言ヘバ、大體ニ於テ亞米利加ガ之ヲ買入レルコトニ依ッテ、此相場ガ維持セラレテ居ルノデアリマス、而モ亞米利加ガ金ヲ買入レルコトハ、亞米利加自身ガ自分ノ必要ニ依ッテ買入レルト云フヨリハ、世界ノ今日ノ金ヲ中心トスル經濟界ニ變動ヲ與ヘナイ爲ニ、世界ノ經濟ヲ維持スル爲ニ、亞米利加ハ之ヲ買ッテ居ルヤウニ思フノデアリマス、其證據ト致シマシテハ、御承知ノ如ク此頃亞米利加ハ買入レテ居ル金ヲ貯藏致シマシテ、サウシテソレガ爲ニ買入レル資金トシテ出シタ大藏證券ニハ利息ヲ拂ッテ、即チ不要ナモノヲ買ッテ、ソレニ對シ利息ヲ拂ッテ、ミス「」利息ノ損ヲシナガラ尙ホ金ノ貯藏ヲ續ケテ居ルノデアリマス、之ニ依リ金相場ハ維持サレテ居ル、少クトモ最後のニハ米國ガ買ッテ吳レルト云フコトデナケレバ世界ノ金ノ相場ハ下リマス、サウシテ世界ノ今日ノ經濟界ニ非常ナ「デフレーション」ヲ捲起シテ、經濟界ガ混亂スルト云フコトカラ、亞米利加ハ斯ウ云フ政策ヲ採ッテ居ルト思フノデアリマス、私ハ日本ガ今日ノ場合、日本ノ經濟ノ現實カラ見テ洵ニ已ムヲ得ナイコトデアリマス、產金ヲ獎勵シ、其買上ゲタモノヲ亞米利加ニ送ッテ、サウシテ亞米利加ニ買ッテ貰ッテ自分ノ經濟ヲ維持スル、日本ダケハ洵ニ都合ガ好イカモ知レマセヌガ、亞米利加ニ取ッテハ迷惑ナコトヲヤッテ、日本ハ其爲替ヲ維持シテ居ルノデアリマス、若シ亞米利加ガ一度金ヲ買ハナイト云フコトニナレバ、我國ノ金政策ハ直チニ破綻ヲ生ズルト云フコトニナルト私ハ思フノデアリマス、斯ウ云フヤウナ全ク他ニ依存シテ居ル金政策ヲ、此儘何時迄モ續ケテ行ッテ宜イカト云フコトニナレバ、私ハ大ナル疑問ガ存スルト思フ、今日ノ場合產金ヲ獎勵スルコトモ結構デアリマス、又爲替ノ維持ノ爲ニ金ノ現送ヲスルコトモ亦已ムヲ得ナイト思ヒマス、又其資金トシテ此特別資金ヲ設定シテ爲替ノ調節ニ充テルト云フコトモ亦已ムヲ得ナイト思ヒマス、併ナガラ目先ダケニ囚ハレナイデ、我國ノ金政策ノ根本ヲ何處



ニ置クカト云フコトヲ考ヘナケレバナラスト思フノデアリマス、我國ニ於キマシテモ御承知ノ如ク今年度アタリハ約四十艘、即チ百四五十万「オンズ」ト云フ金ヲ生産スルサウデアリマス、是ハ今年ノ世界ノ金産額ノ豫想ニ當嵌メテ見マスル殆ド四%ニ當ルノデアリマス、南阿、露西亞及ビ亞米利加、加奈陀ニ次ギマシテ、我國ハ世界ニ於テモ有數ナ金産國中ニ入ッテ居ルノデアリマス、此金ヲ唯亞米利加ニ買ッテ賣フト云フコトダケヲ以テ、日本ノ金政策ノ根本ノ立前トシテ居ルト云フコトハ、非常ナ危險デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、賀屋大藏大臣ハ先日來此議場ニ於ケル説明ニ於キマシテ、明年度カラハ國際貸借ノ輸入超過ヲ賄フ爲ノ金ノ現送ト云フモノハ、其年ノ新産金ノ程度ニ止メルト云フコトヲ言ッテ居ルノデアリマス、是ガ果シテ實行出來ルカ出來ナイカハ先ノコトデアリマスガ、假ニ斯ウ云フ方針ダケヲ行クト致シマシテモ、結局今日ノ此輸入超過ノ大勢ヲ、新産金若クハ貿易外ノ受取勘定ダケヲ以テ賄フコトハ、實際上出來ナクナルコトハ私ハ明デアラウト思フ、サウシテ而モ此産金ノ獎勵ハ、新聞ニ依ッテ見マスルト五年後ニ五億圓ニナル、若シ五年後ニ五億圓ニナリマスレバ、少クトモ百四十艘トカ、百五十艘ト云フ金ヲ我國デ出來ルコトニナリマシテ、世界ノ金ノ産額モ増加ハ致シマスケレドモ、是ガ世界ノ金ノ少クトモ八分トカ、一割ト云フモノニ達スルモノト思フノデアリマス、其大キナ金ノ産額ヲ、亞米利加ニ送ッテ賣付ケルト云フコトデ、日本ノ經濟ヲ保ッテ行クト云フコトハ餘程考ヘナケレバナラヌ、是等ニ付キマシテ、政府ハ何等カ將來新シイ方針ヲ御執リニナルノデアリマスガ、ソレモ伺ヒタイト思フノデアリマス、私ハ日本ガ今日世界ノ經濟ニ協力スルト云フ意味カラ、寧ロ私ハ金ノ現送ヲヤラナイデ、他ニ爲替維持ノ方法ト云フモノハ考ヘラレナイコトハナイト思フノデアリマス、モウ少シ日本ノ經濟ト云フモノヲ世界ノ經濟ノ上ニ廣ク見テ、サウシテ世界ノ經濟ニ協力シテ、尙且ツ日本ノ爲替ヲ維持スル、爲替ヲ維持スルコトハ、結局ニ於テハ國際貸借ノ實勢ヲ改善スルヨリ外ニ方法ハナイノデアリマスガ、併ナガラ其暫クノ過渡的ノ方法トシテモ、私共モット他ニ智恵ヲ出シテ、何等カノ方法ヲ講ズルコトガ出來ナイコトモナカラウト思フノデアリマス、政府ニ於キマシテハ、此

金政策ノ根本ニ付テ、モウ少シ世界ノ經濟ニ對スル認識ヲ新ニシ、サウシテモウ少シ獨立性ノアル政策ヲ立テナケレバナラヌノデアリマス、今日出サレマシタ金ニ對スル諸法案ハ、唯當面ヲ糊塗スルダケノコトデアリマシテ、金ガ各國ノ貨幣カラ少クトモ離レツ、アル所ノ今日、之ニ對シテモ少シ徹底シタ見透シヲ付ケテ、サウシテ經濟政策ノ根幹ト爲サナケレバナラヌト思フノデアリマス、是等ニ於キマシテ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

太田大藏政務次官ノ應答

宮澤サンノ數項ニ互ル御質問ニ對シテ御答申上ゲマス、其第一點ハ金ノ產出ヲ獎勵スルコトハ宜イガ、手續ガ煩雜デアリマシテ、斯ウ云フ工合デアッテハ却テ反對ノ結果ヲ生ズルト云フコトニ付テノ御忠告デアリマス、御尤ナ忠告ト存ジマス、此點ニ付キマシテハ役人ガ役人ラシカラザルヤウニ、本當ニ法ノ目的ヲ達スルヤウニ御希望ニ副フヤウニ致シタイト存ジ上ゲマス、第二點ノ何故ニ此際貨幣法第二條ヲ改正シテ根本的ノ態度ヲ執ラナイカト云フ御質問デアリマス、申上グルマデモナク貨幣法第二條ヲ改メルト云フコトハ、平價切下ニ關スル問題デアリマス、根本的ニ申シマスレバ然ルベキコトト存ジマスルガ、平價切下ヲスルニ付キマシテハ相當ノ條件ヲ要シマス、私ノ見ル所ヲ以テスレバ、既ニ國內ノ物價ガ安定シ、又對外的ニ爲替相場ガ安定シ、而モ金解禁シテモ然ルベキ準備ヲ持ッテ居ルト云フ、三ツノ條件ガ揃フデナカラネバ、平價切下ヲスレキモノデナイト信ズルノデアリマス、此意味ニ於テ我國ノ現狀ニ是等ノ問題ヲ當嵌メテ見マスルト云フト、此際暫定的ニ今日申上ゲマシタヤウナ法律ヲ設クルノ必要ガアルト思フノデアリマシテ、貨幣法ヲ根本的ニ改正スルノハ時期尙早ト存ズルノデアリマス、第三點トシテ二百九十庭ヲ以テ標準ト定メタコトニ付テノ御質問デアリマシタ、申上グル迄モナク金二分ヲ以テ貨幣ノ單位トスル現在ノ貨幣法ノ定ムル所ト、我國全體ニ於ケル金ノ價值ミト云フモノトハ非常ナ開キガアリマス、簡單ニ申シマスレバ、不必要ニ低ク見積ラレテ居ルト申上ゲテ差支ナイカト思フノデス、隨テ之ヲ今ノ儘ニシテ置キマスと云フト、實質ニ變リハナ



クテモ呼値ガ變リマス爲ニ、如何ニモ兌換券ニ對シテ準備ガ非常ニ減ツタヤウナ數字ガ出テ來マスノデ、人心ニ及ボス影響ハ少クナイト思ヒマス、又常ニ制限外發行ニナルヤウナ形ガ出來マスコトハ是亦宜シクナイト思ヒマスノデ、ソコデ此標準ノ價格ニ付キマシテモ、倫敦ノ金塊相場カラ換算致シマシテ、約一割減ノ所ヲ以テスルノガ相當ト考ヘマシテ、二百九十庭ヲ以テ標準價格トシタ譯デアリマス、第四點トシテ、標準ノ益ハ幾ラアルカト云フ御尋デゴザイマシガ、日本銀行ヨリスル分ガ七億一千七百五十一万五千圓、朝鮮銀行ヨリ致シマスモノガ四百五十三万七千圓、臺灣銀行ヨリ致シマスモノガ二千五百九十九万七千圓、合計七億四千七百二十四万九千圓トナルデアリマス、更ニ御質問ノ非常ニ強調致サレマシタ金政策ニ付キマシテハ、洵ニ有益ナル御意見トシテ拜聴仕リマシタ、併シ今回政府ノ執ッテ居リマス金政策ト云フノハ、我國ノ國際收支ノ決濟上カラ申上ゲマシテ、金ノ増産ニ依ッテ之ヲ現送スルコトニスルノガ此際ノ然ルベキ策デアリ、國際決濟上ノ手段トシテハ金ニ依ルノ外ナイト信ズルカラデアリマス、更ニ正貨準備ノ充實ヲ圖ルコトモ是亦必要ナコトト存ジマシタノデ、此意味ニ於テ今回ノ政策ヲ立テタ譯デアリマス、デ御言葉ニモアリマシタヤウニ存ジマスルガ、本年ハ産金額ノ限度ヲ超シテ既ニ現送シテ居ル譯デゴザイマスガ、大藏大臣モ度々申サレマシタル通り、明年度ヨリハ新産金ノ限度ニ歩メタイト思フデアリマス、短イ期間ヲ區切ッテノ計畫デナク、一定ノ區間ヲ以テノ計畫ヲ致シマシテ、此信念ノ下ニ明年度カラハ新産金ノ限度ヲ超サナイト云フコトヲ堅持シテ行キタイト思フデアリマス、申上グル迄モナク金ノ現送ガ少ナケレバ結構デアリマス、其爲ニハドウ致シマシテモ根本的ニ國際收支ノ均衡ヲ圖ラネバナラヌト云フコトニナルデアリマス、大藏大臣ノ財政演說ニ於ケル一貫シタ主張モ茲ニアルデアリマス、ドウゾ左様御諒承願ヒタイト存ジ上ゲマス

武田徳三郎君ノ質疑

私ハ只今議題ニ上ッテ居リマスル諸案ノ中、産金法、金準備評價法竝ニ金資金特別會計法ノ三

案ニ付キマシテ二三ノ質疑ヲ致シタイト存ジマス、第一ニ政府ニ伺ヒタイコトハ、今程宮澤君モ一寸觸レラレタ問題デアリマシタガ、政府ハ明年カラ新産金ノ程度ニ於テ金現送ヲ致スト云フコトヲ申述ベラレテ居ルデアリマス、左様致シマスルト此産金獎勵ノ法案ノ結果、政府ハドウ位ナ程度ノ明年カラ金現送ヲスレバ、貿易外ノ收支ガ均衡ヲ得ラレルト考ヘテ居ラレルデアリマセウカ、言葉ヲ換ヘテ申シマスナラバ、明年以後ノ輸入超過ハドウ程度デ喰止メラレルト考ヘテ居ラレルデアリマセウカ、其點ヲ伺ヒタイト思フデアリマス、私ガ此質問ヲ致ス意味ハ、明年頃ヨリハ軍備ノ擴張其他生産力ノ擴張ノ爲ニ、輸入超過ハコ、二三年ハ極メテ多カラウト思フデアリマス、然ルニ政府ハ産金ノ五箇年計畫ト云フモノヲ立テラレマシテ、其方法トシテ此産金法其他ヲ御制定ニナツタモノト思フデアリマス、サウ致シマスルト貿易ノ現状カラシテ、輸入超過ノ最モ多カルベキ明年若クハ明後年ニ於テ、此産金法ノ效果ヲ十分ナラシメント致シマスルノニハ、更ニ一段ノ工夫ヲ要スルモノデアアルマイカト考ヘマス、即チ産金ノ買上値段ヲ尙ホ更ニ引上ゲル方法ヲ執ルトカ、或ハ更ニ産金業者ヲ保護スルノ途ヲ執ルトカ、何等カ更ニ一段ノ進ンダ方法ヲ執ルニアラザレバ、政府ガ産金ヲ獎勵シテ、之ニ依ッテ輸入超過ヲ「カバー」スルト云フ目的ヲ達スルコトハ、如何デアアルカト云フ疑ヲ持ッテ居ル點カラ之ヲ伺フデアリマス、即チ此産金法ニ依ッテ見マシテモ、政府ハ産金業者ニ相當ナ保護ヲスルト云フコトガ規定サレテアリマスル外ニ、直接ノ保護ト致シマシテハ、製鍊所ノ設備ニ對シテ若干ノ保護ヲスルト云フコトニナツテ居リマス、併シ私ノ實際業者カラ承ル所ニ依リマスルト、我國ハ火山國ノ關係上貧乏ガ非常ニ澤山アルト云フコトニ聞イテ居ルデアリマス、而シテ此貧乏ヲシテ有效ナラシムルノ途ハ、製鍊ノ精巧ト云フコトハ勿論必要デアリマスルケレドモ、ヨリ以上ニ選鑛ガ最モ必要デアアルデアリマス、即チ選鑛ガ適當ニ致サレマスルナラバ、貧乏ヲ處理シテ之ヲ有効ニ活用スルコトガ出來ルデアリマス、然ルニ本法案ヲ拜見致シマスト、選鑛ニ向ッテ政府ハ餘リ注意ヲ拂ッテ居ルト云フ跡ヲ見出スコトハ出來ナイデアリマス、是等ノ點ニ於テ政府ノ所見ヲ伺ヒタイト存ジマス、ソレカラ次ニモウ一ツ伺ヒタイトハ是ハ未



ダ公式ニ政府ノ聲明ニハアリマセスガ、新聞ノ傳フル所ニ依リマスルト、政府ハ所謂六大産金會社ヲ合同シテ一ツノ新會社ヲ作ラシムルノデアリマスルカ、或ハ一ノ「プロック」ヲ作ラシムルノデアリマスルカ知リマセスガ、何等カ六大産金會社ヲ中心トシ、金ノ増産計畫ヲ立テラシムヤウニ言ハレテ居リマスガ、果シテ是ガ眞ナリト致シマスルナラバ、私ハ我國ノ現狀ニ於キマシテ、小産金業者ノ多數アル現在ニ於テ、特ニ六大産金業者ダケヲ保護シテ、其力ニ依ッテ政府ノ金ノ増産計畫ヲ實現スルト云フコトハ、如何ナモノデアアルカト考ヘルノデアリマス、其小産金業者ニ取ッテ不便ヲ與フルノミナラズ、又實際金ノ増産ノ目的ニ果シテ應ズルヤ否ヤト云フコトニ向ッテ、多少ノ疑ナキヲ得ナイノデアリマス、政府ハ果シテ六大産金會社ヲ一ツノ「プロック」ヲ作ラシメテ、之ニ向ッテ特別ノ待遇ヲ與ヘルト云フヤウナ御計畫ガアルノデアリマスルカ、ドウデアリマスルカ、此點ヲ伺ヒタイト存ジマス、ソレカラモウ一ツ此産金ニ關シテ伺ヒタイトコトハ、政府ハ既ニ産金ノ引上ヲ致スト云フヤウナコトニ相成リ、更ニ金ノ製鍊所ノ設立者ニ向ッテ、特殊ノ保護ヲ與ヘルト云フコトニナリマスルト、漸クニシテ收支計算ノ合フヤウナ貧乏ヲ持ッテ稼業ヲシテ居ル産金業者ハ、非常ナ不利益ノ位置ニ立ツモノト私ハ考ヘマス、斯様ナ場合ニ於テ、從來ノ相當ナ富饒ヲ持ッテ居ル所ノ産金業者ハ、之ニ反シテ非常ナ利益ヲ得ルコトニ相成ルノデアリマス、是ハ同ジキ産金業者ニ取ッテ非常ナ不公平デアアルノミナラズ、是等政府ノ政策ノ結果、何等自己ノ特別ノ努力ニ依ラズシテ特別ノ利益ヲ得ルヤウナ從來ノ産金業者ニハ、相當ノ負擔ヲセシムルト云フコトガ、公平ナ見地カラ見テモ然ルベキコトデアアルマイカ、サウシテ從來ノ産金業者ニ負擔セシメタル所ノ其負擔ノ金額ヲ以テ、新ナル小サナル産金業者ニ相當ノ保護獎勵ヲ與ヘルト云フコトニナリマスレバ、日本ノ産金ノ獎勵、隨テ其生産額ノ増加ト云フモノハ、期シテ待ツベキモノガアルノデアアルマイカト考ヘマス、此點ニ向ッテ政府ハ如何ナル意圖ヲ以テ居ラル、カト云フコトヲ伺ヒタイトデアリマス、次ニ準備評價法ニ付テ一ニ伺ヒタイト思ヒマス、此法案ヲ見マスルト、現在ノ日本銀行其他ノ兌換準備ノ正貨ノ評價換ヲシテ、其利益ヲ運用シヨウト云フコトニテ居ルノデアリマスルガ、其運用

ノ一部トシテ、金ノ買入ノ資金竝ニ公債引受ノ資金ト云フヤウナコトニ充テルト云フコトハ明記シテアリマスルケレドモ、實際ノ問題ハ金ノ現送ノ資金ヲ得ルト云フコトデアラウト思ヒマス、然ラバ結局ニ於テ輸入超過ノ甚シキ今日ノ我國ノ國際貿易ノ關係カラシテ、此評價換ニ依ッテ得タル所ノ金ト云フモノハ、事實上ハ少クトモ此一兩年ノ間ハ金ノ現送ニ充テラル、ト云フコトハ、極メテ明瞭ノコトデアラウト思ヒマス、然ラバ金ヲ現送スル爲ニ、斯様ナ評價換ヲスルト云フコトハ、私ハ他ノ方法ヲ以テ同一ノ效果ヲ收メラル、ノデアアルマイカト存ジマス、即チ日本銀行ノ兌換ノ準備率ト云フモノヲ、外ノ列國ニ於テ齊シク採ッテ居リマスル所ノ、三割程度ノ準備率ニ致シマスルナラバ、今日此評價換ニ依ッテ得タル所ノ約八億以上ノ金ガ政府ノ手ニ得ラル、ノデアナイカ、左様致シマスルナラバ、政府ノ金現送ニ依ッテ輸入超過ヲ「カバー」スルト云フ目的ハ、ソレニ依ッテ達セラレルノデアアルマイカト存ジマス、尙ホモウ一ツ伺ヒタイトコトハ、此金準備評價法ニ依ッテノ評價ノ率ト、現在政府ガ民間カラ金ヲ買上ゲル買上値段トハ、其間ニ一々ニ付テ約一圓程ノ相違ガアリマス、是ハ如何ナル理由ニ依ッテ、政府ノ買上値段ト此評價ノ間ニ、斯様ナ差ヲ付ケラレタノデアリマセウカ、思フニ是ハ先程政務次官ノ御説明ノ中ニモアリマシタル如ク、倫敦ノ現在ノ金ノ相場ヨリ約一割程ノ低價ニ評價シテ置ケバ、萬一金ノ値段ガ下ツタ時ニ、危険ヲ防止スルコトガ出來ルト云フ意味デアラウカト存ジマス、併シ是ハ一應承ルコトノ出來ルコトデアリマスルガ、從來我國ノ政府ニ於キマシテハ、金ノ買上値段ハ常ニ倫敦ノ現在ノ相場ヨリ一割乃至一割五分低價ニ見ルト云フ習慣デアッタノデアリマス、是ガ萬一値下リノ場合ヲ豫想シテノ方法デアッタノデアリマセウ、併ナガラ現在日本ニ於テ金ヲ現實ニ買上ゲテ居ル所ノ値段ト、評價ノ値段トヲ變ヘルト云フコトハ、私ハ何等ノ意味ヲ爲サスコトデアナイカト思フノデアリマス、若シ現在ノ金ノ倫敦ニ於ケル相場ヨリ値下リノ場合ノ危険ト云フコトデアリマスルナラバ、買上ゲタ金ニ付テモ同様ナ危険ガアルノデアリマス、既ニ一々十四圓幾ラト云フ買上値段ガ、何等ノ危険ナシト云フ政府ノ意見デアリマスルナラバ、此評價ニ於テモ亦同一ノ値段ヲ以テ評價スルト云フコトハ、私ハ普通ノ通念カラ



然ルベキコトデハナイカト思ヒマス、若シ又政府ハ先程宮澤君ノ御指摘ニナリマシタル如ク、亞米利加ハ金ノ洪水ニ困ツテ居ル、世界ノ金産額ト云フモノハ年々殖エテ居ル、仍テ金ノ値段ハ將來下落スルノ傾向ニ在ルト云フコトヲ憂ヘテ居ルト云フコトデアリマスルナラバ、私ハ斯様ナ評價換ヲスルト云フヤウナ手段ヲ執ルヨリモ先ヅコ、暫クノ情勢ヲ見テ、總テノ安定點ヲ見出シタ上ニ於テ、寧ロ日本銀行ノ此兌換銀行條例ノ二條ヲ改正致シマシテ、正式ニ日本ノ平價切下ヲ斷行シタ方ガ正シイ途デアルト思ヒマス、ソレ迄ノ暫定法ト致シマシテ、私ハ寧ロ先程申上ゲマシタ如ク、日本銀行ノ兌換ノ率ヲ三割乃至三割五分ト云フコトニ限定致シマスルナラバ、政府ノ意圖スル所ノ目的ハ之ニ依ツテ達スルコトガ出來ルノデアアルマイカト考ヘマシラガ、政府ハ如何様ニ此點ニ向ツテ御考デアルカラ伺ヒタイノデアリマス、最後ニイマ一點伺ヒタイコトハ、資金ノ特別會計法ニ付テデアリマス、元來私共ハ政府ハ爲替ノ時期的ノ變動ヲ調整スル爲ニ、英吉利、佛蘭西ナドデ用ヒテ居リマスル所ノ、爲替平衡資金ト云フモノヲ採用セラル、ヤニ承ツテ居ルノデアリマス、私ハ年來此爲替平衡資金制度ヲ採用スルコトハ、我國ノ爲替ノ安定ノ上ニ極メテ有效デアルト考ヘテ居ルモノデアリマスルガ、既ニ政府ハ現在ノ資金ヲ評價換ヲシテ、其利益ヲ以テ資金特別會計法ヲ設置セラル、ト云フマデニ進メラレルナラバ、何故ニ一歩ヲ進メテ爲替平衡資金制度ヲ採用セラレナイノデアアルカ、此爲替平衡資金制度ヲ採用セラレマスナラバ、其必要ニ從ツテ金ノ現送ヲ致シテ、之ヲ爲替資金ニスルノ途モアリマセウ、或ハ又輸入爲替ヲ政府ガ買入レテ、季節的ニ安定ヲ圖ル途ヲ執ルノ方法モアルデアリマセウ、既ニ茲マデ進ンダ以上ハ、ドウシテモ爲替ノ安定ノ必要上、爲替平衡資金制度ヲ採用スルト云フコトハ、當然ノ順序デナイカト考ヘルノデアリマスガ、政府ハ何故ニ一歩ヲ進メテ此制度ヲ採用スルマデニ進メラレナイノデアリマスルカ、此間ニ何等カ特別ノ理由ガアルノデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、此點ヲ政府ノ御説明ヲ願ヒタイト存ジマス、以上私ノ申上ゲマシタコトニ付キマシテ大藏當局ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス

#### 太田大藏政務次官ノ應答

武田サンノ御質問ニ對シ御答申上ゲマス、其第一點ハ明年度カラ新産金ノ限度ニ依ツテ政策ヲ立テテ行クト言ハレタ點ニ付テノ御質問デアリマス、申上ゲル迄モナク貿易竝ニ貿易外ノ收支ガ問題デアリマシテ、是ガハッキリ致サナケレバ、新産金ノ限度ト申シマシテモ本ガ決ラナイ譯デアリマス、而モ御案内ノ通り既ニ此上半期ハ異常ナ入超ニナツテ居リマシテ、下半期ニ付キマシテモ俄ニ樂觀ヲ許サザルヤウナ狀況ニアリマス、況シテ明年トノ位ニナルカト云フコトハ、計畫ハ勿論立テナケレバナラヌコトデゴザイマスガ、御指摘ニナリマシタル通り、何故入超ガ出來ルカ、ソレハ必要ナ物ヲ買ハナケレバナラヌ、何故買ハナケレバナラナイカ、申上ゲル迄モナク其點ニ付テ大キナ問題ハ、國防ヲ中心トスル財政問題ガ關係シテ來ルノデアリマス、此點ニ付テハ十分ナル注意ヲ拂ツテ居リマスルガ、マダ國防ノ計畫ノ全貌モ分リマセシ、且ツ現在國民一般ニ御心配ナスツテ居ル所ノ北支ノ問題モ、俄ニ樂觀ヲ許サザルヤウナ財政上ノ狀況ニアリマスノデ、斯ウ云ツタ點ヲ總テ考ヘテ見マスルト、漫然ト茲ニ明年度ノ計畫ヲ立テ得ザル事情ニアリマス、隨テ新産金ノ限度ハ假ニ多クトモ、其方ガ更ニ多イ場合ニ於テハ、ドウニモナラヌヤウナ事ニナルノデス、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、貿易竝ニ貿易外ノ收支ノ點ヲ主トシテ此問題ヲ解決シナケレバナラナイノデス、而モ其問題ヲ措イテ、新産金ハドノ位ニナルカ、此點ニ付キマシテハ所管關係モアリマスルシ、商工省ノ御方カラ責任アル御答辯ヲ御願スル方ガ、私共トシテモ結構カト思フノデアリマス、唯モット獎勵シナケレバナラナイ、特ニ選礦ニ付キマシテ御注意ガアリマシタガ、洵ニ其様ニ存ジマス、デ此點ニ付キマシテハ豫算關係等ニ於キマシテモ、十分其御意見ノ程ヲ入レテヤツテ行キタイト考ヘルノデアリマス、第二ノ六大會社ヲ作ツテ其「ブロック」ヲ特別保護ノ下ニ置ク計畫ガアルカ、是ハ直接ニ商工省ノ所管ニ關スルコトデアリマシテ、其方カラ御答辯ヲ御願致スノガ結構カト存ジ上ゲマス、小會社、或ハ小企業者ニ對シテドウカ、斯ウ云フ問題ニ付キマシテハ、豫算關係等ニ於テモ申上ゲマシタ通り、大會社ノミニ保護ヲスルノデハナク、此方面ニ對シテモ保護助長ノ方針ヲ執ツテ居リマス、是ハ



豫算ノ時ニ於キマシテ御説明シ得ルコトト存ジ上ゲマス、第三點トシテ從來儲ケタ者若クハ大  
 キイ會社ニ對シテ、利益ニ對シ負擔ヲ命ジ、而モ其得タ所ノモノヲ小企業者ニ廻サウニシタ  
 ラバドウカト云フコトデアリマス、世間ニモ御同様ノ御意見ヲ懷カレル御方ガアリ、政府當局  
 ニ於キマシテモ何か課ケル方法ハナイカト色々苦心ヲシテ居ルノデゴザイマスルガ、今其利益  
 ニ對シテ課ケル方法ヲ發見スルコトガ出來ナイノデ折角研究中デゴザイマス、第四點トシテ評  
 價法關係ニ付テノ御質問ガアリマシタ、固ヨリ此評價益ニ依ッテ得タ資金ヲ運用スルコトハ、法  
 文ニモアリマスル通り金ノ「オペレーター」ニ使フコトハ、是ハ申上ゲル迄モアリマセヌ、尙ホ  
 餘裕ノアリマシタ場合ニ國債ヲ買フ方面ニ用フノデアリマス、デ何か斯ウ云フ資金ガ出マスル  
 ト云フト、政府ノ勝手ニ用フルヤウナ風ニ考ヘラレテハイケマセヌノデ、目的ヲ限定シテ金  
 爲竝ニ國債ノ關係ニ於テノミ運用シ得ルコトニシタノデアリマス、御説ノ中ニ兌換券ノ金準備  
 率ヲ三割乃至三割五分ニシタナラバ其大キナ目的ヲ達スルコトガ出來ルデハナイカト云フコト  
 デゴザイマス、改メテ申上ゲルマデモナク、斯様ニ正札ノ附替ヲ致シマシテモ、金其モノハ  
 一ツモ殖エルノデハゴザイマセヌ、唯評價換ヲシタ結果正貨準備ニ振向クベキ額、或ハ現送ニ  
 振向クベキ額ナドヲ分ケルノニ過ギナイノデアリマシテ、只今御示シニナリマシタ金準備ヲ  
 三割ニシタガ宜イカ、三割五分ニシタガ宜イカト云フコトハ、此振分方ノ問題ニ關係スルノ  
 デアリマシテ、貴重ナル御意見トシテ吾々ハ參考ニシテ、其問題ノ解決ニ進ミタイト思フノデ  
 アリマス、私ノ申上ゲマセヌ意味ハ、兌換準備ノ關係ト金現送ノ關係トハ、一ツノモノヲ二ツニ  
 分ケルノデアリマシテ、今其事ハハッキリ茲ニ決ッテ居ラナイト云フコトダケヲ申上ゲルニ止メ  
 テ置キマス、第五點ノ買上値段ニ付キマシテ、危險ヲ避クル爲ニ斯様ナ倫敦ノ金塊相場ニ對シ  
 テ一割ノ差ヲ見テ置イタト申上ゲタノデゴザイマスガ、買上値段トノ開キニ付キマシテハ、二  
 三年前ハ二割、或ハ本年マデ一割ト云フヤウナ、倫敦ノ金塊相場ヨリ開キガアリマシタガ、現在  
 ノ一匁十四圓十三錢七厘五毛ト云フ買上値段ハ、倫敦ノ相場カラ見マスルト云フト二分七厘減  
 デゴザイマシテ、金ノ現送費等ヲ引クト云フト、殆ド差ガナイト云フトニナルノデアリマス、

左様御承知ヲ願ヒタイト存ジ上ゲマス、更ニ平價切下ヲシタラバドウカト云フコトニ付テハ、  
 宮澤サンニ御答申上ゲタ通りデゴザイマシテ、サウ行ケバ結構デアリマスガ、未ダ其時期ニア  
 ラズト斯ウ考ヘルノデアリマス、第六點トシテ御質問ニナリマシタ、此金資金ノ特別會計ヲ以  
 テ平衡資金トスルコトハドウデアラウカ、之ニ付キマシテハ現在ハ唯爲替相場ヲ維持シテ行カ  
 ウト云フコトヲ、主タル目的トシテ作用スルノデゴザイマスノデ、平衡資金ヲ設ケルニ付テハ  
 資金ノ限度如何、又對外關係ニ於キマシテドウ云フ連絡ヲ保チ得ルカト云フコト、更ニ英吉利、  
 亞米利加ナドト違ッタ我國ノ事情モアルト云フコトヲ考ヘネバナラヌト思フノデアリマス、隨テ  
 此際平衡資金制度ヲ設ケルマデニハ、政府ノ考ハ進ンデ居ラナイト申上ゲルノデアリマス

木暮商工政務次官ノ應答

商工省ニ關シマスル限リニ於テ武田サンニ二點御答ヲ申上ゲマス、第一點ノ六大産金會社ガ合  
 同シテ一大製鍊會社ヲ作ルト云フコトガ新聞ニ出テ居ッタガ、ドウデアアルカト云フ御質問ニ對  
 シマシテハ、當局ト致シマシテハサウ云フコトヲ存ジマセヌシ、又商工省ハサウ云フコトヲ御  
 勸メ致シタコトモナイノデアリマス、ソレカラ選鑛場竝ニ製鍊場ニ對スル補助ノ問題ニ付キマ  
 シテハ、御承知ノ通りニ四百二十三萬圓ノ産金獎勵金ノ中デ、百六十二萬圓ト云フモノヲ選鑛  
 場竝ニ製鍊場ノ設置ノ補助ニ充テ、居ルノデアリマシテ、此百六十二萬圓ハ、御指摘ノヤウナ  
 六大産金會社ト云フモノニハ補助ヲ與ヘナイノデアリマシテ、中小ノ産金業者ニ對スル補助ト  
 致シマシテ、大體半額ヲ其製鍊及ビ選鑛場ノ設置ニ補助ヲ致スノデアリマスカラ、丁度三百二  
 十四萬圓ノモノガ出來ルノデアリマス、之ニ從ヒマスルト、一日約八百十匁ノ金鑛ヲ處理スル  
 ト云フ計算ニナルサウデアリマスカラ、丁度一日二百匁製鍊致シマスルモノガ四ツ位ハ出來ル  
 ダラウト云フ計算ニナッテ居ルノデアリマス、此段御答致シマス

佐竹晴記君ノ質疑



只今上程サレテ居リマス金關係ノ諸法案ニ付キマシテ簡單ニ質疑ヲ致シマス、第一、政府ハ金保有政策ヲ拋棄サレタノデハナイカト云フ點デアリマス、日本銀行ノ金買入法第一條ノ明文ニ依リマシテモ、亦六十五議會ニ於ケル大藏大臣ノ答辯ニ依リマシテモ、金買入ノ目標ハ産金ヲ國內ニ保有スルト云フコトニアツタノデアリマシテ、爲替水準ノ維持、即チ爲替ノ安定ノ爲ニ之ヲ海外ニ現送スルト云フコトヲ目的ト致シタモノデハナカッタノデアリマス、然ルニ本年三月以降政府ハ屢、新産金ノ限度ニ於ケル金ノ現送ヲ聲明セラレマシテ、當議場ニ於テモ之ヲ繰返サレテ居ルノデアリマス、之ニ依ッテ政府ハ産金國內保有ノ方針ヲ變更セラレタカノ如ク見ラレドゴザイマスルガ、果シテ如何デゴザイマセウ、第二點ハ金現送ノ結果ニ對スル政府ノ所信ヲ承リタイト存ジマス、即チ金現送ニ依リマシテ、一朝事有ル際、政府ハ何等ノ不安ヲ感ジタイト云フ自信ガアルデゴザイマセウカ、又爲替安定ニ付テ、此法制ヲ制定スルコトニ依ッテ、十分目的ヲ達成スルコトガ出來ルト云フ自信ガアルデゴザイマセウカ、申上ゲル迄モゴザイマセウ、金ノ國內保有ハ、戰爭トカ或ハ事變トカ、一朝事有ル際ニ軍需品原料ノ購入等ニ付テ、唯一ノ貿易決濟ノ最後手段デアアルコトハ申上ゲル迄モナイノデアリマス、此一朝事有ル際ニ備フル爲ニ、産金ノ國內保有ハ實ニ重大ナル意義ヲ爲スト同時ニ、近時政府ノ執リツツアル新産金ノ海外現送ニ依リマシテ、何等ノ不安ヲ感ズルコトナキヲ得ルノデアラウカ、此點政府ノ御所信ヲ承リタイト存ジマス、更ニ一面爲替安定ニ關スル方面ヨリ之ヲ見マシテモ、本年ニ於ケル實際收支ハ、貿易外收支ヲ含メマシテ、五億圓前後ノ支拂超過ニナルデアラウト豫算サレテ居リマス、若シ爲替維持ヲ絕對目標ト致シマスナラバ、現在ノ産金量ノ實情ニ於キマシテハ、新産金ノ範圍内程度ノ現送ニ依リマシテハ、其目的ヲ達成スルコトハ甚ダ困難デハナイカト思ハレルノデアリマス、眞ニ爲替維持ヲ目標ト致シマス政策ヲ遂行スルナラバ、必然的ニ國內保有ノ金ノ減少ヲ來シマスノハ免レ得ナイ所デアリマシテ、若シ左様ニナレバ、前ニ申上ゲマシタ一朝事ノ際ニ於ケル不安ヲ豫想セザルヲ得ナイノデアリマス、政府ハ果シテ此産金法制定ニ依リマシテ、只今申上ゲマス不安ヲ除去シ、且ツ一面爲替維持ノ政策ヲ遂行スルダケノ自信ヲ御持チデ

ゴザイマセウカ、承リタイト存ズル次第デアリマス、第三ハ物價騰貴トノ關係デアリマス、金買入値段ノ引上、竝ニ必然的ナル結論デゴザイマス正貨準備金ノ再評價ハ、言葉ヲ換ヘテ申上ゲマスナラバ、物價ノ基準タル金ノ價格ノ引上ヲ政府ガ肯定スルト云フコトニナル譯デアリマス、一般物價ハ此基準ニ從ヒマシテ、少クトモ此基準マデハ騰貴スル傾向ヲ持ッテ居リマス、仍テ此政策ハ結局物價騰貴政策ニナルト言ハナケレバナリマセウ、然ルニ政府ハ他面物價騰貴抑制策ヲ執ッテ居ラレマス、一體政府ハ物價騰貴政策ヲ執ルノデゴザイマセウカ、或ハ又其抑制策ノ爲ニ腐心ヲナサッテ居ラレルノデゴザイマセウカ、其眞意ヲ承リタイト存ジマス、第四ニハ金政策ト俸給、勞銀等ノ對策ニ付テ政府ノ所信ヲ承リタイト、正貨準備金ノ再評價ハ、只今申上ゲマス如ク物價基準ノ訂正デアリマス、引上政策デアリマスガ、俸給竝ニ勞銀ハ之ニ伴ヒマシテ引上ハサレマセウ、其引上ハ非常ニ遅レルノミカ、否、何等ノ顧慮スラ拂ハレタイト云フコトガ實情デアリマス、斯クテ俸給生活者竝ニ勞銀労働者ヲ犠牲ニ致シマシテ、之ヲ活カサントスル所ノ結果ニナルノハ當然デアリマスノデ、正貨準備金再評價ヲ爲サント致シマスナラバ、必然的ニ是等ノ弱者ニ對スル保護政策ヲ顧慮シテヤラナケレバタイト思フノデアリマス、政府ハ果シテ之ニ對スル所ノ對策アリヤ否ヤ、第五ハ詐僞爲替ニ依ル金ノ逃避ノ關係ヲ承リタイト存ジマス、例ハ實際ニ五百萬圓ノ物品ヲ購入致シマシタ際ニ、單價ヲ僞ッテ之ヲ高メルト云フヤウナ方法ニ依ル等——是ハ色々方法モゴザイマセウカ——等ニ依リマシテ、例ハ六百萬圓ノ品物ヲ購入シタルガ如ク裝ヒ、嘘ノ手形ヲ組ンデ當局ノ許可ヲ得、爲替管理法ノ裏ヲ潜ッテ、現金ヲ海外ニ現送逃避セシメツ、アルコトヲ私共ハ聞クノデアリマス、若シ果シテ斯ノ如キ事實アリト致シマスナラバ、洵ニ寒心ニ堪ヘナイコトデアリマスルト同時ニ、只今論議サレテ居リマスル所ノ金現送問題ト最モ深い關係ヲ有シマスルガ爲ニ、果シテ斯ノ如キ事實アリヤ否ヤ、徹底的ニ斯ノ如キ事項ヲ將來ニ向ッテ調査ヲ致シマシテ監視シ、以テ金逃避ノナイヤウニ、十分ニ之ヲ防グダケノ用意ガアルカドウカ、此點ニ付テ承リタイト存ジマス、以上五點ヲ承リタイト存ジマス



## 太田大藏政務次官ノ應答

佐竹サンノ御質問ニ對シ御答申上ゲマス、第一點ハ金ノ保有策ヲ拋棄シタカ、斯ウ云フ御問デアリマシタ、成程御説ノ如ク、主トシテ金保有ヲ考ヘテヤツタ時ト今日トハ違ッテ居リマス、併ナガラ現送ヲ主トシテ今日ノ金政策ヲ立テテ居ルトハ申シナガラ、金保有ノコトヲ捨テタノデハゴザイマセヌ、捨テザレバコソ金ノ増産其他ニ付テ苦心シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、第二點ニ現送策ニ付テ自信ヲ持ツカト云フ御問デゴザイマスガ、是ハ度々大藏大臣モ申サレマスル通り、根本ハ國際收支ノ均衡ト云フコトガ主デゴザイマシテ、是ハ一人ヤ二人ノ力デ行クコトデハナク、又其力ヲ國民全體ニ借ラナケレバ出來ナイコトデアリマス、私共ハ今ノ所ニ於テハ現送策ヲ續ケテ行ッテ、決シテ心配ハナイト思フデアリマス、本年ノ新産金ノ限度デ以テ、現在ノ爲替相場支持ニ困ルヤウナコトハナイカト云フ御心配モゴザイマシタガ、此點ニ付テハ萬全ノ策ヲ執ッテ居ルノデアリマシテ、一志二片ノ支持ニ付テハ斷ジテ間違ガナイト申上ゲタイノデアリマス、第三點ニ物價ニ付キマシテノ御問デゴザイマスガ、政府ハ物價抑制策ヲ執ルノカ云々ト云フ御問デゴザイマス、私ハ物價ガ無理ニ上ラナイヤウニト云フ考ヲ以テ諸般ノ政策ヲ立テテ居ルト思ヒマス、併ナガラ物價ハ上ルト云フコトノ心配ヨリモ、物價ノ上ルコトニ對應スル力ヲ持ツト云フコトガ、政策ノ根源デナカラネバナラヌト云フコトハ、私一個人ノ立前トシテ、否、政友會ニ吾々ノ居ッタ時代ノ主張ト少シモ違ハナイコトヲ申上ゲテ置キマス、更ニ第四點トシテ、勞働者ノ俸給等ノ關係ヲ申サレマシタガ、金ノ見積換ト云フコトガ、當然サウ云フ結果ニナルトハ存ジマセヌ、突然ノ引上デハナイノデス、現在ニ於テ相當ノ價格ヲ持ッテ居ルモノヲ、唯斯様ナ評價ニ致シマシタノデ、今マデ非常ニ低カッタモノヲ、非常ニ高ク見積換ヲスルト云フノデハナイノデゴザイマスカラ、其點ニ付キマシテハ然ルベク御承諒ヲ願ヒタイト思ヒマス、更ニ重要ナル問題ト致サレマシテ、輸出價格ト爲替ノ關係ニ付テ御指摘ニナリマシタガ、ドウカ斯ウ云フ問題ハ具體的ノコトヲ御示シ下サイマシテ、役人共ノ間違ッテ居リマスコトハ何處マデモ改メナケレバナリマセヌ、又御注意ナサイマス通り、金ノ逃避ヲ防グト云フコ

トハ洵ニ大切ナコトデアリマシテ、私身不肖ニシテ其具體的ノ問題ハ存ジ上ゲマセヌノデ、ドウカ此點ハ委員會ナリニ於テ、十分御指摘ヲ願ヒタイト思フデアリマス

次テ七案ハ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決(一四ニハ附帶決議ヲ附ス)スヘキモノト決シ八月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

## 一四ニ對スル委員會報告書附帶決議

- 一 政府ハ從來ノ実績ニ鑑ミ製鍊場並選鍊場ノ新增設ニ對スル獎勵金ノ交付ハ特ニ注意スルト共ニ金融關係ニ於テモ助成スルコトトシ探鍊ニハ一層十分ナル獎勵金ノ支出ヲ爲スヘシ
  - 一 政府ハ低品位ノ含金鑛產物ニ付テハ特ニ鐵道運賃ノ減免ヲ爲スヘシ
  - 一 政府ハ買鑛製鍊場ニ對シ嚴正ナル監督ヲ爲シ實收率買收單價ノ引上製鍊費ノ引上並鑛量測定分析等ノ確實ヲ期スヘシ
  - 一 政府ハ金委員會委員ノ選定並委員會ノ運用ニ付實際ニ即スルヤウ特ニ注意スヘシ
  - 一 政府ハ速ニ國營製鍊場ヲ設置スヘシ
- 同日議事日程ヲ變更シテ一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇及三三ノ八案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長武田徳三郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス



私ハ只今上程セラレマシタ産金法案外七件ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲタイト存ジマス、便宜上一括シテ報告ヲ致シタイト存ジマス、此八法案ノ中、産金法案竝ニ金準備評價法案、金資金特別會計法案ハ重要ナル法案デアルト存ジマスカラ、極メテ簡單ニ其内容ヲ一應御説明申上ゲテ見タイト存ジマス、申上ゲル迄モナク豫算ノ膨脹ハ近年必至ノ勢ニナリ居リマス、其結果將來ニ互リ入超増加ノ趨勢ハ免レザル狀況ニアルコトハ申上ゲル迄モナイノデアリマス、之ヲ決濟ヲ致シマシテ、國際收支ノ「バランス」ヲ得ルコトハ、勿論其根本ハ輸出ノ増加ニアルコトハ言フ迄モナイコトデアリマスケレドモ、差當リノ問題ト致シマシテハ、産金ノ増加ヲ圖ツテ、金ノ現送ヲ以テ此入超ヲ「カバー」スルト云フコトハ、實ニ必要已ムヲ得ザル事柄デアルト存ズルノデアリマス、尙ホ其目的ニ依ツテ此産金法案ガ提出サレタノデアリマシテ、其内容ノ重點ハ金鑛ノ探鑛、製鍊場竝ニ選鑛場ノ増設ニ對スル獎勵補助、次ニ又産金ノ政府ニ對スル賣渡ノ義務ヲ産金業者ニ負ハシムルコト、次ニ又産金設備其他ニ對スル政府ノ監督、斯ウ云フコトガ本案ノ主ナル内容ヲ成スモノデアリマス、次ニ又金準備評價法案竝ニ金資金特別會計法案ノ要領ハ、近年通貨ノ基礎ヲ確立シナケレバナラヌコトハ、益々痛切ニ感ゼラレル今日ニ於キマシテ、實際ノ狀況ハ正貨準備ガ順次ニ減少シツ、アル狀態デアリマス、而シテ此正貨準備ヲ充實シテ我國ノ貨幣ノ基礎ヲ確立致シマスルノ途ハ二ツアルノデアリマス、即チ一ツハ物のノ金ヲ餘計ニスルト云フコトデアリマス、一ツハ法的ノ正貨準備ヲ多クスルト云フコトデアリマス、其物のノ金ヲ多クスルト云フコトハ、今程申上ゲマシタ産金法案ノ内容デアリマシテ、而シテ法的ノ正貨準備ヲ充實スルノ方ハ此金準備評價法案、竝ニ金資金特別會計法案ノ内容ヲ成スモノデアリマス、其方法ト致シマシテ、委員會ニ於テ政府ノ説明ニ依ツテ明ニナリマシタコトハ、從來七百五十兆ヲ以テ一圓ト評價シタルモノヲ、二百九十兆ヲ以テ一圓ト評價換ヲスルト云フコトデアリマス、之ヲ分リ易ク申シマスナラバ、從來一匁金五圓ト評價シタモノヲ、此法案ニ依ツテ一匁十二圓九十六錢一厘ト評價換ヲスルト云フコトガ中心ノ問題デアリマス、其結果ト致シマシテ、評價益ガ七億四千餘萬圓ニナルト云フ政府ノ計算デアリマス、ソコデ政府ハ此資

金ヲ以テ金ノ「オペレーション」ト産金、即チ金ノ現送及ビ産金ノ買入ニ充テ、サウシテ其剩レル所ノ金ヲ以テ國債ノ引受ニ充テルト云フ意見デアアルサウデアリマス、尙ホ此七億四千餘萬圓ノ資金ハ、如何ナル方法ニ依ツテ區別サレテアルカト云フコトハ、重要ナ事柄デアラウト思ヒマスルカラ、其結果ダケヲ御報告申上ゲマス、政府ノ説明セラル、所ニ依リマスルト云フト、此金資金特別會計ニ繰入レラレタル七億四千餘萬圓ノ中、四億一千八百餘萬圓ヲ以テ日銀ノ保有シテ居ル所ノ金地金ヲ買入レテ、サウシテ之ヲ金現送ノ資源ニ致スト云フコトデアリマス、更ニ此一億二千八百餘萬圓ヲ以テ新産金ヲ買入レル資源ニ充テルト云フコトデアリマス、斯様ニ致シマスルト、其殘額ガ約二億圓殘ル計算ニナルノデアリマス、此殘額ノ二億圓ヲ以テ公債ノ募集ニ應ズルト云フ計畫デアアルサウデアリマス、更ニ政府ノ意圖ト致シマシテハ、一方金ノ現送ニ伴ヒ日銀ノ正貨準備ハ非常ニ減ツテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ今申上ゲマシタル如ク、評價換ノ結果得タル所ノ益金ノ中、種々ナル計算ガアリマスカラ、難カシイ計算ハ申上ゲマセヌ、其結果ト致シマシテ、八億圓ダケガ日本銀行ノ正貨準備ニ充テラレル計算ニナルト云フコトデアリマス、斯様ニ致シマスルト、保證準備十億ト合セテ、即チ十八億ノ通貨ヲ出シマシテモ日本銀行ハ納付金ナシ、又流通紙幣ノ生産費カソレダケ輕減サレルト云フ結果ニナル、斯様ナ説明デアリマス、是ガ此三法案ノ内容ヲ成スモノデアリマス、其他ノ法案ハ讀ンデ字ノ如ク極メテ明瞭デアリマスルカラ、私ハ其内容ノ説明ヲ省略致シマス、更ニ詳細ノコトハ速記録ニ於テ御承知願ヒタイト思フノデアリマスルガ、其中委員會ニ於テ現レマシタ最モ必要ナ質問ダト思フモノ、二三ヲ此際御紹介申上ゲマス、第一ハ産金増加ノ方法トシテ、本案ニ規定セラレル方法ノ外、更ニ買上値段ノ引上ヲモット思切ツテヤッテハドウカト云フ意味ノ質問デアリマス、之ニ對シテ政府ハソレモ確ニ一ツノ方法デアラウガ、倫敦ノ金相場ト比較スルト、今日ノ買上値段ハ殆ド「マーチン」ヲ認メテ居ナイノデアアル、此上産金ノ買上値段ヲ引上ゲルト云フコトハ將來ノ危険ガアルカラ、若シ引上ゲテ損失ヲ政府ガ負擔スルト云フナラバ、其負擔スベキ損失ノ金ヲ以テ他ニ獎勵ヲシタ方ガ寧ロ有效デアルト考ヘル、斯ウ云フ答辯デアリマス、次ニ



ハ鑛業税ヲ免除シタナラバ産金ノ獎勵ニ宜クハナイカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ノ答辯ハ、鑛業税ハ之ヲ廢止スルト云フコトハ、非常ニ大キナ鑛業者ガ利益ヲ得テ、中小鑛業者ハ餘リ利益ヲ得テ居ナイノデアリガ、其均衡ヲ取ルコト、竝ニソレヲ實際ニ適當ニ按排ヲスルコトハ極メテ困難デアリカラ、寧ろ税ハ稅トシテ取ツテ、別ニ産金獎勵ノ方法ヲ獎勵金ヲ支出ニ依ツテヤツタ方ガ便利デアルト考ヘル、斯様ナ答辯デアリマシタ、次ニハ産金業者ニ對スル金融ノ政策ヲ如何ニスルカト云フ意味ノ質問ニ對シマシテ、政府ノ答辯ハ、是ハ最モ必要ノコト、考ヘルカラ、七十二議會マデニ成ルベク成案ヲ得テ、之ヲ提出致シタイト云フ意味ノ答辯デアリマシタ、更ニ今一ツノ問題ハ、金鑛ニ對スル鐵道運賃ノ免除ヲシテ貴ヘナイカト云フ意味ノ質問デアリマス、之ニ對シテハ商工省ハ最モ希望スル所デアリガ、鐵道省ト能ク協議ヲシテ成ベク其方法ヲ講ジタイト云フ答辯デアリマシタ、更ニ又政府ハ新産金ノ獎勵ニ非常ニ力ヲ入レテ居ルノハ結構デアリガ、此法案成立ノ後、政府ハ獎勵ノ結果コ、數年ノ間ドノ位ノ産金ヲ得ル見込デアリカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ非常ニ細カナ數字ヲ申シテ居リマスルガ、極ク大要ヲ摘ンデ申上ゲマスルナラバ、本年即チ昭和十二年度ニ於テハ、大體内外地合計ガ五十噸位得ラル、見込デアアル、サウシテ其金額ハ現下ノ値段ニ致シマシテ一億八千餘万円位ニナルト思フ、サウシテ五年後ノ昭和十七年度ニ至リマシテハ、内地ダケニ於テ七十五噸ニナル見込デアアル、二億八千八百七十五万円、内外地總テ寄セマス、目方ニ於テ百三十一噸、金額ニ於テ約五億圓ノ數字ニ上ル見込デアルト云フ答辯デアリマシタ、最後ニ委員一同ノ意向ヲ代表致シマシテ、委員長ヨリ商工大臣ニ向ツテ一ツ確メテ置イタコトガアルノデアリマス、ソレハ此産金法案ニ於キマシテ、政府ハ種々ナル命令ヲ以テ、設備ノ改善其他ノコトヲ命ジ得ル規定ガ四箇條程アルノデアリマス、其爲ニ産金業者ハ或ハ損失ヲ受ケルコトガアルカモ知レナイト云フコトハ、委員一同ノ惧ル、所デアリマシタ、仍テ之ヲ政府ニ確メタイト云フコトデアリマシテ、斯様ナ意味ノ質問ヲ致シタノデアリマス、政府ハ本法第五條第二項、第六條、第七條ノ第二項及ビ第八條ノ規定ニ依ツテ事業計畫ノ變更、設備ノ擴張改良等ヲ命ズル場合ニ於テ、獎勵金ノ交

付ニ付キ篤ト考慮シ、當業者ニ對シ不當ノ損失ヲ及ボサザルヤウ注意スベキモノト思料スルガ如何、斯ウ云フ意味ノ質問ヲ致シタノデアリマス、之ニ對シテ商工大臣ハ御質問ノ趣旨洵ニ御尤デアルト思フカラ、其趣旨ニ應ズルヤウニ取計ハウト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、是デ質問ノ大要ヲ終ツタノデアリマス、最後ニ討論ニ移リマシテ、民政黨ノ原君ヨリ産金法案ニ對シ五箇條ノ附帶決議ヲ附シテ原案ニ賛成ヲシタイ、其他ノ法案ハ總テ原案ニ賛成ヲスルト云フ御意見デアリマシタ、其附帶決議ヲ茲ニ讀上ゲマス

- 一 政府ハ從來ノ實績ニ鑑ミ製鍊場並ニ選鑛場ノ新増設ニ對スル獎勵金ノ交付ハ特ニ注意スルト共ニ金融關係ニ於テモ助成スルコトトシ探鑛ニハ一層充分ナル獎勵金ノ支出ヲ爲スヘシ
  - 一 政府ハ低品位ノ含金鑛産物ニ付キテハ特ニ鐵道運賃ノ減免ヲ爲スヘシ
  - 一 政府ハ買鑛製鍊場ニ對シ嚴正ナル監督ヲ爲シ實收率買收單價ノ引上製鍊費ノ引下竝ニ鑛量測定分析等ノ確實ヲ期スヘシ
  - 一 政府ハ金委員會委員ノ選定竝ニ委員會ノ運用ニ付實際ニ即スルヤウ特ニ注意スヘシ
  - 一 政府ハ速ニ國營精煉場ヲ設置スヘシ
- 此附帶決議ヲ附シテ總テ提案ノ原案ニ賛成ノ意ヲ表サレマシタ、政友會カラハ石坂養平君ガ政友會ヲ代表シテ、同ジク原案ニ賛成ノ意味ヲ申述ベラレマシテ、又此附帶決議ニモ賛成ノ意ヲ述ベラレマシタ、他ノ各派カラハ別ニ討論ハナカッタノデアリマスガ、採決ノ結果各案トモ全會一致ヲ以テ可決ニ相成リマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク八案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月六日可決奏上シ(三三參看)同月十一日一四ハ法律第五十九號、一五ハ法律第六十號、一六ハ法律第六十一號、一七ハ法律第六十二號、一八ハ法律第六十三



號、一九〇八法律第六十四號ヲ以テ同月二十八日二〇ハ法律第八十一號ヲ以テ公布セラル

三〇二

二一 軍機保護法改正法律案(貴族院送付)

軍機保護法

第一條 本法ニ於テ軍事上ノ秘密ト稱スルハ作戰、用兵、動員、出師其ノ他軍事上秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ヲ謂フ

前項ノ事項又ハ圖書物件ノ種類範圍ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ秘密ヲ公ニスル目的ヲ以テ又ハ之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル目的ヲ以テ前項ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ四年以上ノ懲役ニ處ス

第四條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條 偶然ノ原由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

偶然ノ原由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第六條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

情ヲ知リテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ他人ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ左ニ掲グルモノニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコト

第二章 議事

第三節 議案

第二款

議案ノ討議及表決

第四項

法律案

三〇三



ヲ得

- 一 軍港、要港又ハ防禦港
- 二 堡壘、砲臺、防備衛所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦營造物
- 三 軍用艦船、軍用航空機若ハ兵器又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣所管ノ飛行場、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ祕密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ前條第一項ノ防禦營造物又ハ軍事施設ノ周圍ノ地域ニシテ陸軍大臣又ハ海軍大臣所管ノモノニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者亦前條第二項ニ同ジ

第十條 許可ヲ得ズ若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ詐僞ノ方法ヲ以テ許可ヲ得テ第八條第一項第二號若ハ第三號ニ掲グルモノニシテ同條ノ禁止若ハ制限ニ係ルモノ又ハ前條第一項ノ區域ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第八條第一項又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行爲ヨリ生ジタル圖書物件ヲ他人ニ交付シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ圖書物件ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ交付シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ防空其ノ他國土防衛ノ爲軍事上ノ祕密保護ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ空域、土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ左ニ掲グル行爲ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

- 一 其ノ區域ニ於ケル航空
- 二 其ノ區域内ノ氣象ノ觀測又ハ其ノ區域内ノ水陸ノ形狀若ハ施設物ノ狀況ノ測量若ハ空中、高所ヨリノ撮影又ハ其ノ複寫若ハ複製

前項第一號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處シ同項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行爲ヨリ生ジタル圖書ヲ他人ニ交付シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ圖書ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ交付シタル者ハ七年以下ノ懲役又



ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ演習又ハ兵器實驗等ニ際シ軍事上ノ祕密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ演習又ハ實驗等ヲ行フ空域、土地又ハ水面及其ノ周圍ノ地域ニ付區域及期間ヲ定メ之ニ出入スルコトヲ一時禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ祕密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ開港場以外ノ水面ニ付區域ヲ定メ外國船舶ノ之ニ出入スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ情狀重キトキハ其ノ船舶ヲ沒收ス

第十五條 第二條乃至第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項及第十三條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十六條 第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者亦前項ニ同ジ

第十七條 第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第十四項又ハ第十三條第二項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ得タル財物ハ犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス其ノ財物ガ犯人以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十九條 第二條乃至第五條、第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條又ハ第十二條第二項乃至第四項ニ規定スル犯罪行爲(未遂罪ノ場合ヲ含ム)ヲ組成シタル物又ハ其ノ犯罪行爲ヨリ生ジタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハズ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒取スルコトヲ得

前項ノ沒取ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 第二條、第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十二條第二項、第十五條又ハ第十六條第一項ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

第二十一條 第二條乃至第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條、第十二條第二項乃



至第四項及第十五條乃至前條ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法施行法第二十六條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 削除

右ハ昭和十二年七月二十五日貴族院ニ提出ス同院ハ同月三十日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月三十一日本案ノ第一讀會ヲ開キ米内海軍大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ軍機保護法改正法律案ノ理由ヲ說明申上ゲマス、軍事上ノ秘密ヲ保護スルコトハ、時ノ平戰ヲ問ハズ、國土防衛上緊要ナルノミナラズ、特ニ有事ニ際シ敵ヲ奇襲スル所以デアリマシテ、戰勝ノ一大要因タルコトハ、古今東西ヲ通ジテ不變ノ鐵則デアリマス、殊ニ近時ニ於ケル科學ノ進歩ト戰爭技術ノ變遷トハ、益々軍機ノ種類、範圍ト、是ガ保護ノ必要性トヲ増大スルニ至ラシメタノデアリマス、即チ各國ハ平時ヨリ多大ノ犠牲ヲ拂ッテ、極秘裡ニ作戰、用兵、動員又ハ出師等ノ諸計畫、編成、裝備、教育、訓練、艦船、兵器等ヲ研究整備シテ、一朝有事ニ際シ有ユル部面ニ於テ奇襲ノ效果ヲ得ルコトニ腐心シテ居リマスト共ニ、他面競ウテ外國ノ軍事上ノ秘密ヲ諜知スル爲メ、膨大ナル組織ト巧妙ナル科學的手段トヲ以テ、一片ノ秘密取得ニ數万金ヲ惜マザルガ如キ實情デアリマシテ、最近ニ於ケル國際情勢ノ險惡化ニ伴ヒ、其傾向益々甚シキヲ加ヘテ參リマシタ、然ルニ現行軍機保護法ハ約四十年前

ノ制定ニ係リ、之ヲ以テシテハ到底現代ノ諜報戰ニ對應スルコト不可能トナッタバカリデナク、其刑名、刑期等ハ舊刑法所定ノモノニ係ル等、不備缺陷多キヲ以テ、改正案ヲ第七十議會ニ提案シ、本院ニ於テハ委員會ノ通過ヲ見タル次第デアリマスガ、議會解散ノ爲メ協贊ヲ得ルコト出來マセヌデシタノデ、本議會ニ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒速ニ御審議ノ上御協贊アラント希望致シマス

三田村武夫君質疑ヲ爲シ米内海軍大臣及馬場內務大臣應答ス

三田村武夫君ノ質疑

本案ハ既ニ前議會ニ於キマシテ、各方面カラ審議サレテ居リマスノデ、私ハ極メテ簡單ニ二三ノ點ヲ御尋致シタイト思ヒマス、第一ニ私ハ陸海軍大臣ニ御伺致シマス、只今陸軍大臣ガ北支事變ノ其後ノ狀況ヲ御説明ニナリマシタガ、北支ノ風雲愈々急ヲ告ゲマシテ、所謂戰時體制ニ入ッタモノト私達ハ考ヘルノデアリマス、此際此議會ニ於キマシテ軍機保護法ノ審議ヲ致シマスコトハ、私ハ洵ニ意義ナシトシナイノデアリマス、就キマシテ私ハ昨年ノ特別議會ニ御提出ニナリマシタ國家總動員秘密保護法案ヲ、此議會ニ御提出ニナラナカッタ御趣旨ヲ先ヅ御伺シタイノデアリマス、ト申シマスノハ、今日此戰時體制下ニ於キマシテ、國防上保護シナクチャナラナイ軍事上ノ機密ハ、所謂狹義ニ於ケル軍事ノ機密ノミニ止ラナイト思フノデアリマス、作戰用兵、軍隊ノ編成、軍機ノ機密ニ關シテハ、固ヨリ嚴重ナル機密ノ保持ヲ必要ト致シマスガ、今日ノ所謂近代戰ハ私ガ申上ゲルマデモナク、單ナル武力戰デナクシテ國力戰デアリマス、狹義ノ軍事上ノ機密ヲ保護スルコトノミニ依ッテ、國力ノ全體ガ茲ニ保護サレルモノデハナイノデアリマス、國力戰デアリマスナラバ、所謂廣義國防ノ見地カラ國力ノ總和デアリマス、而モ戰ニ重大ナル關係ヲ持チマス所ノ産業計畫、即チ經濟戰、思想戰ニ必要ナ有ユル機關ノ秘密ガ保護サレナクチャナラナイト思フノデアリマス、昨年ノ特別議會ニ於キマシテハ、此國家總



動員秘密保護法が非常ニ不評判デアッタノデアリマス、ソレハ此法案ノ運用如何ニ依ッテハ國民ノ自由ニ至大ナル惡影響ヲ及ボス、斯ル懸念ノ下ニ不評判デアッタノデアリマスガ、今日事態ハ一轉致シマシテ、東亞ノ一大變局ニ直面シタノデアリマシテ、吾々國民全部舉ッテ一大決意ヲ爲サナクチャナラナイ秋デアリマス、斯ル際ニ於キマシテハ、日本人ハ忍苦ト犠牲ニ堪ヘ得ルモノデアリマス、私ハ斯ル時ニコソ國力ノ全體ヲ保護スル意味ニ於テ、モット高イ、モット廣イ範圍ノ國力保護ノ爲ノ立法ガ考ヘラレテ宜イノデハナイカト思フノデアリマス、其意味ニ於キマシテ、今回此北支事變ヲ契機ト致シマシテ、東亞ノ風雲急ナル今日、軍機保護法ヲ御提案ニナリマシタ此時ニ於キマシテ、私ハイマ一段ノ軍機保護ノ點ニ御留意アリタイコトヲ切望スルノデアリマス、同時ニ前提致シマシタ此所謂廣義ノ意味ニ於ケル軍機保護法ノ點ニ關シテ、陸海軍大臣ハ如何ナル御計畫ヲ御持チニナッテ居リマスガ、其點ヲ御伺シタイノデアリマス、第二ニ私ハ文部大臣ニ御伺シタイノデアリマスガ、オ居デニナラヌヤウデアリマスカラ省略致シマス、唯一言致シマスノハ、私ハ政府全體ニ一言致シテ置キタイト思フノデアリマス、戰時體制下ニ於ケル國政ノ運営ハ、總テ一體ニナラナクチャナラヌト思フノデアリマス、今日東亞ノ現勢ガ斯ノ如ク紛糾シ、日本ガ對外的ニ苦難ヲ嘗メテ居リマス根本ノ原因ハ、固ヨリ支那ノ暴戾極マル排日抗日ニアッタノデアリマスガ、併シ吾々ハ國民トシテ、政治家トシテ大イニ反省シナクチャナラヌ事實モアッタコトヲ知ルノデアリマス、ソレハ國內ニ於テ徒ナル抗爭ヲ繰返シ、日本自ラ國內ノ不統一ヲ彼等ノ前ニ暴露シタ其事實ガ、支那ヲシテ益、排日抗日ノ思想ヲ助長セシメタノデアリマス、デアリマスカラ今日此戰時體制下ニ於テ特ニ考慮サルベキ問題ハ、國民總動員ノ形體ニ於テ、國民ノ所謂思想總動員、國民ノ全思想ヲ國家目的ノ爲ニ統一シ運営スル、強化スルト云フ點ヲ、特ニ御考慮ヒタイト思フノデアリマス、第三ニ私ハ内務大臣ニ御伺致シマス、本案ハ言フ迄モナク所謂「スパイ」ノ取締法案デアリマス、併シ「スパイ」ト申シマシテモ色々アリマシテ、中々難カシイノデアリマスガ、實際吾々ガ聞及ブ範圍ニ於キマシテ、甚ダ遺憾ニ堪ヘナイト思ヒマスコトハ、社會ノ上層階級ニ於ケル外人トノ交遊デアリマ

ス、私ハ如何ニ法律ヲ整備シ、形ヲ整ヘテ見テモ、漏レル所カラ漏レ、バ無意義ダト思フノデアリマス、嘗テ倫敦海軍條約ノ折ニ、或ハ國際聯盟退ノ際ニ於ケル日本ノ對外方針ガ、海外ニ類々ト漏レタコトヲ私達ハ聞及ンデ居ルノデアリマス、彼等ハ或ハ長イ外國生活ノ體驗カラ、或ハ古イ交遊關係カラ、常ニ外部ノ人ト接觸ヲシテ居リマス、或ハ不用意ノウチカモ知レマセヌガ、中ニハ自己ノ地位ヲ保持センガ爲ニ、往々ニシテ國內ノ好マシカラザル事マデ傳ヘル者ガナシトシナイノデアリマス、此點ニ對シテ如何ナル御所見ヲ御持チデアリマスガ、私ハ今回提案ニナッテ居リマス此軍機保護法ガ嚴重ニ施行サレマス時、國民ハ相當大キナ苦痛ヲ感ズルト思フノデアリマス、國民ガ全部相當ノ犠牲ト忍苦ヲ拂ッテモ、タッタ一ツモット高度ノ場所カラ漏レルモノガアリマスナラバ、私ハ全ク無意義ダト思フノデアリマス、尙ホ私ハ茲ニ内務當局ノ御考慮ヲ煩シタイト思フノハ、國際主義ヲ飽マデモ遵奉スル社會主義陣營ノ組織活動デアリマス、私ハ今日ノ日本ニハ斯ノ如キ組織活動ガ無イコトヲ希ヒ且ツ確信致シテ居リマスガ、國際關係ガ險惡ニナレバナル程、彼等ノ蠢動ハ益々盛ニナルノデアリマス、「ソビエト」露西亞ノ所謂人民戰線ノ思潮、其思潮ノ線ニ依ッテ動ク各國ノ社會主義陣營ハ、必然ノ勢ト致シマシテ國際的ノ組織ヲ持チマシテ、サウシテ彼等ハ所謂非戰論ヲ唱ヘテ、有ユル角度カラ本國ノ利益ヲ擁護シヨウトシナイノデアリマス、デアリマスカラ特ニ斯ノ如キ對外關係ノ緊迫シタ折ニ於キマシテハ、此國際主義ヲ飽マデモ遵奉スル社會主義陣營ノ組織活動ニ付テハ、嚴重ナル取締ヲ切望シテ已マナイノデアリマス、此點ニ付テ如何ナル御所見ヲ御持チデアリマスガ、内務大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、次ニ私ハ外務大臣ニ御伺シタイノデアリマスガ、是モオ居デガナイヤウデアリマスカラ簡單ニ申上ゲテ置キマス、此「スパイ」ノ取締ト云フノハ非常ニ重要デアリマスガ、是ハ積極ト消極ト二ツノ方面ガアリマシテ、此内地ニ於ケル外國ノ「スパイ」、所謂諸列國ノ諜報機關ヲ取締ルト云フコトガ一ツト、同時ニ考慮サレナクテハナラナイ問題ハ、我國ニ於ケル其機關ノ整備デアリマス、御承知ノ如ク滿洲ハ國際「スパイ」ノ活躍舞臺デアリマシテ、滿洲ニ於キマシテハ日本ノ有ユル行動ヲ彼等ハ聽取セント活躍シテ居ルノデアリマ



ス、其滿洲ニ於ケル日本ノ所謂警察機關ノ状態ヲ見マスルト、甚ダ私ハ不可解ナ點ガアルノデアリマス、ト申シマスノハ、御承知ノ如ク滿洲ニハ外務大臣ノ監督下ニアリマス駐滿全權大使ト云フモノガアリマス、其下ニ領事館ノ警察ガアリマス、一方關東局ノ下ニハ關東局ノ警察官ガ居リマス、尙ホ憲兵警察ガアリ、滿洲國ノ警察ガアリ、四ツモ五ツモ幅濼シテ居ルノデアリマス、私ハ或ル意味ニ於テ斯ノ如ク幅濼シタ警察機關ノアルコトヲ好マシク思フコトモアリマスガ、大體ニ於テ甚ダ複雑デアリ、不統制ニ終ルノデアリマス、滿洲ガ今日日本ノ生命線トシテ國際「スバイ」ノ活躍舞臺ニナツテ居リマス現狀ニ鑑ミマシテ、私ハ滿洲ニ於ケル此警察機關ノ整備ト云フコトハ、最モ留意シナケレバナラヌ問題デアルト思フノデアリマス、此點ニ付テ外務當局ノ御所見ガ伺ヘマスレバ甚ダ結構ダト思フノデアリマス、尙ホ私ハ第五點ト致シマシテ拓務大臣ニモ御伺シタイノデアリマスガ、オ居デガナイヤウデアリマスカラ簡單ニ致シマス、唯一言政府當局ニ申上ゲテ置キマス、今日ノ此東亞ノ重大時局ハ、吾々ノ見解ヲ以テ致シマスナラバ、尙ホ暫ク膠著状態ニ居ルコトト思ヒマス、政府當局ノ不擴大、局地解決方針モ、遂ニ其努力ガ酬ヒラレズ、益々擴大ノ一途ヲ辿リツ、アルノデアリマス、此現狀ニ於テ尙ホ一層時局ガ重大化シタ際、朝鮮、臺灣、南洋方面ニ於ケル治安ニ付テ、一體安心シテ吾々ガ居レルカドウカ、私ハ此點ヲ深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、ドウカ此方面ニ於キマシテモ、此軍機保護法ノ制定ヲ機會ト致シマシテ、十分ナル取締ノ組織機關ヲ整備サレンコトヲ望ンデ、私ノ質問ヲ終リタイト思ヒマス

## 米内海軍大臣ノ應答

三田村君ニ御答致シマス、國家總動員、頗ル範圍ガ廣イヤウデアリマスルガ、特ニ此際必要トスルモノニ付研究中デアリマス

## 馬場内務大臣ノ應答

三田村君ノ御質問ニ御答ヲ申上ゲマス、社會上層部ノ者ガ折ニ觸レテ秘密ヲ漏洩スルト云フヤウナコトハ、私モ聞カナイコトデアリマセヌ、甚ダ遺憾ナ次第デアリマス、是ハ宜シク各人ノ自省ニ俟ツベキモノダト思ヒマス、之ヲ法規ノ下デ取締ルト云フ特別ノ手續ハナイト思ヒマス、第二ノ御質問ハ、共產主義其他サウ云フ主義ガ國際主義的ニ色々活動スル、之ニ對シテ警察上ノ査察ニ付テノ御注意的御質問ダラウト思ヒマス、斯ウ云フコトハ斯ル時局ノ上ニ於テハ特ニ必要ガアルト思ヒマス、内務省ニ於テハ此點ニハ日頃努メテ居リマスガ、斯ウ云フ時局ニ於テハ一層注意致ス積リデアリマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ八月二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決(附帶決議ヲ附ス)スヘキモノト決シ同月七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

## 委員會報告書附帶決議

本法ニ於テ保護スル軍事上ノ秘密トハ不法ノ手段ニ依ルニ非サレハ之ヲ探知收集スルコトヲ得サル高度ノ秘密ナルヲ以テ政府ハ本法ノ運用ニ當リテハ須ク軍事上ノ秘密ナルコトヲ知リテ之ヲ侵害スル者ノミニ適用スヘシ

同日議事日程ヲ變更シテ本案及二二、宮脇長吉君外一名提出恩給法中改正法律案ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長生田和平君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程ニ相成リマシタ軍機保護法改正法律案、兵役法中改正法律案、恩給法中改正法律案ノ



委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ去ル八月一日ヨリ引續キ連日開會致シテ、慎重審議ヲ盡シタノデアリマスルガ、政府ノ説明ヲ要約致シマスルト云フト、現行法ハ明治三十二年ノ制度ニ係ルモノデアリマシテ、不備缺陷ガアルバカリデナク、各國競ウテ新戰術、新兵器、其他ノ工夫ニ努メテ居リマシテ、是ガ秘匿ニ全力ヲ集中致シテ居ルノデアリマス、又一方軍機ノ探知ト偵察トニ有ユル努力ヲ拂ッテ居リマスル此現狀ニ鑑ミマシテ、本案ヲ提出致シタト申シテ居ルノデアリマス、其外郭ヲ列舉致シマスレバ、秘密ノ種類、範圍ヲ明ニスルコト、刑ノ範圍ヲ定ムルコト、「スパイ」團組織者ノ處罰、防空其他國土防衛ノ規定、秘密ノ演習、實驗ヲ秘匿スル規定、外國船舶ノ不法入港ニ對スル規定、外國若クハ外國ノ爲ニ漏洩スル規定等デアリマス、其内容ヲ申上ゲマスレバ、作戰又ハ用兵ニ關スル事項、出師準備ニ關スル事項、軍備ニ關スル事項、通信ニ關スル事項、諜報及ビ防諜ニ關スル事項、教育、訓練、演習及ビ研究實驗ニ關スル事項、艦船、航空及ビ軍事費ニ關スル事項、文書、圖書ニ關スル事項等デアリマス、本案ノ骨子トスル所ハ第一條第一項ニ於キマシテ、軍事ノ秘密事項ノ原則ヲ明ニシテアリマス、同條第二項デハ秘密事項保護ノ範圍ヲ定メテアリマス、第二條以下ニ於キマシテハ、探知收集又ハ領有シ、又ハ漏洩スル等ノ罪ノ定量ヲ規定シテアルノデアリマス、唯本法ノ特異點ヲ申上ゲマスレバ、一般ノ法制ニハ勅令ニ讓ルコトヲ例ト致シテ居リマスガ、此軍機保護法ニ限リマシテ、陸海軍大臣ニ命令權ヲ付與シテアル點デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、頗ル廣汎ニ互リ質問應答ガ重ネラレタノデアリマスルガ、其中デ主タルモノヲ申上ゲマス、第一ハ此法律ノ改正ニ伴ヒマシテ、軍事ノ秘密事項ノ判定權ヲ陸海軍大臣ニ付與シ、之ニ依リテ發令セラレタル廣範圍ニ互ル秘密事項ガ、法ノ運用ヲ誤リマシテ、檢舉第一主義ニ陥ル弊害ヲ招來スルコトハ必シモ杞憂ニアラザルコトヲ指摘致シタノデアリマス、第二點ハ、軍事上ノ秘密ヲ探知、收集又ハ領有シ、或ハ漏洩スル行爲ニ付キマシテ、故意ト善意トノ法的議論ガアリマシテ、其立法ノ精神ヲ究明致シタノデアリマス、第三點ハ、軍事上ノ秘密事項ヲ業務上探知收集シタル場合ニ於ケル本法ノ適用ニ付テノ疑義、第四點ハ、第一條第二項ノ省令ノ範圍ヲ不必要ナル程

度ニマデ擴大シタコトハ、國民ヲシテ軍事上ノコトハ一切口ヲ緘シテ言ハシメザルコトナリ、遂ニハ軍ト國民トヲ離隔セシムル虞ナキヤ否ヤト云フ問デアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ノ答辯ノ要旨ヲ申上グレバ、第一ニ對シテハ、第一條第一項ハ秘密ノ原則ヲ示シ、第二項ハ範圍ヲ限定シタノデアアル、其範圍ヲ擴大シタコトハ秘密ノ限度ヲ明ニ示シテ、現行法ノ不備ヲ改メ不用意ノ間ニ、知ラズ識ラズノ間ニ法ヲ犯スコトナカラシムルノデアアル、本法ノ運用ニ付キマシテハ、其局ニ當ル者ヲシテ本法ノ精神ヲ正解セシメテ、檢舉第一主義ニ陥ル等ノコトナキヤウ、萬遺憾ナキヲ期スル旨ヲ言明致シテ居リマシタ、第二ニ對シテハ、軍事上ノ秘密事項ナルコトヲ知ラズシテ犯シタル罪ハ論ゼズトノ、立法上ノ基礎觀念ヲ明ニシタノデアリマス、第三ニ對シテハ、本案第一條ノ所謂軍事上ノ秘密ハ、軍ニ於ケル秘密中統帥事項又ハ統帥ニ密接ナル關係ヲ有スル事項ニ關スル高度ノ秘密ヲ謂フノデアリマス、即チ尋常一樣ノ手段デハ探知收集スルコトノ出來ヌ、不正ノ手段ヲ以テ是等ノ秘密ヲ探知收集スル者ヲ罰スルノ意味デアリマス、而シテ省令ニ示ス事項デモ、軍ヨリ公表シタルモノハ秘密ニ屬シマセヌ、總テ議員トシテノ業務上ノ調査ハ勿論、政務調査會デ秘密事項ニ付キ惡意ナクシテ當局ニ聞カル、コトハ、直チニ探知收集ノ罪トナルトハ言ヘナイト思ヒマス、第四ニ對シテハ秘密事項ノ範圍ヲ擴張スルハ、現行法ノ內規的法制ヲ改メ、其限度ヲ明示シ、國民ヲシテ秘密ノ内容ヲ知ラシメルノデアッテ、決シテ國民ノ口ヲ箝スルモノデナク、寧ロ國民ヲシテ軍事秘密ノ必要性ヲ會得セシメ、國防ニ理解ヲ持タシムルモノデアルトノ答辯ガアリマシタ、討論ニ入りマシテ、政友會ノ名川委員ヨリ本案ニ對スル賛成ノ意見ヲ述べ、更ニ附帶決議ヲ附スルコトノ動議ヲ提出致シマシタ、朗讀致シマス

附帶決議

本法ニ於テ保護スル軍事上ノ秘密トハ不法ノ手段ニ依ルニ非サレハ之ヲ探知收集スルコトヲ得サル高度ノ秘密ナルヲ以テ政府ハ本法ノ運用ニ當リテハ須ク軍事上ノ秘密ナルコトヲ知リテ之ヲ侵害スル者ノミニ適用スヘシ



之ニ對シマシテ民政黨ノ川崎委員、第一控室ノ石坂委員、社會大衆黨ノ前川委員ヨリソレ々、本案ニ對シテ贊成ヲ述ベ、且ツ附帶決議ニ對シテノ贊意ヲ表シタノデアリマス、此委員ノ諸君ハ何レモ異口同音ニ、政府ニ對シテ「スバイ」團ノ撲滅ハ徹底的ニ行ハナケレバナラヌガ、良民ガ此法律ニ掛リ惱ムコトガアツテハナラヌ、此運用ニ對シテハ須ク政府ハ十分ノ注意ヲ爲スベシト云フ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、採決ニ入りマシテ全員一致本案ニ贊成ノ意思ヲ表シマシタ、仍テ本案ハ原案通り可決シ、尙ホ附帶決議ヲモ可決致シタノデアリマス、之ニ對シテ米内海軍大臣ハ、陸軍大臣、司法大臣ノ三大臣ヲ代表シテ、此附帶決議ニ對シテハ、政府ハ法ノ運用ニ付テ十分ノ注意ヲシテ過ナキコトヲ期スル旨ヲ言明セラレタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス、次ハ兵役法中改正法律案デアリマスガ、是ハ前川委員ヨリ兵士ノ體力低下ニ付テノ質問ガアリマシタ外ハ、餘リ質問ガナカッタノデアリマス、討論ニ入りマシテ、政友會ノ名川委員、民政黨ノ川崎委員、第一控室ノ石坂委員、社會大衆黨ノ前川委員ヨリ、ソレ々、原案ニ對スル贊成ノ意見ヲ述ベ、之ヲ起立ニ諮ヒ、全會一致可決致シタノデアリマス、次ニ恩給法中改正法律案デアリマス、是モ政友會ノ羽田委員、民政黨ノ川崎委員、第一控室ノ石坂委員、社會大衆黨ノ前川委員ヨリ、ソレ々、原案ニ對スル贊成ノ意見ヲ述ベマシテ、滿場一致可決致シマシタ次第デアリマス、以上三案ニ付テ御報告致シマス

杉山陸軍大臣ハ發言ヲ求メ政府ノ意見ヲ述フ

軍機保護法案ニ對シマシテ附帶條件ガアリマスルガ、之ニ對シマシテハ政府ハ十分ニ注意ヲ致シマシテ、此法ノ適用ニ當リマシテ誤ナキコトヲ期シテ居リマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ可決奏上シ

(三二及本章第四項第二ノ七參看) 本案ハ八月十四日法律第七十二號ヲ以テ公布セララル

三二 兵役法中改正法律案(貴族院送付)

兵役法中左ノ通改正ス

第十九條ノ二 特ニ必要アルトキハ第十六條ニ規定スル未入營期間ノ外概ネ三月以内ノ未入營期間ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該期間ニ相當スル期間以内現役期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ豫備役期間ニ之ヲ通算ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年七月二十五日貴族院ニ提出ス同院ハ七月三十日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月三十一日本案ノ第一讀會ヲ開キ杉山陸軍大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

兵役法中改正法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ説明致シマス、現在陸軍ノ現役兵ハ種々ノ關係カラ、輻重兵特務兵ノ如キ短期在營者ハ別ト致シマシテ、一般ノ者ハ十二月一日及ビ三月ニ入營スルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、現行兵役法ノ關係上、其中十二月及ビ一月ニ入營ヲ致シマス者ノ現役ハ、十二月カラ始ツテ居リマシテ二箇年ト云フコトニナツテ居リマス、三月入營ノ者ハ三月カラ始マリマシテ二箇年ト云フコトニナツテ居リマス、此現役ノ始マル時期ニ差ガ



アリマスル事柄ハ、其者ノ豫備役、後備役ヲ含ム全服役ニ互リマシテ、其服役及ビ各年次ノ移  
 變リ時期ニ差異ヲ生ズルノデアリマシテ、此人員ガ多數ニ上リ、殊ニ其數ガ漸次多クナリマス  
 ル關係上、取扱ガ頗ル困難トナツテ參ルノデアリマス、而シテ此取扱ノ困難ニナリマスル事柄  
 ハ、動員ノ準備ヲ致シマスル上ニ於キマシテ至大ノ關係ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、此儘推移  
 致シマシタナレバ、動員部隊ノ素質ニ累ヲ及ボス虞ガ益々大キクナツテ參ル狀態デアリマス、隨  
 テ十二月又ハ一月ニ入營シマスル者モ、三月ニ入營シマスル者モ、其服役上ノ取扱ハ一樣ニ致  
 シマシテ、何レモ十二月カラ其現役ガ始マリマシテ、隨テ服役及ビ各年次ノ移變リガ一樣ニ行  
 ハレルヤウニシマシテ、動員準備上ニ缺陷ヲ生ゼシメナイヤウニ致シタイト存ズルノデアリマ  
 ス、即チ三月ニ入營シマスル者ノ現役ノ始マリヲ、三月トスルコトナク、ヤハリ十二月ニ現役  
 ニ就カシメマシテ、三月マデノ間ハ未入營期間トシテ置キ得ルヤウニ法律ノ改正ガ出來レバ、  
 各人ノ義務負擔ニハ殆ンド影響ガナク、其目的ヲ達シ得ルノデアルト考ヘテ居リマス、今回本  
 法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ハ以上申述ベタ通りデアリマス、何卒慎重審議ノ上協賛ア  
 ランコトヲ希望致シマス

野溝勝君質疑シ杉山陸軍大臣應答ス

野溝勝君ノ質疑

私ハ兵役法ノ改正ニ關聯致シマシテ、簡單ニ當局ニ質問ヲシテ見タイト思フノデアリマス、軍  
 事扶助法ノ適用、竝ニ出征兵士ノ家族生活保障ノ問題ニ付テ御伺致シマス、從來ノ軍事救護法  
 ガ、七十議會デハ軍事扶助法ト改正サレタノデアリマス、サウシテ其適用範圍ガ擴大サレマシ  
 タ、軍事扶助法ニ依レバ、方面委員ノ手ヲ經タリ、或ハ市町村自治體ノ手ヲ經テ、地方長官ニ上  
 申スルコトニナツテ居ッテ、其手續ガ中々煩瑣デアッタノデアリマス、又其精神ニ於キマシテモ  
 多分ニ救恤的デアルトカ、或ハ慈善的デアルトカ云フヤウナ意味ガ含マレテ居ッタカノ如ク吾

吾ハ見テ居ルノデアリマス、斯ノ如キ言葉ト申シマセウカ、無意義ナ言葉ヲ使フ觀念デ之ヲ處  
 理セントスルコトハ、現内閣ガ唱ヘテ居ル所ノ社會正義ノ理念ト云フコトニ反シハシナイカト  
 思フ者デアリマス、故ニ吾々ハ國家ノ爲ニ一身ヲ挺シテ、重大使命ヲ爲シテ居ル所ノ出征兵士  
 ニ對シマシテハ、後顧ノ憂ナカラシムルコトガ最モ緊急事デハナイカト思ヒマス、特ニ現下ノ  
 國民生活不安定ノ情勢下ニ於キマシテハ、是等家族ニ對シマシテ國家ガ不安ナカラシムルト云  
 フコトハ、最モ深ク考ヘナケレバナラス點デアルト私ハ思ヒマス、出征兵士ノ家族ニ對シ、生  
 活保障ノ爲ニ、是ハ私等ノ私案デアリマスケレドモ、一家族當テ月額五十圓ヲ國庫ヨリ支給  
 シ、毎月末日ニ聯隊區司令官ヲ經テ現金ヲ以テ交付シ、且ツ或ハ官公署、其他ノ會社、商店等  
 ニ於ケル従業員及ビ工場其他ノ業務ニ從事シテ居ル所ノ者ガ應召サレルヤウナ場合ハ、官公署  
 或ハ雇傭主ハ是等應召者ノ俸給賃金全額ヲ支給セシメ、或ハ除隊ノ際ニ於ケル就職等ニ對シテ  
 モ、保障ヲセシムルヤウナ法律ヲ制定シテ貫ヒタイト思フノデアリマス、其趣旨ノ決議案ヲ今  
 議會ニ提唱シテ居ルノデアリマスガ、政府ハ是等ノ趣旨ヲ統一一致シマシテ、出征兵士家族ノ保  
 障ヲスル所ノ手段ヲ講ズル意思アリヤト云フコトヲ御聽キシタイト思フノデアリマス、最後ニ  
 申上ゲテ置キタイトハ、多クノ先輩議員諸君カラモ度々言ハレテ居ルコトデアリマスガ、軍  
 部ニ於キマシテハ廣義國防ヲ提唱シテ居ル立前カラ見マシテモ、現下ノ國民ノ經濟情勢ガ、ド  
 ンナ關係ニ在ルカト云フコトハ、篤ト御諒承ノコトト思フノデアリマス、左様ナ點カラ見マシ  
 テモ、出征兵士ノ家族ノ後顧ノ憂ナカラシムル爲ニ、政府ハ相當ノ考ヲ持ツテ居ラル、ト思フ  
 ノデアリマスガ、其點ニ付キマシテ特ニ御答辯ヲ御願シタイト思ヒマス

杉山陸軍大臣ノ應答

野溝君ノ御尋ニ對シマシテ御答致シマス、出征兵ノ家族ヲシテ、出征兵ヲシテ遺憾ナカラシム  
 ル如ク後援ヲ十分ニスルト云フ趣旨ニ付キマシテハ、全然御同意デアリマス、此點ニ付キマシ  
 テハ、制度ト致シマシテハ、只今野溝君ノ言ハレタ如ク、軍事扶助法ガ立テラレテ居ルノデア



リマスガ、其實行上ニ於テ煩多ナコトガアルト云フ御話デアリマスルガ、是等ノ點ニ付キマシテハ、尙ホ内務當局ト其實行上ニ於テ御意圖ニ副フヤウニ協力ヲシテ行キタイト存ジテ居リマス、併ナガラ此軍事扶助法ハ、或ル一部ノ者ニ特定ヲサレテ居ルノデアリマシテ、只今御話ノ如キ應召ノ者全部ニ對シテ實行スルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、社會團體其他ノ團體ノ努力ニ依リマシテ、其心持ヲ十分ニ發揮致シタイト云フコトニ考ヘテ居リマシテ、此點ニ付キマシテハ、既ニ内務當局ヨリモ此心持ガ普及致シマスルヤウニ、ソレノ手續ヲ執ラレテ居ルヤウニ聞及ンデ居リマス、私カラ御答申上ゲルノハソレダケデアリマス

次テ本案ハ政府提出軍機保護法改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ八月七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案及二一、宮脇長吉君外一名提出恩給法中改正法律案ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(委員長報告ハ本項第二一參看)

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ヲ可決奏上シ八月十四日法律第七十號ヲ以テ公布セラル

二三 裁判所構成法中改正法律案(貴族院送付)

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第二十五條ノ二中「豫審判事」ヲ「判事」ニ改ム

第三十一條第五項中「第二十五條」ヲ「第二十五條及第二十五條ノ二」ニ改ム

第七十四條ノ二 大審院長年齢六十五年其ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齢六十三年ニ達シタル場合ニ其ノ時期カ十二月一日ヨリ五月三十一日マテノ間ナルトキハ五月三十一日ヨリ

十一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十日ニ於テ各々退職トス但シ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テ三年以内ノ期間ヲ定メ仍在職セシムヘキモノト決議シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職トス

第八十條ノ二 檢事總長年齢六十五年其ノ他ノ檢事ノ職ニ在ル者年齢六十三年ニ達シタル場合ニ其ノ時期カ十二月一日ヨリ五月三十一日マテノ間ナルトキハ五月三十一日ヨリ

一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十日ニ於テ各々退職トス但シ司法大臣ハ三年以内ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

大審院大審院檢事局控訴院及控訴院檢事局ノ書記課ニ書記長ヲ置ク地方裁判所及地方裁判所檢事局ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク

附 則

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 三三二



本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三三二

二四 大正十年法律第百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十年法律第百二號中左ノ通改正ス

第一項中「裁判所構成法第七十四條ノ二又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齢」ヲ「年齢六十年」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二五 刑事訴訟法中改正法律案(貴族院送付)

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第四百四十條中「原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ」ノ下ニ「第四百四十八條ノ二ノ場合

ヲ除クノ外」ヲ加フ

第四百四十三條中「上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ」ノ下ニ「第四百四十八條ノ二ノ場合ヲ除クノ外」ヲ加フ

第四百四十八條中「第四百四十九條及第四百五十條」ヲ「第四百四十八條ノ二乃至第四百五十條」ニ改ム

第四百四十八條ノ二 上告裁判所事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反アリト認メ又ハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムル場合ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラストスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

前項ノ差戻又ハ移送アリタル事件ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ハ其ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス

第四百五十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト爲ス上告ノ趣意ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

附則

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 三三三



本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右二三、二四及二五ノ三案ハ孰レモ昭和十二年七月二十五日貴族院ニ提出ス同院ハ同月三十日各原案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月三十一日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ久山司法政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

曩ニ議長カラ御述ニナリマシタ通り、司法大臣昨晩カラ病氣ノ爲ニ引籠中デアリマシテ、甚ダ遺憾デアリマスガ、私カラ提案理由ノ説明ヲ致シマス、裁判所構成法中改正法律案デアリマスガ、本改正案ハ三箇ノ事項ニ付テ改正セントスルモノデアリマシテ、第一點ハ地方裁判所ノ判事ノ代理ノ範圍ヲ擴張セントスルモノデアリマス、現行規定ニ依リマス、豫審判事ニ付テ一定ノ場合ニ控訴院長ガ其管轄區域内ニ於テ適當ニ代理ヲ命ズルコトヲ得ルヤウニナツテ居リマスルガ、裁判事務ノ現狀ニ鑑ミマシテ、右代理ノ範圍ヲ雷ニ豫審事務ニ止ラズ、一般ノ裁判事務ニ付テ擴張致シマシテ、由テ以テ事件ノ處理ノ適正迅速ヲ圖ルコトヲ必要ト考ヘタノデアリマス、第二點ハ判檢事ノ定年ニ因ル退職ノ時期ヲ調整致シマシテ、年二回定期ニ纏メテ退職セシメントスルモノデアリマス、現行ノ規定ニ依リマス、判檢事ガ定年ニ達シタル時ハ、其時其時ニ於テ個々別々ニ退職スルコトニナツテ居リマスカラ、人事行政ノ支障ガ少クナイノデアリマス、此支障ヲ除ク爲ニ本改正ヲ爲サントスル次第デアリマス、第三點ハ控訴院檢事局ノ監督書記ヲ奏任タル書記長ニ昇格セシメントスルモノデアリマシテ、之ニ依リ控訴院ノ書記長ト均衡ヲ得シムルト同時ニ、裁判所書記ノ向上ノ途ヲ開カントスル趣旨デアリマス、次ハ大正十年法律第百二號中改正法律案デアリマスルガ、現行法ニ依リマス、本法ノ施行致サレマシタ大正十年六月一日當時、判事又ハ檢事ノ本官ニ在職シ、爾後引續キ判事又ハ檢事トシテ在職スル者ガ、定限年齢ニ達シタ後、退官、退職スル場合ニ於キマシテ、其恩給年額ハ文官ノ普通恩給年額ニ百分ノ三十ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ給與セラレテ居ルノデアリマスガ、右年齢ニ

達スル以前ニ於キマシテ退官又ハ退職致シマシタ者ハ、前述ノ増加恩給ヲ支給セラレナイノデアリマシテ、隨テ右ノ資格ヲ有スル判事、檢事ニシテ、定限年齢ニ達スル以前ニ退官又ハ退職致シ、後進ニ途ヲ開クト云フコトモ出來ナイヤウナ状態ニナツタ譯デアリマス、仍テ茲ニ本法ニ定ムル年齢ヲ低下致シマシテ滿六十年ト爲シ、前述ノ資格ヲ有スル判事、檢事ガ其ノ年齢ニ達シマシタ後、退官、退職致シマシタ場合ニ於キマシテハ、恩給年額ハ文官ノ普通恩給年額ニ百分ノ三十ヲ加ヘタルモノヲ給與スルコトニ致シマシテ、比較的高齡者ノ勇退ヲ圓滑ニシ、新進有爲ノ者ノ進出ヲ容易ナラシメ、以テ司法部内人事ノ刷新ヲ圖ラントスルモノデアリマス、次ハ刑事訴訟法中改正法律案デアリマスガ、大正十三年一月一日カラ施行ニナリマシタ現行刑事訴訟法ニ於キマシテハ、上告ノ理由ト致シマシテ、法令違反ノ外一定ノ場合ニハ、事實ノ認定及ビ刑ノ量定ニ付キマシテモ、亦之ヲ爭フコトガ出來ルコトニナツタノデアリマス、而シテ事實ノ誤認又ハ刑ノ量定不當ヲ上告ノ理由トシタ場合、竝ニ事實ノ認定ニ影響ヲ及ボスベキ法令ノ違反ヲ上告ノ理由トシタ場合ニ於キマシテハ、上告裁判所自ラ事實ノ審理ヲ爲スベキモノト致シテ居ルノデアリマス、所ガ上告裁判所ニ於ケル事實審理ノ狀況ヲ見マスルト、上告裁判所ノ所在地ト被告人ノ住所ト、又ハ犯罪地トガ相隔ツルコト遠イガ爲ニ、證人、鑑定人等ノ訊問ノ爲メ上告裁判所ニ其出頭ヲ求メルニ致シマシテモ、亦上告裁判所ガ現場ニ出張シテ檢證ヲ爲スニ致シマシテモ、不便ナ場合ガ屢、生ズルノデアリマス、又事實ノ誤認及ビ刑ノ量定不當ヲ理由トスル上告ニアリマシテハ、其上告理由ガ頗ル多岐多様ニ互リマシテ、上告趣意書ニハ幾多ノ事實問題ガ巨細ニ掲ゲラレマシテ、浩瀚ナル上告趣意書ガ差出サレル傾向ニナツテ居ルノデアリマス、而シテ刑事訴訟法上、上告裁判所ノ判決書ニハ、上告ノ趣意及ビ重要ナル答辯ノ要旨ヲ全部記載セネバナラヌコトニナツテ居リマス、上告裁判所ト致シマシテハ、判決ヲ爲スニ當リマシテ、誠ニ必要以上ノ力ヲ用ヒテ居ルヤウナ實情デアリマス、仍テ茲ニ裁判所竝ニ訴訟關係人ノ便益ヲ考慮致シマシテ、上告裁判所ニ於ケル事實審理ノ制度ニ改正ヲ加ヘンガ爲ニ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、即チ改正ノ第一點ハ、從來上告裁判所ガ自ラ



事實ノ審理ヲ爲サナケレバナラヌ場合ニ於キマシテモ、上告裁判所自ラ事實ノ審理ヲ爲スコトガ適當デナイト思料シタ場合ニハ、原判決ヲ破棄シテ事件ヲ元ノ裁判所ニ差戻スカ、又ハ元ノ裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス、改正ノ第一點ハ、上告裁判所ガ判決書ヲ作成スルニ當リマシテ、事實問題ニ關スル上告ノ趣意ハ、其一部ヲ判決書ニ記載スルコトヲ省略スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス、以上三案共御承知ノ通り既ニ前議會ニ於キマシテ、本院ニ於キマシテ、委員會、本會議共通過ヲ致シタ法案デアリマス、何卒慎重御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ御願申上ゲル次第デアリマス

平川松太郎君及河野一郎君質疑ヲ爲シ馬場内務大臣及久山司法政務次官應答ス

平川松太郎君ノ質疑

私ハ只今提案ニナリマシタ法案ニ關聯致シマシテ、内務大臣並ニ司法當局者ニ人権蹂躪ニ關スル質問ヲ試ミタイト考ヘマス、近頃全國ニ互ッテ人権蹂躪ガ行ハレテ居ルノデアリマス、殊ニ神奈川縣下ニ於キマシテハ、其最モ甚シキモノガアルノデアリマス、故ニ私ハ主トシテ此神奈川縣下ニ於ケル拷問事件、人権蹂躪ノ件ニ付キマシテ質問ヲ試ミタイト考ヘルノデアリマス、神奈川縣ハ齋藤内閣當時デアリマシタガ、時ノ警察部長相川君ガ赴任ヲ致シマスルヤ、其部下デアリマシタ所ノ、曾テ警視廳ノ警部、其當時ハ原宿カノ警察署長ヲ勤メテ居ッタル加藤道雄ト云フ人ヲ拔擢致シマシテ警視ト爲シ、神奈川縣ノ刑事課長ニ据エタノデアリマス、此刑事課長赴任以來、神奈川縣ニ於キマシテハ有ユル犯罪ニ、其捜査ノ任ニ當リマシテ、悉ク人権蹂躪ヲ行ッタノデアリマス、即チ加藤刑事課長ガ縣ノ刑事數名ヲ引連レマシテ、何レノ犯罪ニモ捜査ノ任ニ當ッタノデアリマス、是ヨリ以來神奈川縣ニ於キマシテハ、選舉違反ハ勿論デアリマス、選舉違反以外ノ犯罪、或ハ瀆職罪若クハ放火事件、斯ノ如キ犯罪ニ人権蹂躪ノ伴ハナカッタ所ノ檢舉ハ一ツモナカッタノデアリマス、最近ノ問題ハ神奈川縣ノ放火事件デアリマス、此放火事件ハ神奈川縣松田町ヲ中心ト致シマシタ所ノ各村落ニ互リマシテ、昭和七八年ノ頃ニ火災ガ頻々トシテ發生シタノデアリマス、其當時ハ失火罪トシテ檢舉セラレタ者モアリマシタガ、或ハ放火デハナイカト云フ嫌疑ノ下ニ、保險外交員、即チ保險「ブローカー」數名ヲ檢舉シタノデアリマス、此數名ヲ檢舉致シマシテ、數名ニ止メテ他ハ擴大シナイト云フ方針デアッタノデアリマス、時ノ檢事正ト時ノ主任檢事、奥田檢事トノ意見ガ相違致シマシテ、遂ニ奥田檢事ハ浦和地方裁判所ニ轉任ヲ致シマシタ、其後ニ神奈川縣ノ警察部刑事課ヲ總動員致シマシテ、サウシテ犯罪捜査ノ任ニ當ラシメタ、其結果起訴セラレタ所ノ人員ガ百八十三名デアリマス、百八十三名中二名ハ獄中ニ於テ拷問ニ堪ヘ得ズ、遂ニ悲惨ナル最期ヲ遂ゲタノデアリマス、サウシテ残り百八十一名ノ中デ九十名ハ、本年ノ六月ニ至リマシテ豫審免訴ノ決定ヲ與ヘラレタノデアリマス、残り九十一名ガ有罪ナリトシテ公判ニ付スルト云フ決定ニ相成ッタノデアリマス、此九十名ガ豫審免訴ニナッタ、此事實ニ徴シマシテモ、如何ニ司法警察官若クハ檢事ガ人権蹂躪ヲシタカト云フコトニ付キマシテハ、窺ヒ知ルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、又其人権蹂躪ノ事實ニ付キマシテハ、政友會ヨリモ調査隊ヲ派遣セラレテ調査ヲ爲シ、民政黨ヨリモ一松代議士並ニ不肖ガ此任ニ當リマシテ、人権蹂躪ノ事實ヲ調査シタノデアリマス、其調査ノ結果ハ實ニ苛酷ナル拷問ヲ行ヒ、昭和ノ聖代ニ於テアルマジキ行爲ヲ敢テシタコトガ明瞭ニナッタノデアリマス、此拷問ノ事實ニ付キマシテハ、色々ノ拷問ノ方法ガアッタノデアリマス、或ハ椅子ヲ横タヘマシテ、椅子ノ上ニ正座セシメテ、サウシテ膝ノ上ヲ毆ル、若クハ煙草責メト稱シテ、煙草ノ煙ヲ鼻ノ中カラ吹込ム、火烙リノ刑ト稱シマシテ、前ニ火鉢ヲ置キマシテ、ソレニ猛火ヲ起シテ、其前ニ置イテ之ヲ責メル、萬歳責メト稱シテ、手ヲ舉ゲシメテ其脇ヲクスグル、此萬歳責ニハ四ツノ種類ガアルノデアリマス、斯様ナ方法ヲ行ヒ、警察署ニ何ノ權限モナクシテ留置スルコト一箇月、若クハ三箇月ノ間各警察署ニ留置致シマシテ、サウシテ警察官ガ自白ヲ強要シ、自白ヲ致シマスルヤ、之ヲ檢事局ニ送り刑務所ニ收容致シマシタ、其收容致シマシタ

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 三三七



ノガ一昨年ノ十月頃デアッタノデアリマス、一昨年ノ十月頃カラ本年ノ五月、六月マデ刑務所ニ留メ置イタノデアリマス、斯ノ如キ長イ期間刑務所ニ留メ置キ、長イ間警察署ニ留置致シマシテ、有ユル拷問ヲ行フタ、此拷問ノ件ニ付キマシテハ、陪審法ノ委員會ニ於テ詳細ニ私ハ説明ヲ致シマシテ、サウシテ政府當局者ノ答辯ヲ得ル考デアリマスルガ、今日ハ簡單ニ其一ニ御紹介致シマシテ、諸君ノ御批判ヲ請ヒタイト考ヘルノデアリマス、其一ツハ私ニ參ツタ所ノ手紙デアリマス、私ハ此手紙竝ニ上申書ヲ、殆ド三日若クハ五日ニ互ツテ質問スルダケノ材料ヲ持ッテ居ルノデアリマス、其一ニ朗讀致シマスル機會ヲ御與ヘ下サランコトヲ御願シタイト考ヘマス、是ハ斯ウ云フ書面デゴザイマス、同月二十一日午前九時半ヨリ午後四時マデ四回ニ互ル大拷問ニ遭ヒ、兩手ヲ十文字ニ縛リ後ロニ廻シ、口ニ手拭ヲ振り噛マセ、一名ニテ口ノ割ケル程縛リ、海老責ノ刑ト稱シ、二名ニテ脊筋ノ折レル程ゴウツカレ(此間二時間位)ヘトノナリ、一時休ミ、又々二名ニテ脇ノ下ヲ拳骨デ突キ、頭ヲ殿リ、鞭ニテ蹴リ、小生ヲ襦袢一枚ニ致シ、小生ニ於テハ何事モ知ラザルコト故知ラヌト申スト、右ノ如キ故、小生實ニ驚キマシタガ、小生ハ何事モ知ラザルコト故知ラヌト申シマス、又打ツ蹴ル突ク、頭ハハツ頭芋ノヤウニナリ、耳ハ腫レ塞ガリ、左ノ齒ヲ二枚折ラレ、右ノ下犬齒一枚ユラユラトナリ、未ダ飯ヲ噛ムコトモ出來ズ、實ニ弱リ居リマス、第三回目、午後二時又々同類デ私ヲ調ベタノデアリマス、其間ハ中略致シマスルガ、是ハ豫審免訴トナツテ歸タノデアリマス、「小生ガ歸リテ見マス、店モ廢業サセラレ、家族七名ハ路頭ニ迷ヒ、次男モ中學ヲ退學致シ、子供ノ縁談モ破壊サレ、何トモ申シヤウモアリマセヌ、小生ニ於テハ未ダ半身不隨ノ有様ニテ、營業モ思フヤウニ出來ズ、立テバ足ガムクミ實ニ弱テ居リマス」是ハ澤山參リマシタ所ノ書面ノ一通デアリマス、斯様ナ方法ヲ以テ拷問ヲ致シマシテ、現ニ獄中ニ於テ自殺ヲ企テタ者數名アルノデアリマス、所ガ一時ハ自殺セント致シマシタガ、若シモ此儘デ自殺致シマスルト、子孫ニ汚名ヲ遺サナケレバナラナイ、ドウシテモ此無實ノ罪ヲ晴シテ死ナナケレバナラヌト心ヲセキ立テマシテ、自殺ヲ思ヒ止ラタト云フヤウナ人モアルノデアリマス、意思ノ弱イ人ハ其苛酷ナ拷問ニ堪ヘ得ズシテ、

先程申ス如ク二名獄中ニ於テ自殺ヲ遂ゲタノデアリマス、是等ノ事實ニ依リマシテモ、如何ニ拷問ガ苛酷デアッタカト云フコトハ明瞭スルト考ヘルノデアリマス、又昨年ノ選舉ニ於キマシテモ同ジヤウナ筆法デ拷問ヲシタノデアリマス、此處ニ昨年ノ選舉ノ拷問事件ニ付キマシテ、拷問ヲ受ケマシタ所ノ一被告ガ圖ヲ以テ示シマシテ、此圖ヲ私ニ送ッテ來タノデアリマス、此圖解ニ依リマシテモ、只今申ス通りノ拷問ノ方法ヲ圖解ニ示シテ居リマス、是ハ速記録ニ留メテ貫フ譯ニハ行キマセヌカラ、議長ヲ通ジテ此圖解ヲ政府ニ提出シタイト考ヘマス、諸君、凡ソ革命ノ歴史ヲ見マスノニ、或ハ檢舉ノ任ニ當ル所ノ人ガ人權蹂躪ヲ敢テシ、裁判ノ任ニ當ル所ノ者ガ不公平ナ裁判ヲ行ヒ、是ガ革命ノ端緒ニナツテ居ルノデアリマス、若シモ神奈川縣ニ於ケル所ノ此拷問事件ヲ、此儘ニ看過シテ置イタ場合ニ於キマシテハ、怨嗟ノ聲ハ澎湃トシテ起リマシテ、遂ニ政府ハ此怨嗟ノ聲ニ殆ド措ク所ヲ知ラナイヤウナ有様ニナリハシナイカト思フノデアリマス、内務大臣ハ此神奈川縣ノ拷問事件ノミナラズ、全國ニ互ル所ノ拷問事件ニ付テ、如何ナル對策ヲ講ゼラレントスルノデアルカ、此點ニ付テ詳細ナル御答辯ヲ得タイト考ヘルノデアリマス、聞ク所ニ依リマスレバ、先般陪審法ノ改正法案ガ樞密院ニ諮詢セラレタ際ニ於キマシテ、樞密顧問官ヨリ全國ニ互ル所ノ拷問事實ヲ摘發セラレテ、將來注意シナケレバナラヌト云フコトヲ、附帶條件トシテ決議セラレタト云フコトヲ聞イテ居リマス、是ハ果シテ附帶條件デアッタカドウカ知リマセヌケレドモ要スルニ樞密院ニ於テ人權蹂躪ノ注意ガアッタト云フコトハ、隠レモナイ事實デアルト考ヘルノデアリマス、畏クモ 天皇陛下御親臨ノ御前ニ於テ、斯ノ如キ注意ヲ受ケナガラ、内務大臣竝ニ司法大臣ノミナラズ、政府ハ恬然トシテ之ヲ顧ミナイノデアリマスルカ、將來如何ナル方針ヲ以テ人權蹂躪ヲ杜絶セラレントスルモノデアルカ、此點ニ付キマシテドウカ明瞭ナル御答辯ヲ得マシテ、全國民ヲシテ安心ノ出來ルヤウニ御願ヲシタイノデアリマス、又豫審免訴トナリマシタ所ノ九十名、此九十名ニ付キマシテハ、警察署ニ於テ拷問ノ結果虛偽ノ事實ヲ自白シタト云フ點ニ付テ、重大ナル過失アリトシテ、刑事補償法ニ依ル所ノ損害ノ賠償モ出來ナイト云フヤウナ悲惨ナ狀況ニアルノデアリマス、二年若クハ三



年ノ間罪ナクシテ刑務所ニ勾留セラレテ、財産上、身體上、精神上非常ナル損害ヲ受ケテ、是ガ賠償ノ請求ガ出來ナイト云フコトニナリマシテハ、人心ノ惡化是ヨリ甚シキモノハナイト考ヘルノデアリマス、司法當局者ハ刑事補償法ヲ改正致シマシテ、斯ノ如キ者ニ對シマシテハ、特ニ補償ヲスルト云フ特例ヲ設ケラレナイノデアリマスルカ、此點ニ付テ司法當局者ノ御説明ヲ乞ヒタイト考ヘマス質問ハ簡單デアリマスルガ、ドウカ之ニ對シテ政府當局者ハ明瞭ナル御答辯アラントヲ要求スル者デアリマス

馬場内務大臣ノ應答

警察官ノ人權蹂躪問題ヲ聞キマスコトハ、私トシテ洵ニ遺憾ニ存ジマス、今日ノ聖代ニ於キマシテ、苟モ拷問ノ如キ事實ガアリマスルコトハ、洵ニ殘念千萬デアリマス、私ハ之ニ對シテハ能ク事實ヲ調べマシテ、決シテ何等曲庇スルコトナク、嚴正適切ナル處置ヲ執リタイト考ヘテ居リマス、併ナガラ是ハ單ニ處罰ヲ嚴正ニスルトカ云フコトダケデハ、此問題ノ根ヲ絶ヤスコトハ到底出來ナイト思ヒマス、ヤハリ將來警察官ノ修養、訓練、指導、監督ニ付テ、更ニ一層私共ガ十分ニ力ヲ入レナケレバナラヌト思ヒマス、此點ニ付テ内務當局トシテハ目下篤ト研究ヲ致シテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

久山司法政務次官ノ應答

私ハ曾テ此壇上ニ於キマシテ人權蹂躪ノ非ヲ糾彈致シタ記憶ヲ持ッテ居リマス、本日ハ立場ヲ變ヘマシテ、同ジ此壇上ニ立ッテ平川君ニ御答申上ケルコトハ、洵ニ思出ノ深イモノガアルノデアリマス、只今御述ニナリマシタ神奈川縣ニ於キマスル集團放火事件ニ對シマシテハ、司法當局ト致シマシテモ、洵ニ遺憾ナ出來事ト致シマシテ、十二分ノ注意ヲ拂ッテ居リマス、尙ホ全國各地ニ起リマスル人權蹂躪ノ聲ニ對シマシテモ、決シテ之ヲ閑却致シテ居ル者デハナイノデアリマス、集團放火事件ノ被疑者ガ、多數豫審免訴ニナリマシタコトニ付キマシテハ、其原

因竝ニ事情等ニ對シマシテ、目下大審院檢事局ノ審査部ニ於キマシテ熱心ニ調査ヲ致シテ居リマス、其審査ノ結果ヲ俟チマシテ、適當ナル處置ヲ講ズルコトガ至當デアラウト、斯様ニ私ハ考ヘテ居リマス、尙ホ放火事件ノ被疑者ノ中ニ、若シ本人ノ自白ガ拷問ノ結果餘儀ナク致サレマシタモノガアリマシタ場合ニハ、當該檢事局ノ審査部ノ檢事ニ於キマシテ、其事實ガハッキリ現ハレマシタ時ハ、現行刑事補償法ノ下ニ於キマシテモ、賠償ニ與ルコトガ出來ルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ尙ホ將來ノ人權蹂躪ノ根絶ノ對策ト致シマシテハ、昨年來司法部ト致シマシテハ、關係方面ニ屢ニ嚴重ナル戒告ヲ發シマシテ、自肅自戒ヲ促シテ居リマス、又司法警察官吏ノ教養訓練ニ對シマシテモ、從來ヨリ一層ノ努力ヲ拂ッテ居ル譯デアリマシテ、近來相當其成績ノ見ルベキモノアルコトヲ喜ンデ居ル次第デアリマス、併ナガラ地方ニ於キマシテ犯罪ノ起キマスル原因、手段、犯罪捜査ノ方法等ニ付キマシテハ、之ヲ從前ノ取調ノ手段ニ委セテ置クダケデハ、到底此人權蹂躪ノ根絶ヲ期スルコトハ出來ナイト思ヒマスノデ將來ハ科學的ノ捜査ノ方法ニ依リマシテ、今マデノ缺陷ヲ補ッテ行ク、斯ウ云フコトヲ考ヘマシテ、來ルベキ議會ニ是等ニ對スル豫算ヲ提出致シタイト、目下努力ヲ致シテ居ル譯デアリマス、私ハ重ネテ申上ゲマスルガ、人權蹂躪ノ事實ノアリマシタコトニ對シテ、吾々決シテ之ヲ否認スルモノデアリマセヌ、私司法省ニ職ヲ奉ジマスル以上ハ、洵ニ微力デアリマスルガ私ノ全努力ヲ傾注致シテ、將來重ネテ皆様方カラ斯ノ如キ問題ニ對シテ御非難或ハ御指摘ヲ戴クコトノナイヤウニ、十分ナル努力ヲ拂ヒタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

河野一郎君ノ質疑

私ハ只今提案ニナッテ居リマスル司法省關係ノ議案審議ニ當リマシテ、現内閣ガ現下ノ我が國家ノ情勢ニ鑑ミマシテ、特ニ國論ヲ統一シ、舉國一致ヲ以テ國難打開ニ當ラナケレバナリマセヌ時ニ當ッテ、最モ吾々トシテ憂慮ニ堪ヘマセヌ一二ノ具體的ノ實例ヲ舉ゲマシテ、司法當局ハ現在司法ノ威信ガ國民ノ間ニドノ程度ニ傷付ケラレテ居ルカ、又今議會ヲ通ジテ司法事務刷新、司



法威信ノ確保ト云フ見地カラ提案セラレテ居リマスル是等ノ法案ガ、假令本院ヲ通過致シ、法律ト相成リマシタ所デ、其程度ノモノデ果シテ司法ノ威信ガ回復スルコトガ出来ルヤ否ヤト云フコトニ、深ク疑問ヲ懷キマスルガ故ニ、此機會ニ於テ、時間ノアリマセヌコトヲ甚ダ遺憾ト致シマスルガ、極ク簡潔ニ實例ヲ申上ゲテ、司法當局ノ明快ナル御答辯ヲ要求致シマスルト共ニ、特ニ御出席ノ軍當局其他内閣諸公ノ是等ノ點ニ付テ十分ニ御反省ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、先づ第一ニ申上ゲタイノハ、只今先輩平川氏ヨリ此壇上ニ於テ述ベラレマシタル神奈川縣下ノ放火團事件、此事件ニ關聯致シマシテ、其被疑者、被告等ガ現在如何ナル心境ニアレカト云フコトヲ、率直ニ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、吾々ハ先日政友會本部ヨリ特派セラレマシタ同事件ノ調査班ノ方々ト共ニ、此放火團ニ關係ノアリマス被告百數十名ヲ松田町ニ集メマシテ、一々ノ被告ニ就イテ取調ベノ狀況ヲ伺ッタノデアリマス、所ガ驚クベキコトニハ、其中ノ多數ノ者ガ人權蹂躪ノ事實ヲ吾々ニ話ス前ニ、此席ニ於テ申上ゲルコトハ甚ダドウカト考ヘマスケレドモ、吾々ノ心境トシテハ政治ガ有難クナイ、國家ガ有難クナイ、一生懸命ニ働イテ、税金ヲ納メテ、忠良ナル臣民トシテ今日マデ努メテ來タモノガ、何ガ何ダカ譯ガ分ラズニ警察ニ連レテ行カレ、毆ラレ、一年モ二年モ監獄ニ入レラレテ、サウシテ出テ來ルヤウナ世ノ中ガ何處ガ一體有難イノダ、今更皆様ガ人權蹂躪ノ調査ニオ出ニナツテモ有難クアリマセヌ、吾々ハ名譽ヲ蹂躪ラレ、家庭ヲ蹂躪ラレ、既ニ郷ニ歸ツテモ人カラハ放火團ト指ヲ指サレル、是程慘虐ナ目ニ遭ツテ、世ノ中ガ一體何ガ有難イカ、極端ニ申セバ、當日彼等ガ申シマシタ言葉ヲ其儘ニ申シマスナラバ、日本ノ國ガ有難クナイト申スノデアリマス、此心境ニアリマスル所ノ臣民、此心境ニアリマス所ノ國民ガ、九千万ノ國民ノ中ニアルト云フコトヲ政府ハ御認識願ヒタイ、而モ其國民ガ政府爲政者ノ暴政ノ爲ニ彼等ガ其心境ニナツテ居ル、生レナガラニシテ決シテ國家ヲ呪ツテ居ルモノデモナイ、政治ヲ呪ウテ居ルモノデモナイ、政府當局ノ暴政ノ結果ガ、斯ノ如クニシテ忠良ナル臣民ヲシテ、日ノ丸ノ旗ハ立テマセヌトマデ言明サセルニ至ツテハ、其責任ハ果シテ何人ガ負フベキデアリマセウカ、私ハ内務大臣ガ只今此席ニ於テ

答辯セラレマシタコトニ甚ダ不滿ヲ持チマス、何故ナレバ此演壇デ述ベラレタコトト、内務大臣ガ今日マデヤラレマシタコトト、果シテ言行一致シテ居リマセウカ、平川先輩ガ述ベラレマシタ通り、神奈川縣下ニ於キマスル所ノ、拷問事件ノ元祖トモ申スベキ所ノ、最モ惡質ナ官吏ハ相川現宮崎縣知事デアリマス、此相川現宮崎縣知事ガ、神奈川縣下ニ於ケル斯ノ如キ暴虐ナル拷問事件ノ元祖デアリマス、其相川君ガ一度内務本省カラ朝鮮ニ左遷セラレテ居ッタモノヲ、何ノ必要ガアツテ宮崎縣ニ榮轉サセタノデアリマス、認識ガ足ラナカッタト云フナラバ、直チニ御考ニナツテ然ルベシト私ハ考ヘル、其他神奈川縣下ニ於テ、吾々ガ數年來屢、本院ヲ通ジテ人權蹂躪ノ事實ヲ申上ゲマシテモ、何レモ處罰ヲ受ケタル者ハ警部、警部補、巡查ノ類デアリマス、未ダ課長、部長、知事ニ至ツテハ一人モ處分ヲ受ケタル者ハ無イノデアリマス、凡ソ眞ニ政府ガ人權蹂躪ヲ根絶ササウトスルナラバ、何故ニ其責任ノ衝ニ在ル所ノ知事ヲ處分セナイノデアリマス、警察部長ヲ何故處分シナイノデアリマス、課長ヲ何故處分セヌノデアリマス、剩ヘ先程平川氏ニ依ツテ指摘セラレマシタ加藤前刑事課長ノ如キハ、神奈川縣下ニ於テ縣廳ノ幹旋ニ依ツテ東京電氣株式會社ニ相當ノ高給ヲ食ンデ居ルデハアリマセヌカ、人權蹂躪ヲヤツタ警察官ガ辭表ヲ出ス、マア辭表ヲ出シテ置ケバ何處カニ世話ヲシテヤルカラト云フコトデ、惡イ事ヲシタ者ガ救ハレルト云フコトデハ、ドウシテ一體人權蹂躪ノ事實ガ根絶スルト御考ニナルカ、私ハ此處ニ多數ノ被告ノ上申書ヲ持參致シテ居リマス、是等ハ何レモ涙ナクシテハ朗讀ノ出来ナイ各人ノ書イタ上申書デアリマス、是ハ時間ガ許シマセヌノデ一々朗讀スルコトヲ省キマシテ、此中ノ最モ皆様ニ御一讀ヲ願ヒタイ、又全國民ニ御一讀ヲ願ヒタイ部分ヲ、議長ノ御許シテ得テ速記録ニ載セタイト考ヘマス、議長ノ御許可ヲ願ヒマス、尙ホ此機會ニ時間ヲ省略スル意味ニ於キマシテ、本上申書ノ中ニ書キ記サレテ居リマスル所ノ拷問ノ事實ヲ簡單ニ申上ゲテ見マス、大體拷問ノ種類ト致シマシテハ萬歳責、撲責、椅子責、煙草責、火責、竹刀責、朝鮮責、腹揉責、首締、手足ヲ延バシテ反對ニ捻ル、是ハ名前ガ分リマセヌ、其他鉛筆責デアリマスルトカ、火烙リ責デアリマスルトカ色々アリマス、其中デ特ニ此上申書ノ中ニ書キ記シテ



アリマスル所ノモノデ、繪ニ描ケルモノヲ此處ニ持ッテ參リマシタカラ、御參考マデニ御一覽ヲ願ヒタイト思ヒマス(圖ヲ示ス)是ガ先程平川氏ニ依ッテ示サレマシタ椅子ノ上ニ坐ラセテ、煙草デ以テ煙スヤツデアリマス、(圖ヲ示ス)是ガ火責ノ中ノ一例デアリマス、大體兩方カラ警察官ガ腕ト足ヲ押ヘテ、全部猿轡ヲ嵌メマス、サウシテ手ニ紙片ヲ持タセテ、ソレニ火ヲ點ケテ責メルノデアリマス、(圖ヲ示ス)是ガ被告ノ申シマスルニハ、一番辛イト申スヤツデアリマス、後ロニツラシテ、サウシテ此腹ヲゴリノ揉ミ上ゲルサウデアリマス、是ガ刑務所カラ一年半ニシテ出テ參ッテモ、尙ホ腹ノ工合ガ惡イト云フヤツデアリマス、(圖ヲ示ス)是ハ椅子責ノ一種デ中腰ニシテ椅子ヲ持タセテ、是デ二時間デモ三時間デモ立タセテ置クサウデアリマス、マダ澤山アリマスガ、時間ガアリマセヌカラ：：是ハ此儘政府ニ提出シテ、私ノ此機會ニ質問致シテ置キタイコトハ、此處ニアリマスル上申書ヲ議長ノ許可ヲ得テ速記録ニ留メテ、私ハ各被告カラ斯ノ如クニ心情ヲ懇ヘラレテ、政府ニ御質シ、テ吳レト云フコトヲ申込マレテ居ルモノデアリマス、私ハ此事實ノ有無ヲ知リマセヌ、知リマセヌガ、本人ノ血書デアリマス、血ト涙ヲ以テ綴ツタ書類デアリマス、之ヲ速記録ニ留メテ全國ニ速記録ヲ以テ發表致スモノデアリマス、政府ハ此事實ニ付テ速ニ調査ヲセラレ、此内容ノ眞偽ヲ天下ニ發表スベキデアルト考ヘルノデアリマス、若シモ此事實ニシテ眞ナラバ、一日モ速ニ斯ノ如キ官吏ハ斷乎トシテ處分スベキデアルト思フノデアリマス、而シテ此機會ニ特ニ申上ゲテ置キタイコトハ、前七十議會ニ於キマシテ、私ハ百二十餘通ノ上申書ヲ當時ノ鹽野司法大臣、又ハ河原田内務大臣ニ提出致シマシテ、其實情ヲ調べテ、機宜ノ處置ヲ執レト云フコトヲ政府ニ迫ラタモノデアリマス、然ルニ政府ハ當時議會ニ於テハ何カト巧イコトヲ申シテ居リマシタケレドモ、今日マデ既ニ半歳ヲ經過致シマスルケレドモ、何等政府ガ活動シタ跡ヲ吾々ハ聞カナイノデアリマス、議會ニ唯吾々ガ提出スレバ、此書類ヲ其儘握潰シテ一時ヲ糊塗セントスル、政府ガ如何ニ此壇上ニ於キマシテ巧イコトヲ言ウテモ、是ハ吾々ハ信ヲ置クコトガ出來ナイ、本日私ハ此書類ヲ政府ニ預ケマスルガ故ニ、政府ハ此内容ニ付テ速ニ調査ヲ致シ、而シテ其非違アル官吏ニ對シテハ、斷乎タル處分ヲ

スル決心アリヤ否ヤト云フコトヲ、此壇上ヨリ、明確ニ御答辯アラシコトヲ御願致シマシテ、私ノ質問ヲ終リマス

馬場内務大臣ノ應答

篤ト事實ヲ調査致シマシテ、嚴正適切ナル處分ヲ致シマス

久山司法政務次官ノ應答

只今河野君カラ人權蹂躪ノ事實ニ對シマシテ、縷々御述ニナリマシタ點ハ、具ニ拜聽致シテ居リマス、サウ云フ事實ガアリトシマスレバ、相手ガ何デアラウトモ、司法省ニ限ッテ斷ジテ之ヲ黙過スルコトハ致シマセヌ、ドウカ具體的ノ事實ニ對シマシテハ、御遠慮ナク其事實ヲ御申告ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス

次テ三案ハ一括シテ政府提出陪審法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ八月五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月六日二三、二四及二五ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長牧野賤男君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

裁判所構成法中改正法律案外二件ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、此三案ハ貴族院送付ノ案デアリマシテ、結果ニ於テハ悉ク委員會ニ於テハ原案ニ賛成ヲ致シタノデアリマス、委員會ハ三日間ニ互ッテ質疑應答ヲ繼續致シタノデアリマスルガ、其大部分ハ人權蹂躪ニ關スル質問ガ多カッタノデアリマス、其他司法制度ノ革新、司法事務ノ運用、人事ノ刷新等、頗ル廣汎ニ互ッテ質問應答ガアリマシタガ、案其モノニ直接ノ關係ハ餘リナカッタノデアリマ



スカラ、極メテ適切有益ナル質問デアリマスルガ、此處デ御報告致スコトノ煩雜ヲ避ケマシテ、速記録ニ就テ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、裁判所構成法中改正法律案ハ改正ノ要點ガ三點アリマシテ、其第一點ハ、豫審判事ガ不足ヲ致ス地方ニ於キマシテハ、其控訴院管内ノ豫審判事ヲシテ代理ヲセシムルト云フ現行法ノ規定デアリマスガ、ソレデモ尚ホ手不足ヲ感ズルカラ、豫審判事ニアラザル他ノ判事ヲシテ代理セシムルコトヲ得ルト云フ改正デアリマス、第二點ハ、判檢事ノ定年ハ滿六十五若クハ滿六十三ニナツタ日ニ於テ退職ヲ致スコト云フコトニ現行法ハ相成ツテ居リマス、左様致シマスルト、途中ニ於テ屢、人事ノ異動ガ行ハレ、洵ニ煩雜デアリ、且又事務ノ統制ヲ缺クト云フ所カラ、改正案ハ十二月一日ヨリ五月三十一日マデノ間ニ定年ニ達スル時ハ、五月三十一日ニ定年ニ達シタモノト認メル、六月一日カラ十一月三十日マデノ間ニ定年ニ達スル時ハ、十一月三十日ニ定年ニ達シタモノト認メル、斯様ニ致シテ人事ノ異動ヲ複雑ニシナイヤウニ改正スルト云フノガ骨子デアリマス、判事モ檢事モ、條文ハ違ヒマスガ、要スルニ同一趣旨ノ改正デアリマス、第三點ハ、大審院ノ檢事局、控訴院ノ檢事局ニ書記長ト云フモノヲ置ク、今マデノ監督書記ト云フモノヲ書記長ニ致スコト云フコトト、地方裁判所ノ檢事局ニ監督書記ヲ置クト云フコトト、是ハ書記ノ向上ヲ圖ツテ事務ノ能率ヲ上ゲルト云フ趣意デアリマス、以上三點ニ付テ委員會デハ全員一致ヲ以テ贊成ヲ致シタノデアリマス、次ニ大正十年法律第百二號中改正法律案、是ハ判檢事ガ定年退職ヲ致シマス時ニ恩給加俸ヲ致スコトデアリマス、恩給加俸ヲ貰フノニハ、定年ニ達スルマデ在職シナケレバイヤウニ現行法ガナツテ居ルノデアリマス、ソレヲ運用上、定年ニ達シナクテモ滿六十年ニ達スレバ定年ニ達シタト同様ノ加俸ヲスル、即チ斯様ニ致シマシテ、勇退者ヲ多クシテ後進ノ爲ニ途ヲ開カウト云フ案デアリマスルカラ、之ニ向ツテモ委員會ハ滿場一致ヲ以テ贊成ヲ致シタ次第デアリマス、次ニ刑事訴訟法中改正法律案、是ハ從來ノ第二次判決ヲ破毀致シタ場合ハ、大審院自ラガ事實ヲ表シタ法律デアリマシタガ、色々ヤツテ見マスルト云フト、大審院自ラ破毀シタ場合ニ悉ク

事實審理ヲ致スコト云フコトニナルト、或ハ事務ノ延遲若クハ事情ノ不徹底等、却テ被告人ニ便利ナラズトスルコトヲ發見致シタノデアリマス、民間法曹ニ於テ此點ニ於テ研究ヲ致シマシテ、多年唱ヘテ參ッタコトガ司法省ノ同意スル所トナツテ、司法省ハ司法制度調査會ニ掛ケマシテ研究ノ結果、七十議會ニ同一ノ案ヲ提出致シタノデアリマスルガ、是ハ御承知ノ通り解散ニナツテ成立致セナカッタノデアリマス、今回ハソレト殆ンド全ク同一ノ案ヲ提出致シタノデアリマス、之ニ向ツテ委員會ハ全會一致贊成ヲ致シタノデアリマス、尚ホ此改正案ニハ吾々ガ唱ヘテナカッタコト、ガ一ツ加ツテ居ル、是ハ委員ノ中ニ於テモ頗ル不服ト考ヘテ居ル向モアルノデアリマスルガ、破毀、移送ガ極メテ必要デアツテ、且ツ急速ヲ要スル點カラ、餘リ多ク言論ノ上ニハ現レテ參ッタノデアリマセヌガ、大審院ガ判決ヲスル時ニ、被告人カラ出シタ上告理由ノ一部ヲ省略スルコトガ出來ルト云フ條文ヲ設ケタノデアリマス、是ハ裁判ノ性質上、對世間關係ニ於テ、ドウ云フコトノ主張ニ對シテ斯様ナ判決ガアツタカト云フコトガ明瞭ヲ缺ク疑ガアリ、之ニ對シテハ頗ル反對ノ在野法曹ノ聲ガアルノデアリマスルガ、司法省ノ前回ト云ヒ、今回モ亦、全ク分ラヌヤウニ省略ヲ致スノデハナイ、唯一部分ダケヲ省略致スノデアルト云フ辯明ヲ信ジマシテ、委員會ニ於テハ是モ承認致シタ次第デアリマス、斯様ニ致シマシテ、以上三案ハ極メテ有益適切ナル質問應答ガアリマシタガ、是ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願フコトトシテ、結果ニ於テハ全部異議ナク原案ヲ承認致シタ次第デアリマス、右御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決奏上シ九月一日二三ハ法律第八十二號ヲ以テ八月十四日二四ハ法律第六十九號、二五ハ法律第七十一號ヲ以テ公布セラル



二六 通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律案

遞信省及遞信大臣ノ管理ニ屬スル官署ニ於テ取扱フ簡易生命保險及郵便年金ノ事務ニ要スル經費ハ通信事業特別會計ノ所屬トス

簡易生命保險特別會計及郵便年金特別會計ハ前項ニ規定スル經費ニ充ツル爲毎年度通信事業特別會計ニ繰入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル繰入金ハ通信事業特別會計業務勘定ノ歳入トシ第一項ニ規定スル經費ハ同勘定ノ歳出トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十二年七月三十日本院ニ提出ス同月三十一日本案ノ第一讀會ヲ開キ中村大藏參與官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、保健社會省ヲ設置セラル、コトト相成リマ

シタコトト伴ヒ、簡易生命保險及郵便年金ノ兩事業ハ同省ニ於テ主掌セラル、コトトナリ、隨テ簡易生命保險及郵便年金ノ兩特別會計ハ、之ヲ同省ニ移管スルコトトナリマスルガ、簡易生命保險及郵便年金ノ現業事務及ビ右現業事務ノ管理ニ關スル事務ハ、之ヲ遞信省及遞信大臣ノ管理ニ屬スル官署ニ於テ取扱フコトト致シマスル關係上、是ガ取扱ニ要スル經費ヲ通信事業特別會計ニ所屬セシメ、其財源ニ相當スル金額ヲ右ノ兩特別會計ヨリ通信事業特別會計ニ繰入ル、コトトスルニ必要ナル會計上ノ處理ニ關スル規定ヲ設クル爲メ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス

山崎劔二君質疑シ田島遞信政務次官應答ス

山崎劔二君ノ質疑

簡單ニ箇條的ニ五點程御伺致シマス、保健社會省ノ新設ニ伴ヒマシテ、此事業ガ新省ニ依ッテ行ハレルコトハ、只今ノ御説明デ承ッテ居ルノデアリマスルガ、ソレニ依リマシテ遞信省關係ガ實際ノ勧誘其他ノ事務ヲ扱フヤウニ承知スルノデアリマス、ソコデ第一ニ御伺シタイト思ヒマスルコトハ、此保險ヲ扱フニ當リマシテ、昭和十年度ノ簡易保險局ノ年報ニ依ッテ見マスルト、月掛五十錢以下ノ掛金ノ加入者ノ新契約ガ非常ニ少イノデアリマス、ドウ云フ譯カト思ッテ居リマシタ所ガ、偶々一ノ例ヲ私見タノデアリマスル、ソレハ静岡縣下ニ於テ行ハレタコトデゴザイマス、或ル郵便局デ募集致シマスル際ニ、五十錢以下ノ少額者ノ加入ヲ取ルト云フコトハ非常ニ面倒デアアル、手間ガ掛ルカラ、サウ云フモノハ成ルベク取ラヌヤウニシテ居ルノダト云ッテ、事實加入申込ヲ爲シタル者ヲ斷ッテ、郵便局ガ扱ハナカッタ事例ガアッタノデアリマス、其關係者ガ當局ニ對シテ質問書其他ヲ出シマシタ所ガ、左様ナコトハナイト思フカラ、關係當局ヘ言ッテヤルト云フ回答ハ參ッテ居リマスガ、其儘ニナッテ居ルノデゴザイマス、是ハ其扱ッタ沼津郵便局長ノ言明ノ如ク、當局ハ左様ナ極ク零細ナ掛金ヲ以テ、之ニ加入シヨウトスル者ノ



取扱ヲ煩瑣デアラカラ、之ヲ爲サシメナイ方針デアアルカドウカト云フコトヲ、先ヅ第一ニ伺ッテ置キタイノデアリマス、第二點ハ、此保險料ノ金額ト云フモノガ僅カニ四五百圓ノモノデゴザイマスケレドモ、今日社會情勢モ非常ナル變化ヲ來シテ居リマス、故ニ之ヲ千圓程度位ニ引上ゲル意思アリヤナシヤ、此點ヲ御伺シタイノデアリマス、此千圓程度ニ引上ゲルコトガ、群小ノ保險營利事業會社ノ營業ヲ壓迫スルト云フヤウナ言動ノ下ニ、一部ニ反對シテ居ル向ガアルサウデアリマス、併ナガラ國民ノ健康乃至生命ノ保險ヲスルコトハ、少數營利會社ノ手ニ依ッテノミ萬全ヲ期セラル、コトデナイコトハ勿論デゴザイマス、仍テ是等ノ國民ノ殆ド中以下ニ位シテ居ル人達ノ生命ヲ保險シヨウトスレバ、少數ノ營利業者ヲ壓迫スルト云フ、二ツノ立前ニ立ッテ、ドチラカラ採ラナケレバナラヌト云フコトニ今日ナッテ居ルノデハナイカ、吾々ハ斯様ニ推察スルノデアリマス、ソコデ先ヅ第一ニ左様ナコトハ今日ノ國民生活安定、保險政策ヲ徹底サセヨウトスル場合ニ於テハ、ドチラカラ採ラナケレバイカヌ、ドチラ採ルカト云ヘバ、ドウシテモ是ハ千圓程度ニ引上ゲル方ガ宜イト考ヘルノデアリマスルガ、其點ニ付テ政府ハ如何ニ御考ニナッテ居ルカ、之ヲ第二點トシテ御伺致シマス、第三點ト致シマシテハ、此引上ニ依ッテ來ルモノハ當然群小營業者ノ壓迫デアリマス、之ニ付テ是等ヲ政府ガ積極的ニ整理統合シテ、寧ロ是等ヲ一ツノ保險國營政策ノ立前ニ立チマシテ、之ヲ直接政府ガ取上ゲテシマフ——取上ゲルト云フコトハ語弊ガアリマスガ、綜合シテ一ツノ國營保險事業ニ移シテシマフ方針ヲ執ラル、コトガ必要デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、第三點ト致シマシテ、保險國營ヲ斷行スルノ意思アリヤナシヤ、此點ヲ御伺致シマス、ソレカラモウ一點最後ニ御伺致シタイト思ヒマスルコトハ、保險料金ノ引下ヲ爲ス意思ガアルカドウカ、斯ウ云フ點デアリマス、創業以來相當ノ年月ヲ經テ居リマスカラ、其營業モ統計ヲ以テ見レバ飛躍的ニ伸ビテ居ルノデアリマス、サウナレバ勢ヒ料金ガ自然ニ下ッテモ、是ハ當然ナノデアリマスケレドモ、其料金率ノ引下ト云フコトハゴザイマセヌ、保險會社ノ營業率カラ見レバ、私ハ約二割程度ノ高率デアルト考ヘルノデアリマス、併ナガラ二割程度ノ高率モ、月集メニ來テ吳レルト云フ一

ツノ便宜ガアリマスル爲ニ、之ニ對スル加入ガ相當アルノデハナイカ、殊ニ各郵便局ニ強制的ニ割當テテ、之ヲ全國的ニ徵募スル關係上相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ル、只今コ、デ二割乃至三割ノ引下ヲ斷行シテモ、國庫ニ對シテ損害ヲ掛ケルヤウナコトハナイ、保險ハ十分立チ得ル、斯様ニ統計ノ上カラ見テ考ヘルノデアリマスガ、之ヲ政府ハ斷行セラル、意思アリヤナシヤ、斯ウ云フ點ヲ御伺致シタイト思ヒマス、附帶致シマシテ、ソレ等ノ保險積立金ヲ以テ、政府ノ公債發行ニ對シテ之ヲ引受ケルコトニノミ政策ヲ振向ケテ行キマスルナラバ、將來保險關係ノ低利資金政策ノ上ニ於テモ非常ナル支障ヲ來シテ來ハシナイカ、是等ノ集ッタモノハ、ドウセ零細ナル中以下ノ大衆ノ金デアッテ——何万圓ト云フ生命保險ヲ掛ケルコトノ出來ナイ人達ノ利用機關デアリマスカラ、謂ハバ庶民階級ノ生活ヲ安定セシメル機關ニ依ッテ零細ニ集メタモノデアリマス、隨テ其利用方法ハ成ベク之ヲ結核豫防費用トカ、或ハ其他ノ細民階級ノ保健衛生ノ爲ニ、殊ニ是ハ十分ニ全部的ニモ使用シナケレバナラヌト思フノデゴザイマス、是等ニ對スル當局ノ御所信ハ如何デゴザイマスルカ、之ヲ御伺致シマス、以上簡單デゴザイマスルガ御伺致シマス

田島遞信政務次官ノ應答

山崎君ノ御質疑ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、第一問ハ簡易保險募集ノ上ニ於キマシテ、五十錢以下ノ保險料金ノモノヲ加入セシメルコトヲ濫ッテ居ルヤウナ傾向ガアルヤウデアアルガ、ソレハ不都合デハナイカト云フヤウナ御尋デアッタヤウニ思ヒマス、此點ニ付テ御答ヲ申上ゲマスルガ、簡易保險ノ月掛料金ハ十錢ヲ最低ト致シマシテ、ソレヨリ以上十錢刻ミニナッテ居ルノデゴザイマス、ソレデ加入者ハ如何ナル料金ノモノニモ加入シ得ルコトハ勿論デアリマシテ、募集従事員ト致シマシテハ仕事ニ熱心デアリマス餘リニ、成ベク保險金ノ高額ナルモノヲ募集スルコトヲ欲スルヤウナ傾向ハアルコトト存ジマスルケレドモ、申上ゲマスル通り二十錢以上十錢刻ミニナッテ居リマシテ、成ベク少額ノ保險モ之ヲ取扱フコトガ本事業ノ精神デモゴザイマスルカラ、



其點ニ付キマシテ當局ト致シマシテ少額ノ保險募集ト云フコトヲ澁ッテ、高イ方ヲ獎勵スルト云フヤウナ精神ヲ以テ、此事業ヲ經營シテ居ルト云フヤウナコトハ、毛頭アリマセヌト云フコトヲ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、次ハ此簡易保險ノ最高金額ヲ千圓ニ引上ゲル意思ハナイカドウカト云フ御尋デゴザイマスルガ、此點ニ付キマシテ以前ニ保險ノ最高金額ヲ引上ゲマスル際ニ、相當ノ議論ガアッテ多少ノ摩擦ヲ生ジマシタコトハ御存ジノ通りデゴザイマス、目下社會保健省ノ設置將ニ成ラントシテ居ル際デゴザイマシテ、此問題ハ何レ新設省ニ於テ適當ニ研究ヲサレルコトト存ズルノデゴザイマスルガ、大體ニ於キマシテ既存保險事業ト多少ノ衝突摩擦ヲ生ズルコトトデゴザイマスカラ、慎重ニ研究調査ヲ致シマシタ上ニ、實行ヲスル法案ヲ定メルコトガ必要デアラウト考ヘルノデアリマス、第三番目ニ保險事業ノ整理統合ヲ圖リマシテ、之ヲ國營ニ移スヤウナ意思ハナイカト云フ御尋デゴザイマスルガ、本件ニ付キマシテモ前ノ御質疑ニ御答申シマシタノト同様ニ、新設社會保健省ニ於テ考慮サレルコトデアラウト考ヘルノデアリマスガ、既ニ今日マデニ此新シキ省ノ設置ヲ決定サレル場合ニ於ケル根本ノ方針ト致シマシテ、參與制度ノ如キモノヲ設ケテ、慎重ニ總テノ問題ヲ考究スルコトニナッテ居ルノデゴザイマスルカラ、何レ新設省ノ設立後ニ於キマシテ、適當ノ解決ガアルコトト信ズルノデアリマス、最後ニ保險料金ノ引下ヲ考ヘテハ居ラヌカト云フヤウナ御尋デアリマスルガ、本件ニ付キマシテハ、經理ノ成績ニ鑑ミマシテ還付金ノ制度ヲ設ケマシテ、普通ノ言葉デ申シマスルト、料金ノ拂戻デゴザイマスルガ、サウ云フ制度ヲ設ケマシテ、適當ノ年限繼續ヲ致シマシタ被保險者ニ對シマシテハ、保險料低減ト同一ノ效果ヲ奏スルヤウナ措置ヲ執ッテ居ルノデアリマス、是ダケ御答申上ゲマス

次テ本案ハ政府提出陪審法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ八月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月四日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長漢那憲和君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

私ハ只今議題ニ相成ッテ居リマスル通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告致シタイト思ヒマス、委員會ハ八月二日ニ本案ニ關スル政府ノ説明ヲ聽キマシテ、翌三日ニ質問ニ入りマシタ、サウシテ三等郵便局ニ於ケル簡易保險從事員ノ待遇改善ノ問題、簡易保險金制限額引上及ビ同料率引下ニ關スル問題等ニ付テ質疑應答ガ重ネラレマシタ後討論ニ入りマシテ、民政黨ノ岡野龍一君カラ原案賛成ノ陳述ガアリ、次イデ政友會ノ田代正治君及ビ第一議員俱樂部ノ石坂繁君ガ賛成ノ意見ヲ述ベラレマシタ、又社會大衆黨ノ山崎劔二君カラ、政府ハ三等郵便局ニ於ケル簡易保險從事員ノ待遇改善ノ爲メ適當ナル案ヲ立テ、實現ヲ期セラレタイト云フ希望ヲ附シテ、賛成意見ヲ述ベラレタノデアリマス、斯様ニシテ採決ノ結果滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決セラレマシタ、以上御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月七日可決奏上シ同月十六日法律第八十號ヲ以テ公布セラル

二七 貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案(貴族院送付)



第一條 政府ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ貿易審議會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一 貿易ニ關スル條約又ハ之ニ準ズベキモノニ依リ貿易ヲ調節セントスルトキ

二 國際收支ノ適合ヲ圖リ又ハ特定國トノ輸出及輸入ノ均衡ヲ圖ル爲貿易ヲ調節セントスルトキ

三 貿易業者ノ不當ナル競争ニ因リ輸出品又ハ輸入品ノ海外市場ニ於ケル價格ノ著シキ低落又ハ騰貴其ノ他貿易上ノ弊害ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ之ヲ矯正シ又ハ豫防セントスルトキ

四 國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲重要物資ノ供給ヲ適正ナラシメントスルトキ

第二條 政府ハ前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ヲシテ輸出品又ハ輸入品ニ付統制ヲ行ハシムル必要アリト認ムルトキハ統制協議會ヲシテ其ノ統制ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第三條 政府ハ輸出品又ハ輸入品ニ關スル統制ニ付輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ

輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ間ノ共同ノ利害ヲ調整スル爲必要アリト認ムルトキハ統制協議會ヲシテ其ノ調整ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第四條 政府ハ前二條ノ場合ニ於テ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ貿易審議會ノ議ヲ經テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ニ對シ統制協議會ノ議決シタル事項ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ定ムルモノノ外貿易審議會及統制協議會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限若ハ禁止、第二條ノ統制又ハ第三條ノ利害調整ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價



額ヲ追徴スルコトヲ得

第九條 第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第七條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前三條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限り其ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

二八 貿易組合法案(貴族院送付)

貿易組合法

第一章 貿易組合

第一節 總則

第一條 貿易組合ハ輸出組合及輸入組合ノ二種トス

第二條 貿易組合ハ貿易ノ振興ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

第三條 貿易組合ハ法人トス

第四條 貿易組合ハ其ノ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合又ハ輸入組合ナル文字ヲ用フベシ

第二章 議事 第三節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 三四七



貿易組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合、輸入組合又ハ貿易組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條 主務大臣ハ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第六條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ事實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第八條 非訟事件手續法第四百一條乃至第五百一條ノ六、第五百十四條乃至第五百十八條及第六十五條並ニ産業組合法第五條、第六條、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ貿易組合ニ之ヲ準用ス

第二節 輸出組合

第九條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者又ハ同一市場ヲ目的トシテ商品ノ輸出ヲ業トスル者ハ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十條 同一又ハ重複スル地區ニ於テ二箇以上ノ同種ノ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 輸出組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組合員ノ營業ニ關スル統制
- 二 組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ斡旋、保管、選別、包裝、荷造其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設
- 三 海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ノ取扱商品ノ買取輸出、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十二條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ貿易ノ振興上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得



第十三條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第十四條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十五條 輸出組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經テ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスル場合亦同ジ

第十六條 輸出組合第十一條第一項第一號ノ事業ニ關スル定款ノ規定又ハ前條ノ規程ヲ定メ又ハ變更セントスル場合ニ於テ總會ノ可決セザリシトキト雖モ貿易ノ振興上組合員ノ營業ノ統制ヲ圖ル必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ總會ヲ開キ總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總組合員ノ輸出高ノ三分ノ二以上ヲ占ムル組合員ノ同意ヲ以テ之ガ議決ヲ爲スコトヲ得但シ第九條第一項但書ノ規定ニ依リ設立シタル組合ニ在リテハ取扱商品毎ニ各總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總組合員ノ輸出高ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十七條 輸出組合第十五條ノ規程ニ基キ組合又ハ組合員ノ輸出數量、輸出價格其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ  
主務大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十八條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ貿易ノ振興上特ニ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ノ組合員、其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合ノ組合員タル資格ヲ有セザル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノ若ハ其ノ組合ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十九條 前條ノ規定ニ依リ主務大臣輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ統制ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ商品ガ其ノ統制ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第二十條 主務大臣第十八條ノ規定ニ依リ輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ統制ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保税地域内ニ於テ又ハ店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ輸出組合ノ検査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得  
第一項ノ場合ニ於テ當該官吏第十八條ノ規定ニ依ル命令又ハ前條ノ規定ニ違反シテ商品ノ輸



出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得  
臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第二十一條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者ヲ以テ設立セル輸出組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物產同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セズ又ハ之ヨリ脫退スルコトヲ得

第二十二條 輸出組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
前項ノ同意ヲ得ルコト能ハザルトキト雖モ特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第二十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第七號乃至第九號、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定
- 六 組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
- 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定



- 九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
- 十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
- 十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 十二 役員ニ關スル規定
- 十三 會議ニ關スル規定
- 十四 會計ニ關スル規定
- 十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 第二十六條 輸出組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス
- 第二十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ  
組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得
- 第二十八條 第十一條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行ハザル輸出組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得
- 第二十九條 組合員ノ責任ハ第十三條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第三十條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第三十一條 輸出組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲グル事項竝ニ第二十五條第七號ニ掲グル事項、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲グル事項竝ニ第二十五條第七號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

- 一 第二十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲グル事項
- 二 事務所
- 三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
- 四 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額
- 五 成立ノ年月日



## 六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲グル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ

理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第三十三條 輸出組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第二十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第四十五條第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第三十四條 第十一條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸出組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第十八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ノ理事ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第三十六條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得  
代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ



第三十七條 經費ヲ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スベシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半数以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スベシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 組合員タル資格ヲ有スル者輸出組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三十九條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第四十條 検査ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クベシ

検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十二條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入

方法、定款又ハ第十五條ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第四十四條 輸出組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ノ取消

二 役員ノ解任

三 事業ノ停止

四 解散

第四十五條 主務大臣貿易ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ輸出組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ輸出組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ



前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第四十七條 主務大臣第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ輸出組合ノ理事  
 及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ第十一條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フ  
 コトヲ得ズ

第四十九條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合  
 員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第五十條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ  
 第五十一條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十二條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書  
 面、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事及

監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主務大臣  
 ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル  
 書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ  
 シテ主務大臣ノ處分ニ因ラズシテ成立シタルモノ又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在  
 リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添  
 附スルコトヲ要セズ

第五十三條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リ  
 テ之ヲ爲スベシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及  
 監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前ニ  
 登記ノ申請ヲ爲シタル申請人が同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證ス  
 ル書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催  
 告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述べタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ  
 供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ



第五十四條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

輸出組合ガ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スベシ

第五十五條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

第五十六條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條及第七十三條乃至第八十三條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第三百三十八條ノ三、第三百七十五條、第三百七十六條及第三百七十八條並ニ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條、第三十六條、第三十八條ノ二乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十條、第六十二條ノ二、第六十二條(第

一項第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第七十三條、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定(第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ付テハ産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第五十三條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第一號第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク)ハ輸出組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ二週間トシ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ主務大臣トス

### 第三節 輸入組合

第五十七條 同一種類ノ重要輸入品ノ輸入ヲ業トスル者又ハ同一市場ヨリノ商品ノ輸入ヲ業トスル者ハ輸入組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸



入品ノ輸入ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸入品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五十八條 輸入組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ營業ニ關スル統制

二 組合員ノ取扱商品ノ委託輸入、輸入ノ斡旋其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

三 海外市場ノ調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ賣渡ス目的ヲ以テ爲ス其ノ取扱商品ノ輸入、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第五十九條 前條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行ハザル輸入組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第六十條 第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依ル輸入組合ハ第五十八條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第六十一條 第五十八條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸入組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ

第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第十八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依ル輸入組合ノ理事ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テハ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第三十三條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第六十二條 第二節ノ規定ハ輸入組合ニ之ヲ準用ス

### 第二章 貿易組合聯合會

第六十三條 貿易組合聯合會ハ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會及輸出入組合聯合會ノ三種トス

第六十四條 貿易組合聯合會ハ所屬ノ貿易組合及貿易組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達成スルヲ以テ目的トス

第六十五條 貿易組合聯合會ハ法人トス



第六十六條 貿易組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會又ハ輸出入組合聯合會ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會、輸出入組合聯合會又ハ貿易組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六十七條 輸出組合聯合會ハ輸出組合又ハ輸出組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

輸入組合聯合會ハ輸入組合又ハ輸入組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

輸出入組合聯合會ハ輸出組合又ハ輸出組合聯合會及輸入組合又ハ輸入組合聯合會ヲ以テ之ヲ

組織ス

第六十八條 貿易組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用シタル第

四十五條ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及

聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役

員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六十九條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十四條ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依ル貿易組合聯合會

ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七十條 貿易組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第七十一條 貿易組合ニ關スル規定ハ第十六條及第五十六條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外貿易組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十一條及第五十八條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トシ、第十八條中其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合ノ組合員タル資格ヲ有セザル者ニシテ其ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲ス者若ハ其ノ組合ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲ス者トアルハ所屬ノ組合又ハ聯合會ニ非ズシテ所屬ノ組合又ハ聯合會タル資格ヲ有スル組合又ハ聯合會トシ、第三十四條及第六十一條中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

### 第三章 貿易組合中央會

#### 第二章 議事

##### 第三節 議案

##### 第二款 議案ノ討議及表決

##### 第四項 法律案